

番号	遺構名 出土地点	器種	残存 率	口径 (cm)	体部 最大 径(cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他 の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
77	B区 ST1005	土師器 鍋	10%	26.0	-	-	鏝径 (29.8)	(8.5)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:指オサエ後 板ナデ 内)口縁部:ヨコ方向の板ナデ、体部:タテ方向の板 ナデ	外)明赤褐 内)明赤褐	結、赤、雲、 長	
78	B区 ST1005	土師器 脚	10%	-	-	-	-	-	-	外)その他:指オサエ後指ナデ	内・外)にぶい赤褐	雲、石、長	
79	C区 ST1006	土師器 茶釜	10%	21.0	-	-	鏝径 (24.9)	(4.0)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後タテ方向の 板ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ヨコナデ 口縁部に穿孔あり	外)橙 内)にぶい黄橙	石、雲、結	
80	C区 ST1006	土師器 羽釜	9%	29.0	-	-	鏝径 (32.0)	(5.3)	-	外)口縁部:板ナデ・板状圧痕・指オサエ後ナデ、体 部:指オサエ後板ナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:指オサエ後 板ナデ	外)橙 内)明赤褐	長、雲、石、 赤	
81	C区 ST1006	土師器 羽釜	10%	30.2	-	-	鏝径 (32.1)	(8.5)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:指オサエ後 板ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後板ナデ	外)明黄褐 内)にぶい黄橙	長、赤頁、 石	
82	C区 ST1006	土師器 羽釜	11%	26.2	-	-	鏝径 (29.4)	(6.2)	-	外)口縁部:指オサエ後回転ナデ、体部:指オサエ 後板ナデ 内)口縁部:回転ナデ後指オサエ、体部:ヨコ方向の 板ナデ	外)明黄褐 内)にぶい黄橙	石、雲、結	
83	C区 ST1006	土師器 羽釜	10%	26.5	-	-	鏝径 (30.1)	(11.7)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後タテ方向の ナデ、体部:斜位のナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ヨコ方向の 板ナデ・ヨコ方向の板ナデ後タテ方向の板ナデ	外)オリブ褐 内)浅黄	結、長、石、 赤	
84	C区 ST1006	土師器 羽釜	10%	25.05	-	-	鏝径 (28.9)	(9.2)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:指オサエ後 板ナデ 内)口縁部:指オサエ後板ナデ	外)褐 内)明黄褐	長、雲、石	
85	C区 ST1006	土師器 脚	-	-	-	-	-	-	-	外)その他:指ナデ・指オサエ 内)その他:指ナデ・指オサエ	外)橙	石、長、結	
86	C区 ST1006	土師器 羽釜(脚 部)	-	-	-	-	-	-	-	外)その他:指ナデ・指オサエ 内)体部:ナデ	内・外)にぶい黄橙	石、長、雲	
87	C区 ST1006	土師器 脚	10%	-	-	-	-	-	-	外)その他:指オサエ後指ナデ 内)体部:指オサエ後ナデ	外)橙 内)明黄褐	長、赤頁、 頁、石	
88	C区 ST1006	土師器 脚	10%	-	-	-	-	-	-	外)体部:指オサエ その他:(脚部)指オサエ後指 頭によるナデ 内)体部:指オサエ後ヨコ方向の板ナデ	外)明黄褐 内)にぶい黄橙	石、雲、赤	
89	C区 ST1006	土師器 鍋	-	44.3	-	-	-	(4.0)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコ方向の板ナデ	外)浅黄橙 内)にぶい黄褐	長、雲、石、 赤	
90	C区 ST1006	土師器 鍋	10%	44.9	-	-	-	(10.3)	-	外)口縁部:ヨコナデ・ヨコ方向のナデ、体部:指オサ エ後ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後板ナデ	外)にぶい黄橙 内)明黄褐	石、雲、結	
91	C区 ST1006	土師器 鍋	-	40.8	-	-	-	(5.2)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ヨコナデ・タテ 方向の板ナデ 内)口縁部:ヨコ方向の板ナデ	外)にぶい橙 内)橙	雲、長、結	
92	A区 SU1001	陶器 播鉢	13%	-	-	-	-	(6.4)	-	外)体部:ヨコ方向の板ナデ 内)体部:ナデ後スリ目(3条/cm)・施釉(透明釉)	外)暗赤褐 内)にぶい赤褐	石、長	
93	A区 SU1001	陶器 播鉢	10%	-	-	13.0	-	(8.2)	-	外)体部:回転ナデ、底部:ナデ 内)体部:スリ目(10条/cm)	内・外)浅い赤みの ブラウン	石、雲	
94	A区 SU1001	瓦器 瓦	-	-	-	-	-	-	-	外)体部:板ナデ 内)体部:縄タキ・板ナデ	外)黄灰		
95	A区 SU1001	壁土	-	-	-	-	-	-	重量 224.5g	表面全体に混入材と思われる圧痕が顕著に残る	外)明赤褐	石、長	
96	A区 SU1001	壁土	-	-	-	-	-	-	重量 340.7g	表面全体に混和材の薬圧痕が顕著に残る	外)褐	石、長、雲	
97	A区 SU1001	壁土	-	-	-	-	-	-	重量 431.8g	表面のあらゆるところに薬の圧痕が残る	外)灰褐	石、長、雲	
98	B区 SP1023	土師器 鍋	-	35.0	-	-	-	(4.5)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ヨコナデ 内)口縁部:ヨコナデ	外)にぶい黄褐 内)にぶい褐	雲、赤、長、 結	
99	C区 SP1047	磁器(青 磁)碗	-	13.4	-	-	-	(3.5)	-	外)口縁部:ロクロナデ・蓮弁文あり・施釉 内)口縁部:ロクロナデ・施釉	内・外)明るいグレイ みの緑		
100	C区 SP1059	磁器 碗	-	17.7	-	-	-	(19.5)	-	外)口縁部:ヨコナデ・施釉 内)口縁部:ヨコナデ・施釉、内外面細かい貫入	内・外)グレイみの オリブ	砂	
102	C区 SP1118	土師器 皿	10%	7.4	-	6.0	-	1.35	-	外)口縁部:ヨコナデ、底部:ナデ 内)口縁部:ヨコナデ	外)橙 内)橙	雲、結	
103	C区 SP1126	土師器 杯	25%	-	-	(7.0)	-	(1.5)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体底部:回転ナデ	外)灰白 内)淡黄	石、雲、赤	
104	C区 SP1141	土師器 杯	30%	-	-	9.5	-	(1.5)	-	外)体底部:ナデ 内)体底部:回転ナデ	外)明褐 内)橙	石、赤、雲、 結	
105	C区 C-7 包含層	弥生 甕	25%	-	-	(7.0)	-	(2.8)	-	外)磨滅の為調整不明	外)橙 内)明黄褐	石	

番号	遺構名 出土地点	器種	残存 率	口径 (cm)	体部 最大 径(cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他 の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
106	C区 I-7 包含層	土師器 甕(古代)	10%	14.0	-	-	11.0	(3.7)	-	外)口縁部:ヨコナデ、頸部:タテ方向のハケ(4条/cm) 内)口縁部:ヨコナデ、頸部:ナデ	外)橙 内)にぶい黄褐	結、長	
107	C区 H-8 包含層	土師器 壺(古代)	50%	-	-	(8.6)	-	(1.8)	-	外)底部:ナデ 内)底部:ナデ	外)にぶい黄橙 内)灰白	長、赤	
108	A区 包含層	土師器 甕	10%	20.0	-	-	18.2	(4.6)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:磨滅の為調整不明 内)口縁部:ヨコナデ、頸部:磨滅の為調整不明	外)橙 内)赤橙	長、雲、赤	
109	C区 I-7 包含層	土師器 甕	11%	24.8	-	-	22.3	(4.0)	-	外)口縁部:タテハケ後ヨコナデ、頸部:タテハケ後指オサエ 内)口縁部:ヨコナデ・ナメ方向のハケ、体部:ハケ?後指オサエ	外)黒褐 内)橙	雲、長	
110	C区 C-3 包含層	土師器 甕	9%	29.8	-	-	-	(4.9)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ナデ	外)浅黄橙 内)浅黄橙	石、赤、雲、 結	
111	C区 H-8 包含層	土師器 甕	10%	30.2	-	-	(27.2)	(5.6)	-	外)口縁部:ヨコナデ、頸部:ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:ヨコ方向の板ナデ	外)にぶい黄 内)にぶい黄	雲、長、赤	
112	C区 包含層	土師器 茶釜?	15%	-	-	32.0	-	(9.0)	-	外)体部:板ナデ、底部:ハケ目 内)体底部:指オサエ?後板ナデ	外)橙 内)橙	石、雲、長、 赤	
113	B区 包含層	土師器 杯	33%	11.9	-	7.1	-	3.3	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	石、雲、結	
114	包含層	土師器 杯	16%	14.3	14.3	(8.8)	-	3.0	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ヘラ 圧痕 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	雲、赤	
115	包含層	土師器 杯?	42%	-	-	(7.0)	-	(1.8)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ヘラ圧痕 内)体底部:回転ナデ	外)橙 内)橙	石、赤、雲、 砂	
116	B区 包含層	土師器 杯	80%	11.5	-	6.5	-	3.3	-	外)口縁部:回転ナデ後指オサエ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ 内)口縁部:回転ナデ後一部ナデ	外)明赤褐 内)橙	雲、長、赤	
117	B区 E-9 包含層	土師器 杯	14%	11.5	-	6.4	-	2.8	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り?後 ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)明赤褐 内)明赤褐	雲	
118	C区 H-8 包含層	土師器 杯	8%	15.1	-	-	-	(2.5)	-	外)口縁部:回転ナデ 内)口縁部:回転ヨコナデ	外)灰白 内)浅黄橙	石	
119	C区 包含層	土師器 杯	40%	-	-	7.0	-	(2.5)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り?後ナデ 内)体底部:回転ナデ後指オサエ・ナデ	外)明赤褐 内)明赤褐	雲、赤	
120	C区 包含層	土師器 杯	95%	-	-	7.6	-	(1.2)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体底部:回転ナデ	外)橙 内)橙	雲、赤	
121	C区 I-7 包含層	土師器 杯	8%	12.2	-	-	-	(2.6)	-	外)口縁部:ナデ 内)口縁部:ナデ	外)橙 内)橙	結	
122	C区 G-8 包含層	土師器 杯	15%	11.0	-	-	-	(3.2)	-	外)口縁部:ナデ 内)口縁部:ナデ	外)橙 内)明赤褐	雲、片、赤	
123	C区 包含層	土師器 杯	9%	11.3	-	6.3	-	3.5	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り? 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	赤、雲、結	
124	C区 H-7・8 包含層	土師器 小皿	10%	10.2	-	8.7	-	2.0	-	外)口縁部:回転ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲	
125	C区 包含層	土師器 小皿	100%	7.2	-	6.0	-	1.4	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	結、赤	
126	C区 G-8 包含層	土師器 小皿	30%	7.8	-	4.7	-	1.2	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	結、赤	
127	C区 I-7 包含層	土師器 小皿	90%	7.5	-	4.9	-	1.3	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	結、赤	
128	C区 包含層	土師器 小皿	36%	8.4	-	5.3	-	1.6	-	外)口縁部:回転ナデ、体部:ナデ、底部:ヘラ切り 内)口縁部:回転ナデ、体底部:ナデ	外)橙 内)橙	石、雲、赤	
129	C区 包含層	土師器 小皿	65%	7.3	-	6.0	-	1.3	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	赤、雲、 長	
130	B区 C-9 包含層	土師器 小皿	90%	7.8	-	5.9	-	1.4	-	外)口縁部:ナデ、底部:指オサエ 内)口縁部:ナデ	外)灰 内)灰	結	
131	C区 H-8 包含層	土師器 皿	25%	-	-	6.1	-	(1.0)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体底部:回転ナデ	外)橙 内)橙	雲、長	
132	C区 H-8 包含層	土師器 小皿	20%	6.8	-	5.2	-	1.0	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲、結	
133	C区 H-6 包含層	土師器 小皿	10%	7.0	-	5.0	-	1.5	-	外)口縁部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁部:回転ナデ	外)橙 内)橙	雲、結	
134	C区 G-9・10 包含層	土師器 皿	10%	6.6	-	4.7	-	1.5	-	外)口縁部:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁部:回転ナデ後ナデ	外)橙 内)橙	雲、結	
135	B区 包含層	土師器 茶釜	14%	16.0	-	-	-	(4.2)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ	外)橙 内)橙	長、雲、石	

番号	遺構名 出土地点	器種	残存 率	口径 (cm)	体部 最大 径(cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その 他の 法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
136	B区 包含層	土師器 茶釜	18%	17.7	-	-	-	(4.4)	-	外)口縁部:ヨコナデ後指オサエ、体部:指オサエ後タテ方向の板ナデ 内)口縁部:ヨコ方向の板ナデ、体部:指オサエ後板ナデ	外)浅黄橙 内)浅黄橙	長、石、結、赤	
137	C区 包含層	土師器 茶釜	?	-	-	-	-	(5.7)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ、体部:指オサエ後板ナデ	外)橙 内)明黄褐	石、長	
138	B区 包含層	土師器 羽釜	20%	24.4	-	-	鏝径 (28.0)	6.4	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ・ヨコナデ、体部:指オサエ後板ナデ、外面鏝下2cmから下側煤附着 内)口縁部:指オサエ後ハケ	外)浅黄橙 内)明黄褐	石、雲、赤	
139	B区 包含層	土師器 釜	8%	22.4	-	-	-	(4.7)	-	外)口縁部:ナデ、体部:指オサエ後ナデ、外面に煤附着 内)口縁部:指オサエ後板ナデ	外)にぶい橙 内)橙	長、石、赤、頁	
140	C区 包含層	土師器 羽釜	15%	26.05	-	-	鏝径 (28.75)	(7.3)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:ケズリ後指オサエ・ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:ケズリ後ナデ・指オサエ	外)橙 内)橙	長、赤、石	
141	C区 包含層	土師器 羽釜	16%	24.8	-	-	鏝径 (28.2)	(5.6)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:工具の当たった痕、口縁部:指オサエ後板ナデ	外)にぶい褐 内)にぶい褐	長、結、赤	
142	B区 包含層	土師器 羽釜	8%	28.3	-	-	鏝径 (33.0)	(3.0)	-	外)口縁部:ヨコナデ後指オサエ 内)口縁部:ヨコナデ	外)浅黄橙 内)浅黄橙	長、赤、石	
143	C区 H-7 包含層	土師器 羽釜(脚部)	-	-	-	-	-	-	-	外)その他:指ナデ・指オサエ 内)体部:ナデ・指オサエ	外)にぶい黄橙 内)橙	石、長、雲、砂	
144	B区 E-9 包含層	土師器 羽釜(脚部)	-	-	-	-	-	-	-	外)その他:指ナデ・指オサエ	外)にぶい褐	石、赤	
145	C区 包含層	土師器 脚	100%?	-	-	-	-	-	-	外)その他:指オサエ後ナデ 内)その他:指オサエ後ナデ	外)灰白 内)灰白	石、雲、長、赤、頁、頁	
146	C区 包含層	土師器 羽釜	13%	27.6	-	-	30.8	(7.0)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:ヨコ方向の板ナデ	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄橙	長、雲、結	
147	C区 包含層	土師器 羽釜	15%	22.8	-	-	鏝径 26.35	(6.2)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ・ナデ、体部:板ナデ後指オサエ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:板ナデ後指オサエ・板ナデ	外)浅黄橙 内)にぶい黄橙	石、雲、長、赤	
148	B区 E-8 包含層	土師器 羽釜	10%	25.2	-	-	鏝径 28.2	(3.5)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ	内)外)にぶい黄橙	長、雲	
149	C区 包含層	土師器 羽釜	13%	23.8	-	-	鏝径 (27.2)	(7.4)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ	外)明黄褐 内)明黄褐	石、雲、長、赤	
150	C区 H-7 包含層	土師器 鍋	9%	29.0	-	-	-	(6.3)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:板ナデ	外)にぶい褐 内)橙	石、雲、結	
151	C区 包含層	土師器 鍋	10%	28.0	-	-	-	(3.0)	-	外)口縁部:ナデ、体部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ナデ、ヨコ方向の板ナデ、体部:ナメ方向の板ナデ 外面に煤附着	外)にぶい黄橙 内)浅黄褐	長、赤、頁、石	
152	C区 H-7 包含層	土師器 鍋	15%	37.2	-	-	-	(6.0)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後タテ方向のナデ 内)口縁部:ヨコナデ・ヨコ方向の板ナデ、体部:ナデ	外)明褐 内)橙	長、雲、結	
153	B区 包含層	土師器 鍋	9%	35.1	-	-	-	(4.5)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:指オサエ後ナデ	外)明黄褐 内)明黄褐	長、赤、結	
154	C区 I-8 包含層	土師器 鍋	10%	30.1	-	-	-	(4.5)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ、体部:ナデ	外)明赤褐 内)明赤褐	結、長	
155	C区 包含層	土師器 鍋	7%	43.8	-	-	-	(5.3)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ 内)口縁部:ヨコ方向の板ナデ	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄橙	石、雲、長、赤	
156	B区 E-9 包含層	土師器 鍋	7%	32.6	-	-	-	(2.9)	-	外)口縁部:ヨコナデ、口縁部:指オサエ後ヨコナデ 内)口縁部:ヨコナデ	外)黒褐 内)橙	赤、結、長	
157	B区 包含層	土師器 鍋	10%	31.6	-	-	-	(5.4)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ヨコ方向のナデ、体部:板ナデ	外)にぶい黄橙 内)明黄褐	石、赤、雲、結	
158	C区 包含層	土師器 鍋	7%	46.4	-	-	-	(8.0)	-	外)口縁部:ナデ・ヨコ方向の板ナデ・ヨコ方向の板ナデ後タテ方向のハケ 内)口縁部:板ナデ(ヨコ方向後ナメ方向)	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄橙	石、雲、長、赤	
159	C区 包含層	土師器 鍋	14%	24.2	-	-	-	(5.6)	-	外)口縁部:指オサエ後板ナデ 内)口縁部:指オサエ後ヨコナデ	外)橙 内)橙	石、雲、長、赤	
160	C区 包含層	土師器 播鉢	10%	29.8	-	-	-	(6.0)	-	外)口縁部:指オサエ後ナデ 内)口縁部:ナデ、スリ目あり	外)橙 内)明赤褐	石、雲、結	
161	C区 包含層	土師器 こね鉢	16%	18.3	-	-	-	(4.8)	-	外)口縁部:回転ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲、石、長、片、赤粒	

番号	遺構名 出土地点	器種	残存 率	口径 (cm)	体部 最大 径(cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他 の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
162	C区 包含層	土師器 播鉢	23%	26.0	-	14.8	-	8.9	-	外)口縁体部:ハケ後指オサエ、底部:板ナデ後ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、口縁体部:板ナデ後スリ目	外)にぶい黄橙 内)灰黄褐	雲、長、赤	
163	C区 包含層	須恵器 碗	14%	19.6	-	-	18.4	(4.2)	-	外)口縁部:ナデ後板ナデ、体部:ナデ 内)口縁部:ナデ、体部:ナデ後板ナデ	外)灰白 内)灰白	赤頁、頁、 長	
164	C区 包含層	須恵器 ?碗	16%	16.4	-	-	-	(3.8)	-	外)口縁部:回転ナデ、体底部:回転ナデ後指オサ エ 内)口縁部:回転ナデ、体底部:回転ナデ後指オサ エ	外)淡黄 内)淡黄	石	西村系
165	C区 G-8 包含層	須恵器 碗	10%	14.8	-	-	-	(4.0)	-	外)口縁体部:ナデ 内)口縁体部:ナデ	外)灰白 内)灰白	雲、赤	
166	C区 包含層	須恵器 碗	20%	14.0	-	-	-	(3.5)	-	外)口縁体部:回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	内・外)口縁:灰 体部:灰白	石、雲	西村系
167	C区 包含層	須恵器 碗	30%	-	-	高台径 (6.0)	-	-	高台高 (0.5)	外)底部:はりつけ高台	外)灰白 内)灰白	長、頁	
168	C区 包含層	須恵器 杯	30%	-	-	5.7	-	-	-	外)体部:ハケ目?、底部:回転糸切り 内)底部:回転ナデ?後一方向のナデが3条施される	外)灰黄 内)灰	石、雲、赤	
169	C区 H-7 包含層	須恵器 甕	?	-	-	-	-	-	-	外)体部:タタキ 内)体部:ハケ後指オサエ	外)暗灰黄 内)にぶい黄	石、雲、長、 赤	
170	C区 G-8 包含層	須恵器 甕	?	-	-	-	-	-	-	外)体部:タタキ 内)体部:ナデ	外)灰 内)灰	長、結	
171	C区 H-6 包含層	須恵器 こね鉢	8%	24.8	-	-	-	(4.8)	-	外)口縁部:回転ナデ 内)口縁部:回転ナデ	外)灰 内)灰	石、結	
172	C区 G-8 包含層	須恵器 こね鉢	17%	36.0	-	-	-	(6.7)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:回転ナデ後指オサエ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ?指ナデ?	外)灰黄 内)灰黄	長、雲、結	
173	C区 I-7 包含層	須恵器 こね鉢	9%	35.4	-	-	-	(3.3)	-	外)口縁体部:ナデ 内)口縁体部:ナデ	外)黄灰 内)黄灰	石、長	
174	C区 包含層	陶器 壺	7%	20.8	-	-	19.8	(4.0)	-	外)口縁頸部部:ロクロ 内)口縁頸部部:ロクロ、 内外面施釉	内・外)暗いグレイ みのブラウン	赤頁	
175	C区 H-6 包含層	陶器 碗	5%	17.6	-	-	-	2.2	-	外)口縁体部:ナデ 内)口縁体部:ナデ 内外面施釉、貫入	外)にぶい黄 内)にぶい黄		
176	C区 包含層	陶器 播鉢	2%	43.0	-	-	-	(3.4)	-	外)口縁部:ナデ 内)口縁部:ナデ	外)赤 内)明赤褐	長、雲、石	
177	C区 G-8 包含層	青磁 碗	20%	15.8	-	-	-	(4.8)	-	外)口縁体部:ロクロナデ・施釉 内)口縁体部:ロクロナデ・施釉	内・外)グレイみの 黄緑		
178	C区 G-10 包含層	青磁 碗	42%	-	-	6.4	-	(2.2)	-	外)体底部:ロクロナデ・施釉 内)体底部:ロクロナデ・施釉 高台内面釉無し※畳付、高台内の一部(半周分) は無釉	内・外)グレイみの 黄		
179	C区 H-8 包含層	青磁 碗	6%	16.0	-	-	-	(2.9)	-	外)口縁部:ロクロナデ・蓮弁文・施釉 内)口縁部:ロクロナデ・施釉	内・外)グレイみの 黄緑		龍泉窯
180	C区 G-10 包含層	青磁 碗	5%	16.0	-	-	-	(2.9)	-	外)口縁部:ロクロナデ・蓮弁文・施釉 内)口縁部:ロクロナデ・施釉	外)暗い黄 内)暗い黄		
181	C区 包含層	白磁 小壺?	20%	5.1	7.3	-	-	(2.6)	-	外)口縁頸部部:ロクロナデ・施釉、体外部唐草文様 入る 内)口縁部:無釉、口縁頸部部:ロクロナデ・施釉 陽刻文	外)うすい黄緑 内)明るいグレイ		
182	B区 包含層	青磁 皿	70%	9.9	-	4.3	-	2.05	-	外)口縁体部:ロクロナデ・施釉、底部:ヘラ切り・無釉 内)口縁体底部:ロクロナデ・施釉	内・外)グレイみの 黄緑	結	龍泉窯
183	C区 G-11 包含層	白磁 碗	8%	12.4	-	-	-	(3.1)	-	外)口縁部:ロクロナデ、体部:ロクロナデ・施釉 内)口縁部:ロクロナデ、体部:ロクロナデ・施釉 口縁部内面無釉	外)黄みの白 内)黄みの白		
184	C区 包含層	磁器 碗	12%	10.8	-	-	-	(2.5)	-	外)口縁体部:施釉 内)口縁体部:施釉	外)黄みの白 内)黄みの白		

第9表 供養地遺跡発掘調査 出土遺物観察表 石器

番号	遺構名・出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
54	B区 ST1002	片岩 敲石	10.4	9.2	3.5	567	
185	包含層	砂質片岩・砥石・敲石	16.6	10.0	7.9	1880	

第10表 供養地遺跡発掘調査 出土遺物観察表 鉄製品

番号	遺構名・出土地点	器種	材質	長さ (Cm)	幅 (Cm)	厚さ (Cm)	重量 (g)	備考
101	C区 SP1113	釘	鉄	3.2	1.25	1.0	4.6	
186	B(仮) C-9 包含層	刀	鉄	28.2	2.2	1.8	120.4	刃の部分が全体的に欠けていて木の部分が残存している部分がある
187	B区 包含層	鍔 金具	鉄	18.8	2.9	1.0	79.4	
188	C区 包含層	鉋	鉄	8.1	1.1	0.8	13.0	
189	C区 包含層	釘	鉄	3.4	1.05	0.8	3.8	
190	包含層	釘	鉄	2.5	0.85	0.8	2.0	
191	B区 F-7 包含層	釘	鉄	3.9	0.9	1.2	4.1	
192	包含層	釘	鉄	5.7	2.0	0.3	6.58	
193	C区 I-8 包含層	釘	鉄	8.4	2.65	2.55	35.8	
194	C区 H-7 包含層	釘?	鉄	5.0	1.6	1.1	12.1	側面図の通りやや弧を呈する。復元すると環状になる可能性あり
195	C区 包含層	不明	鉄	4.6	2.6	1.4	19.1	



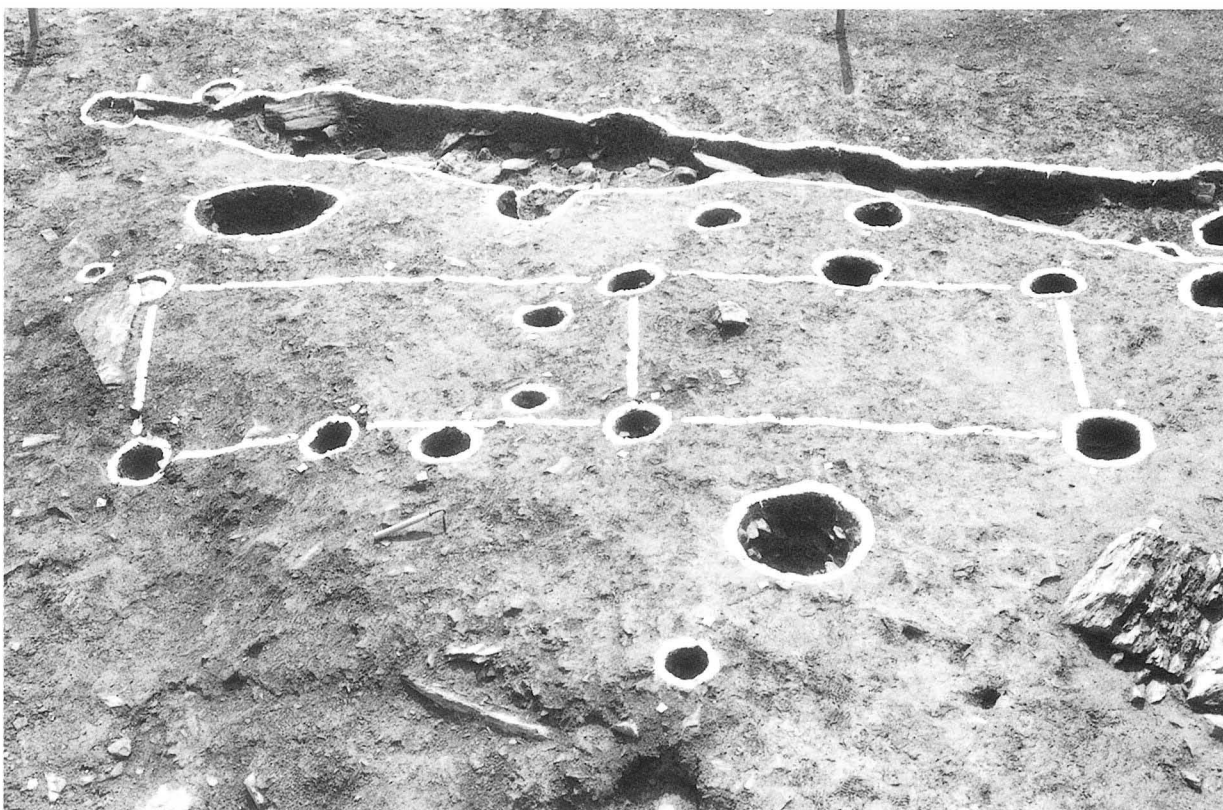
調査区全景（東から）



調査区全景（南から）



B区完掘状況（西から）



B区SA1001完掘状況



C区SJ1001検出状況（北から）



A区ST1001検出状況



B区ST1002検出状況（西から）



A区ST1001遺物出土状況



B区ST1002遺物出土状況



B区ST1002底部土器出土状況



B区ST1003ツラ出し



B区ST1003（羽釜）出土状況

图版 4



B区ST1003遺物出土状況



B区ST1003遺物出土状況



B区ST1003遺物出土状況



B区ST1005遺物出土状況



B区ST1005遺物出土状況



C区ST1006基底部検出状況



C区ST1006遺物出土状況



C区ST1006遺物出土状況



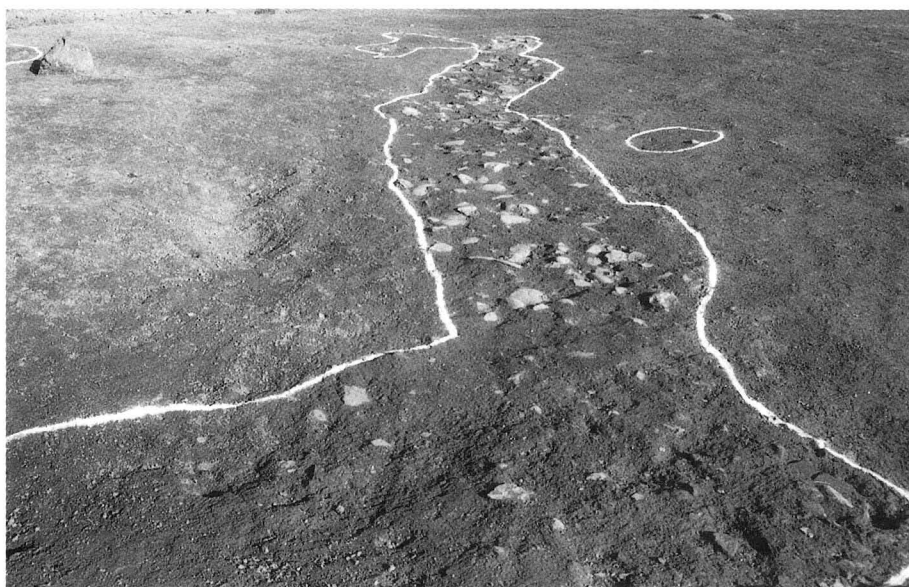
B区ST1002付近完掘
状況（西から）



B区ST1005基底部検出
状況



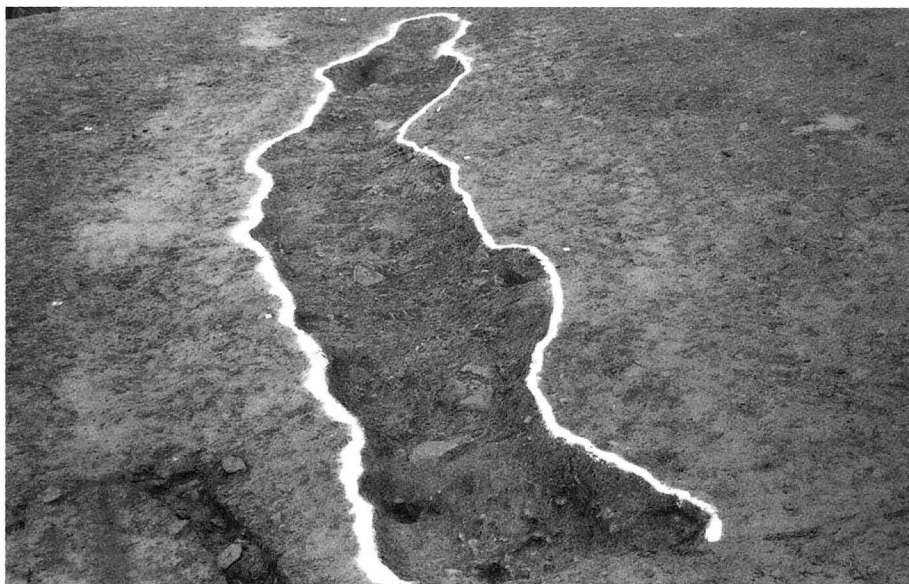
C区ST1006完掘状況
（東から）



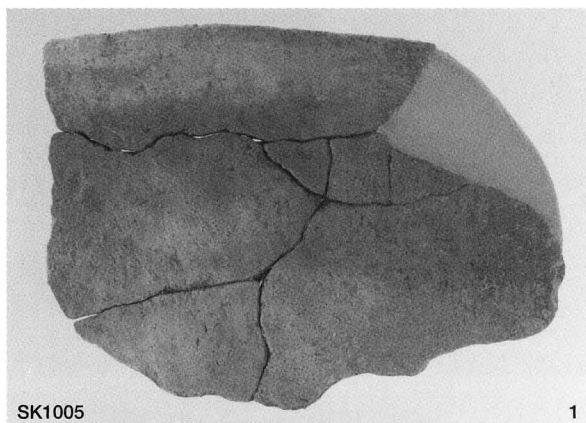
A区SU1001検出状況



A区SU1001礫出土状況

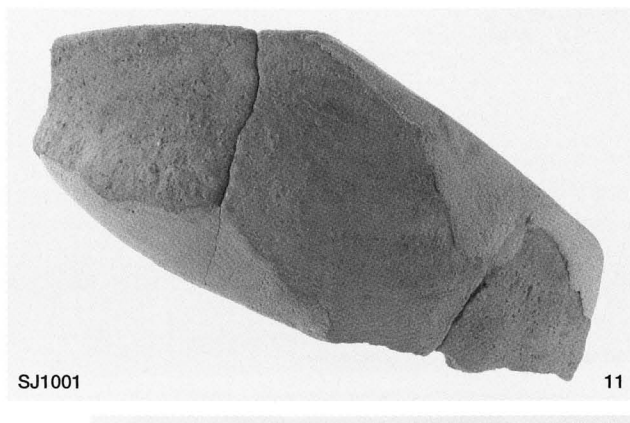


A区SU1001完掘状況



SK1005

1



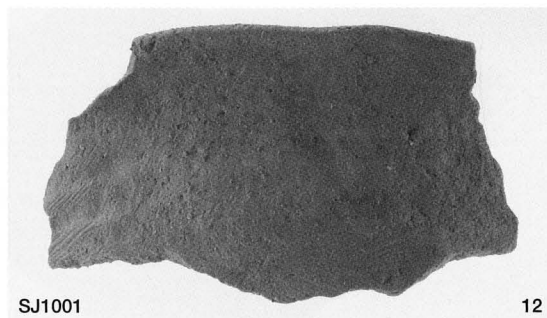
SJ1001

11



SO1002

2



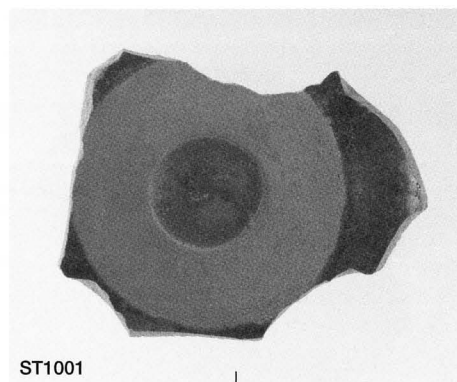
SJ1001

12



ST1002

16

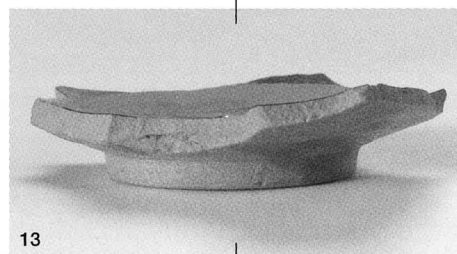


ST1001

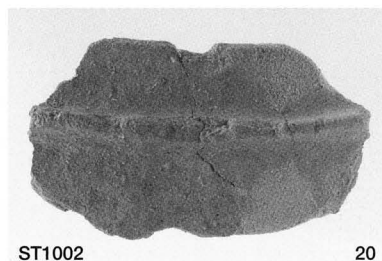


ST1002

17

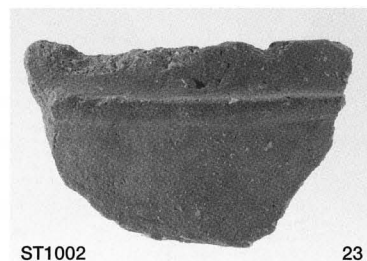


13



ST1002

20



ST1002

23

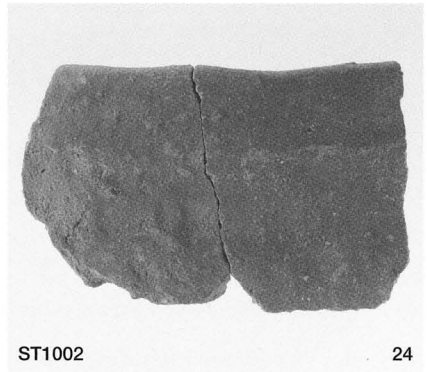


图版 8



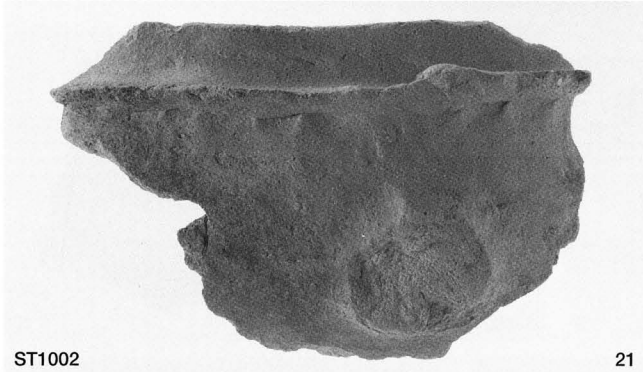
ST1002

22



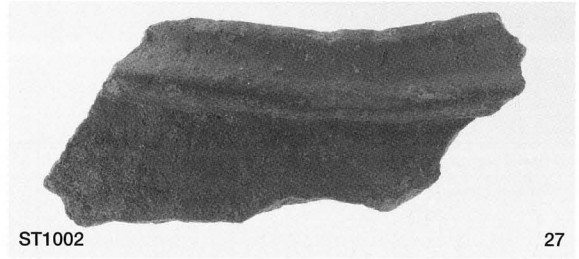
ST1002

24



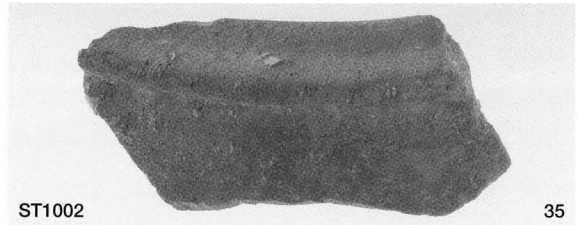
ST1002

21



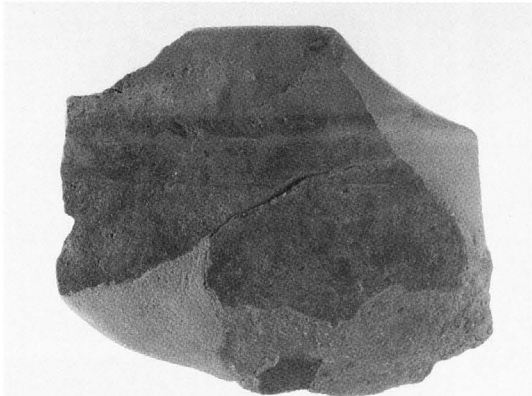
ST1002

27



ST1002

35



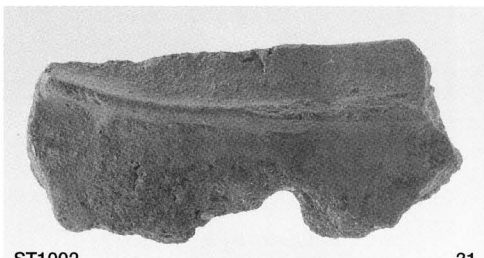
ST1002

25



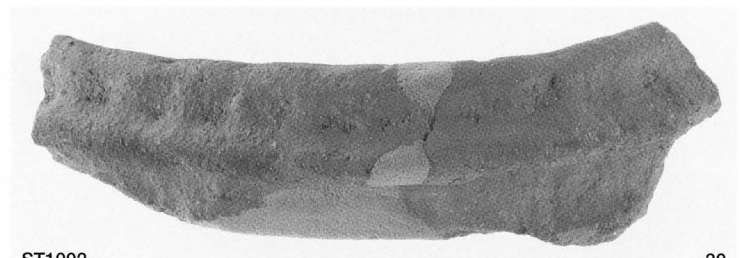
ST1002

41



ST1002

31



ST1002

30



ST1002

32



32



ST1002

33



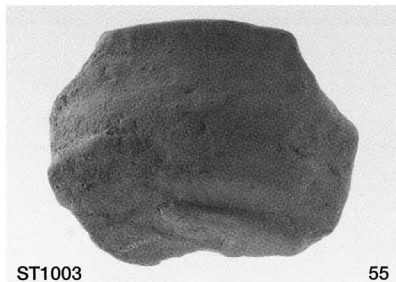
ST1002

37



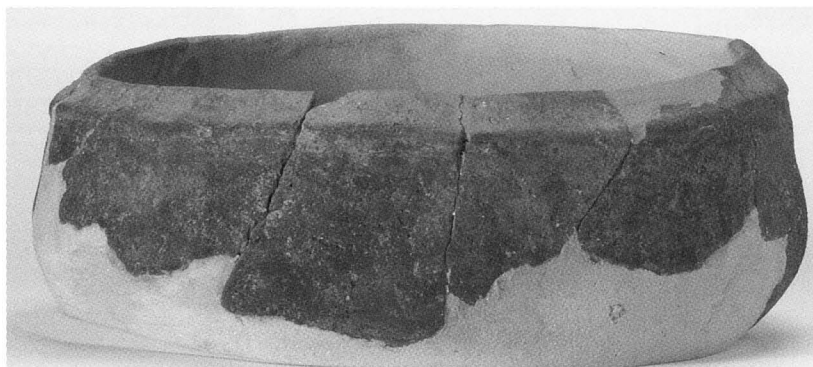
ST1002

40



ST1003

55



ST1002

38



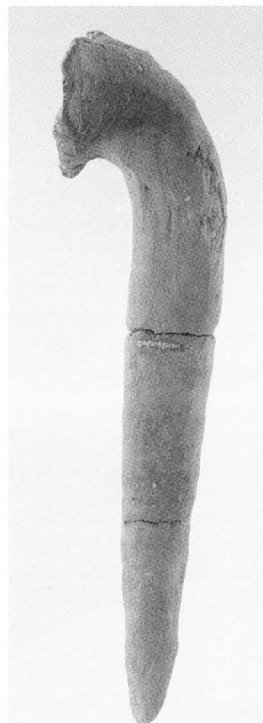
ST1003

59



ST1002

45



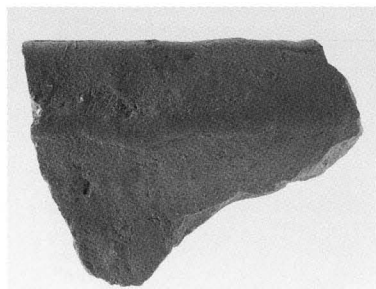
ST1002

43



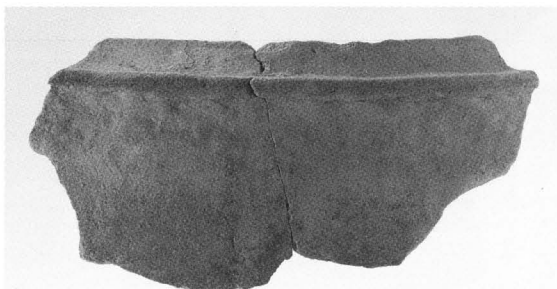
ST1003

63



ST1003

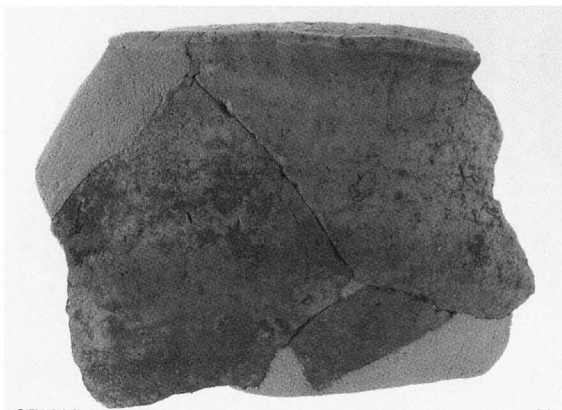
62



ST1003

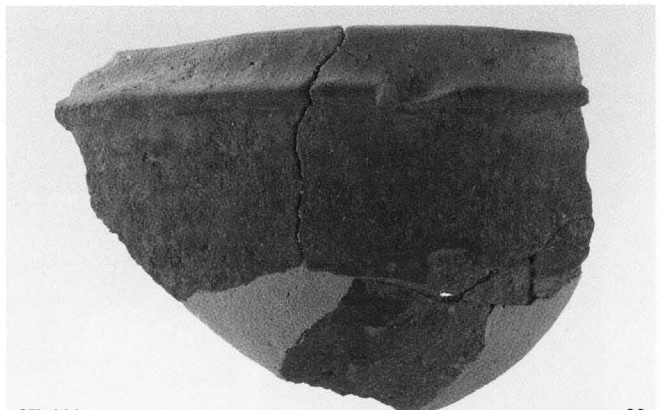
61

图版10



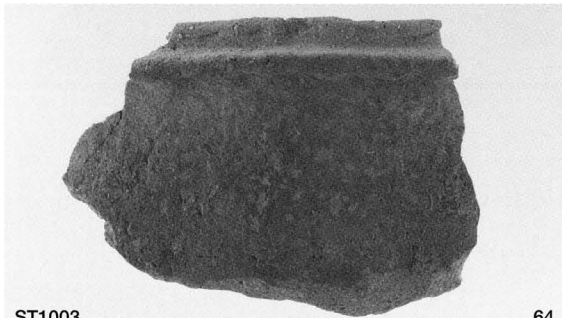
ST1003

60



ST1003

66



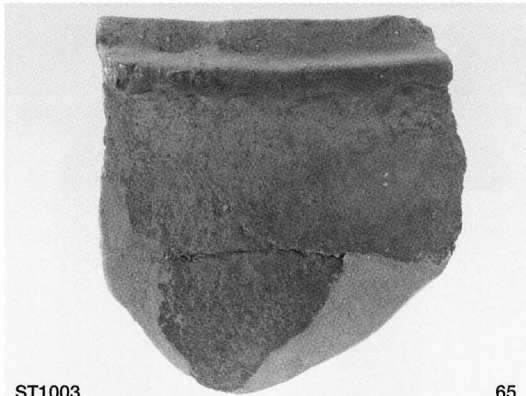
ST1003

64



ST1005

75



ST1003

65



ST1003

67



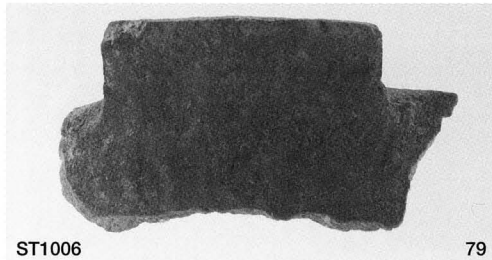
SP1113

101



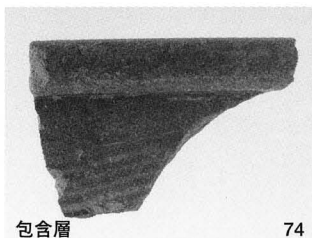
ST1006

81



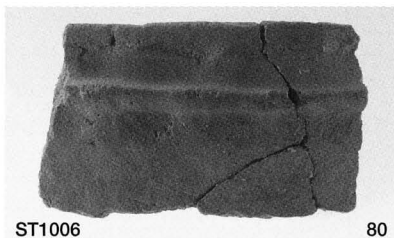
ST1006

79



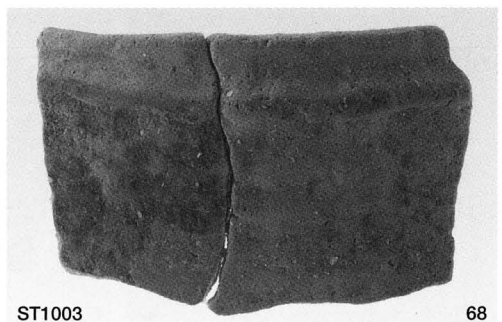
包含層

74



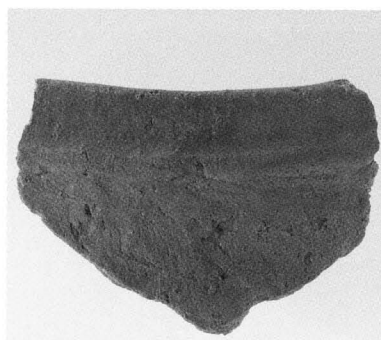
ST1006

80



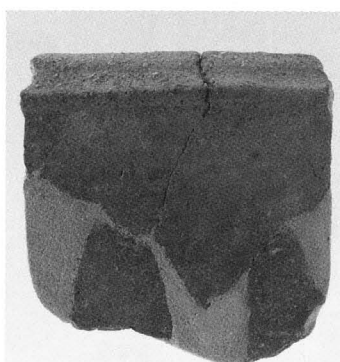
ST1003

68



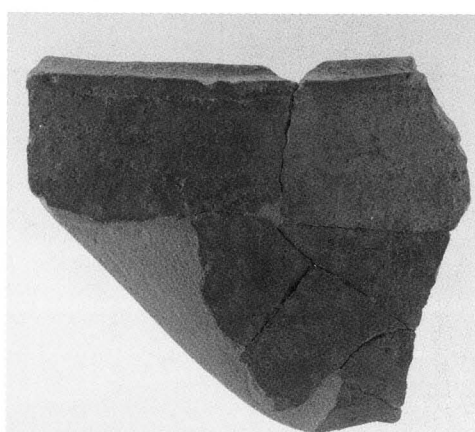
ST1006

82



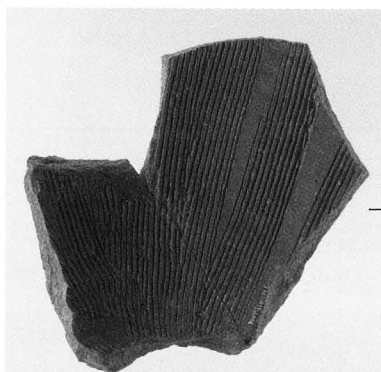
ST1006

84

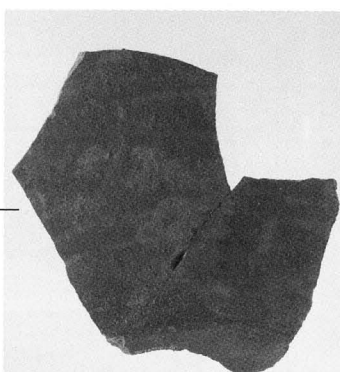


ST1006

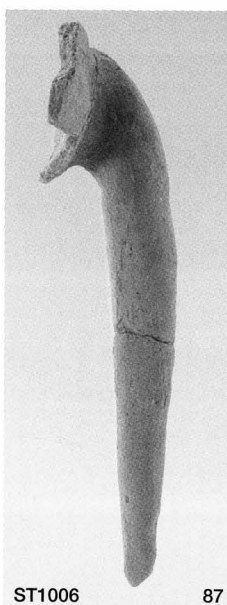
83



SU1001

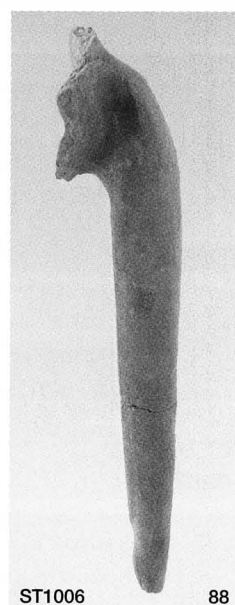


93



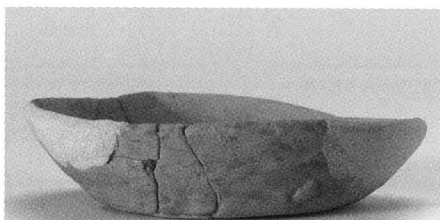
ST1006

87



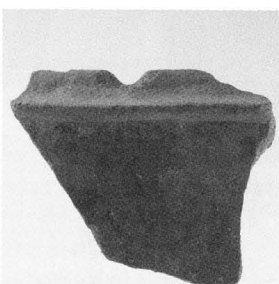
ST1006

88



包含層

116



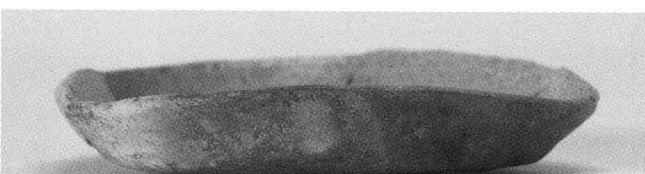
包含層

149



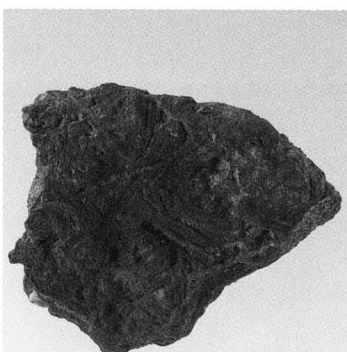
包含層

125



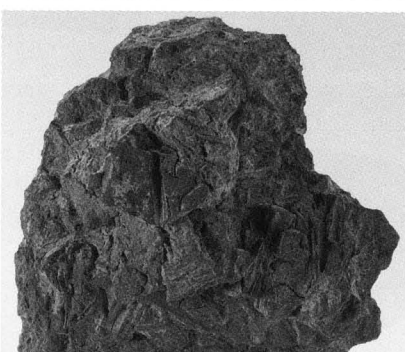
包含層

130



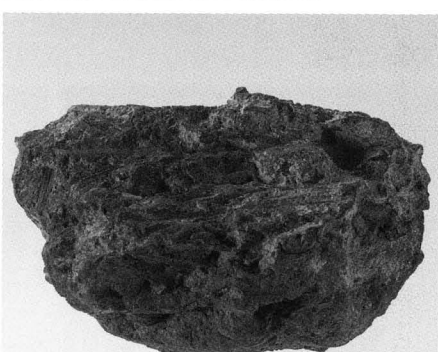
SU1001

95



SU1001

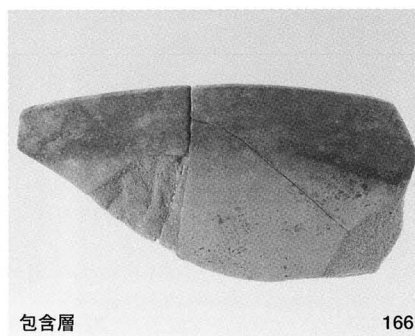
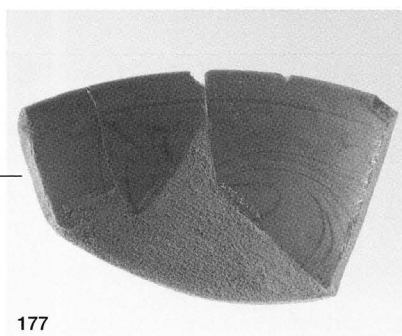
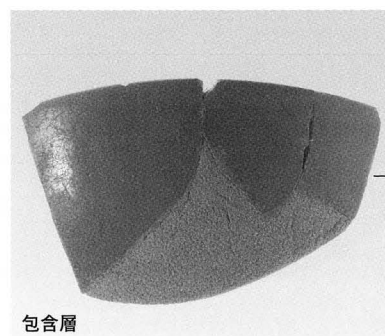
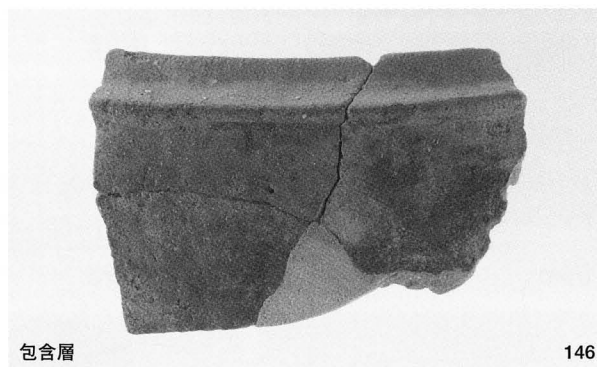
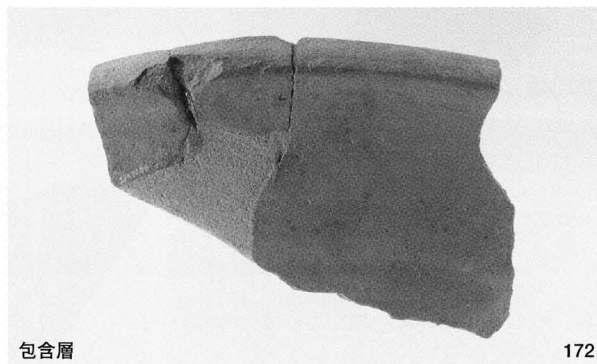
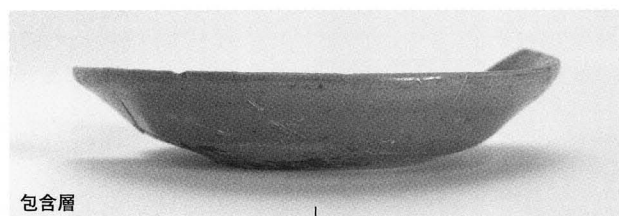
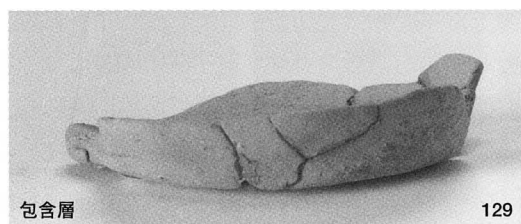
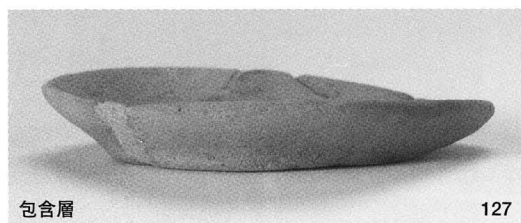
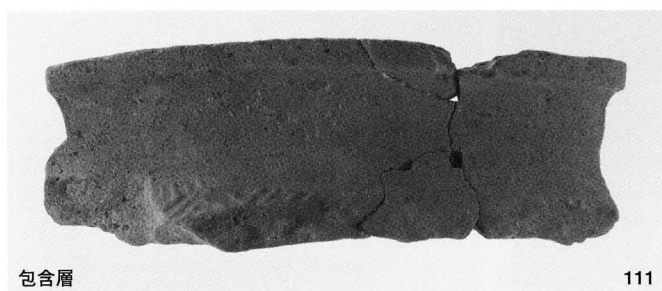
96



SU1001

97

图版12



Ⅶ 山田遺跡(Ⅱ)

1. 本章は三好郡池田町字ヤマダ482-1ほかに所在する山田遺跡（Ⅱ）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査期間および報告書作成の期間は、第Ⅰ章の本文および第2・3表にまとめてあるので、参照されたい。
3. 本章の遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・図版と一致する。
4. 本遺跡の地理的・歴史的環境については、『四国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査報告18 大柿遺跡Ⅰ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第37集の第Ⅱ章を参照されたい。

1 調査の経過

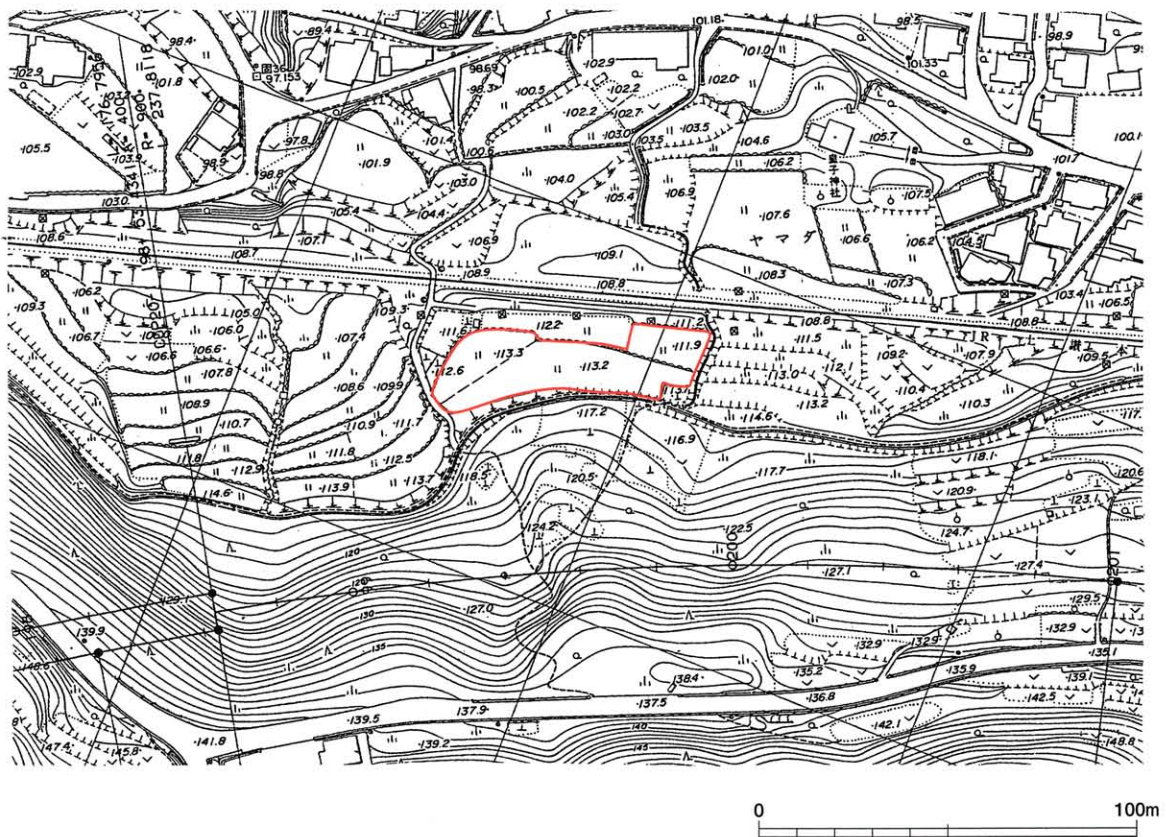
(1) 調査の経過

山田遺跡(Ⅱ)は、高速道路建設予定地の6,470m²において平成6年6月6日～平成6年8月24日と平成6年11月15日～平成6年11月17日の2回に分けて重機を使用してトレンチ掘削による試掘調査が実施された。試掘調査の実掘延べ面積は285m²である。その結果、一部削平を受けていたり盛り土されていたりしていたが、地表下約0.3m前後のところで遺物包含層および中世の遺構、遺物を確認した。

試掘調査の成果をふまえて、遺構・遺物および遺物包含層の広がりを捉えることができた1,230m²が本調査の対象地として決定された。

この結果を受けて、平成7年6月15日～平成8年3月30日に1班を投入して本調査を実施した。発掘調査は、機械掘削が終了した段階で調査区の北西側に岩盤を形成する結晶片岩を利用した集石遺構(火葬墓ST1001)を検出し、岩盤の角礫を用い方形に区画したうえで円礫により被覆している状況が確認できたために、調査には相当な時間がかかることが予想された。

また、調査期間中は図面作成と写真による記録および作業の効率化を図ることを目的として、空中写真撮影を行った。なお、調査地点がJR高徳線に隣接することから有人ヘリコプターの飛行が不可能という制約がありラジコン・ヘリコプターによる撮影を行うことにして、都合13回実施した。



第1図 調査地位置図

1月29日 空撮
 2月14日 空撮
 3月5日 空撮

3月27日 ST1001完掘
 3月28日 ST1001開塞石下より骨片出土
 3月30日 とりまとめ、撤収

2 調査成果

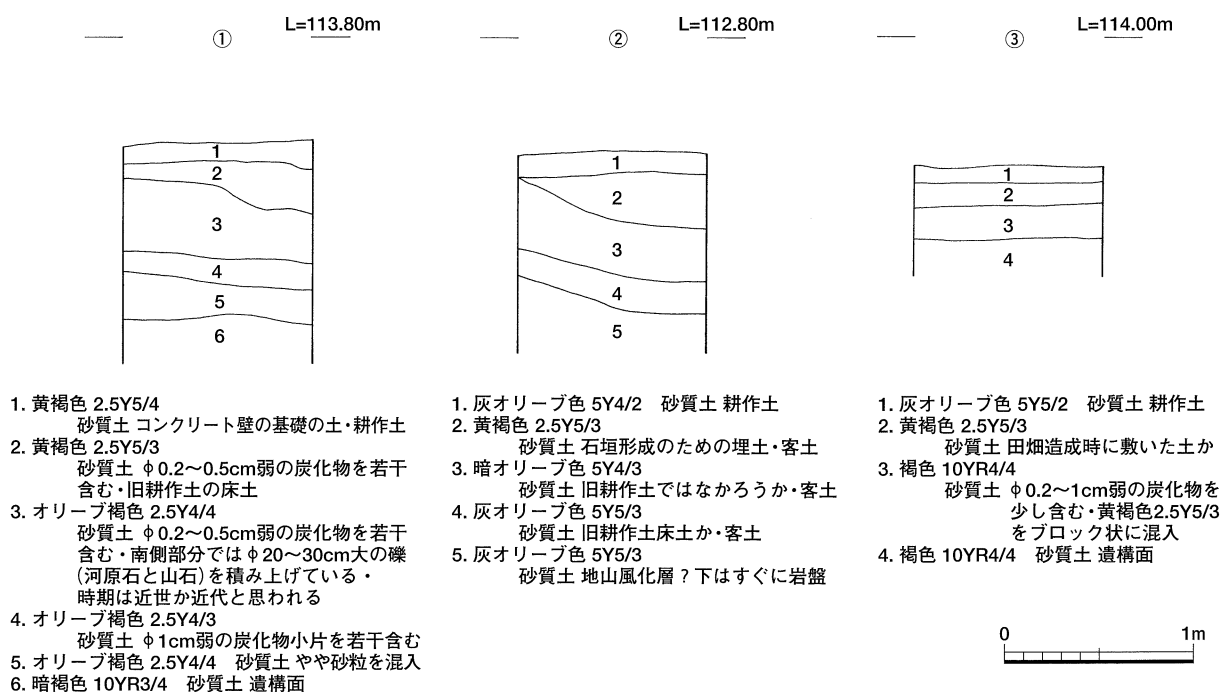
(1) 基本層序 (第3図)

本遺跡は吉野川の南岸に位置し、四国山地の北麓の標高約107~117mを測る河岸段丘上に立地する。調査地は南から北へ下る緩斜面上にあり、比高差は約10mを測る。遺跡周辺の段丘面は浸食が進み、深い谷に区切られた舌状の地形を形成している。

調査前の状況は、多くは田畑として利用されており、試掘調査においても大部分のトレンチにおいて客土が確認されていた。本調査においても調査区の壁面観察を行った結果は同様なものであった。

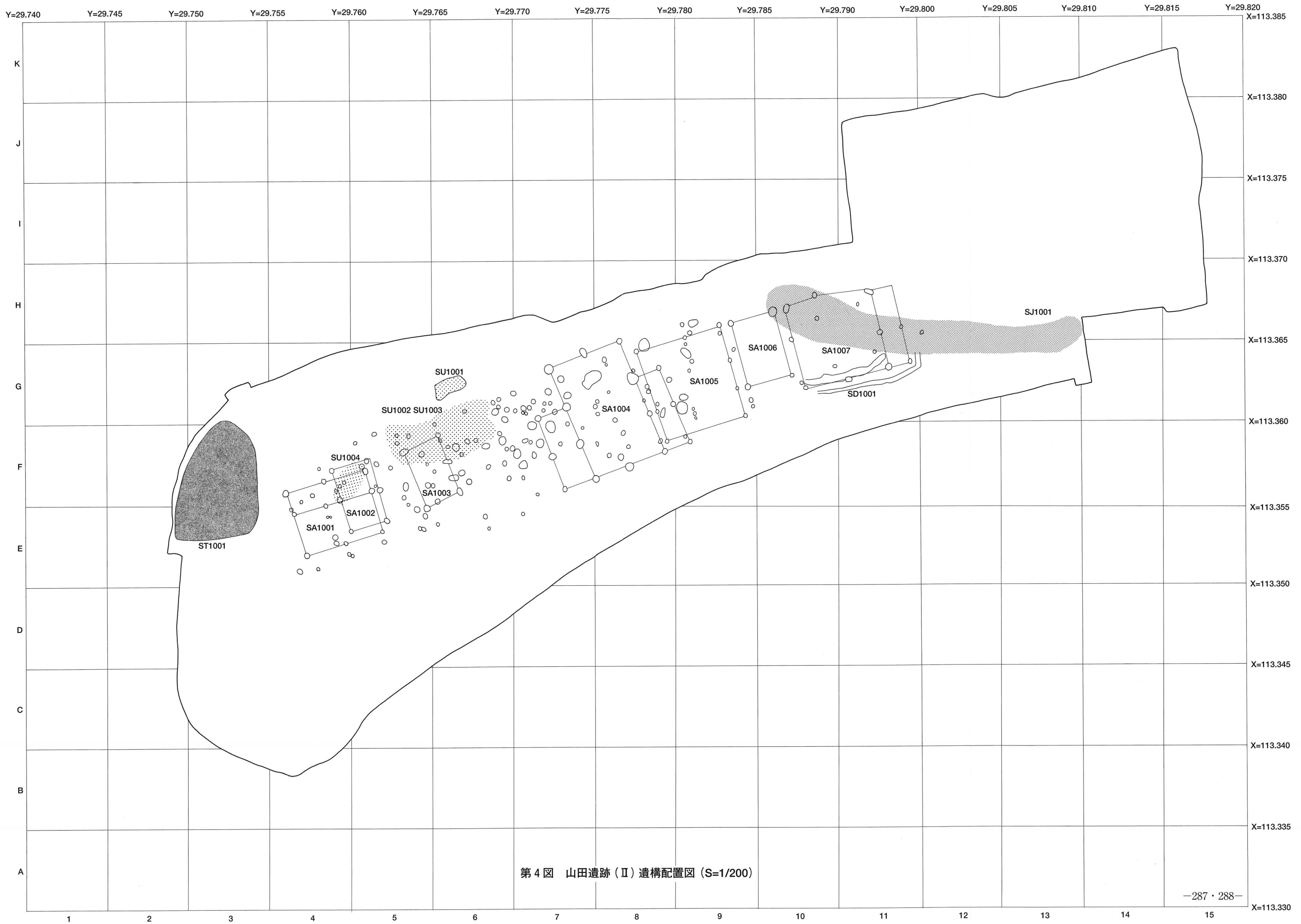
現地形は緩斜面であるため、田畑を造成する際に斜面を削平しその削平した土を低い北側部分に盛り土をすることで平坦部をつくり出している。そのため、とくに調査区の南側にあたる標高が高い部分ほど削平が著しい。逆に標高が低い調査区の北側ほど遺物包含層および遺構面が安定しており遺存状況も良かった。そのため南側のC~E-5~8グリッド付近においては耕作土直下に遺構面を検出することになった。よってここでは、おもに比較的土層堆積状況が良かった北端G~J-3~11グリッドにおいて観察できた堆積状況について説明する。

1、2層は耕作土および床土である。これらは比較的調査区全域において認められる。観察地点によっ

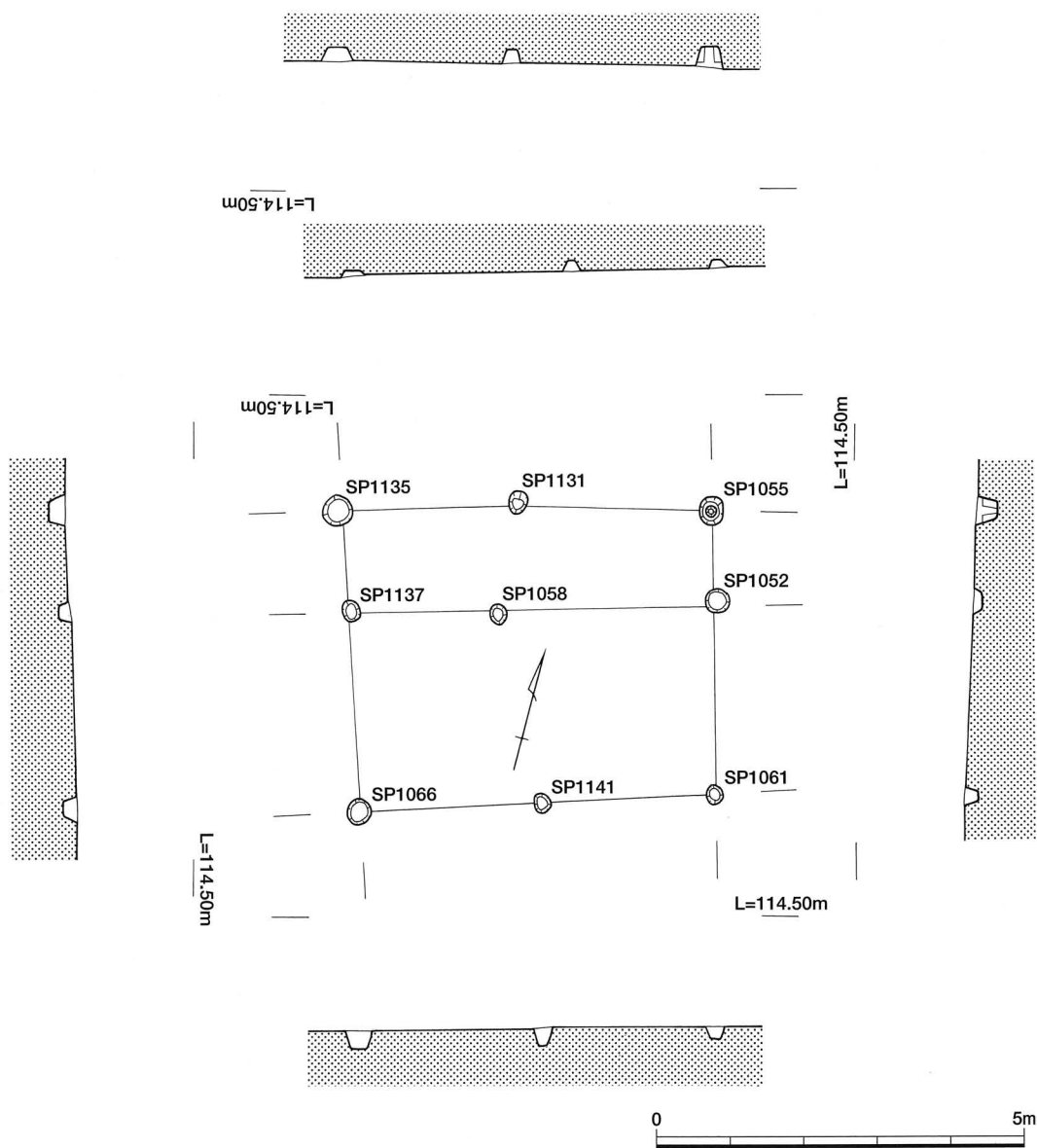


第3図 基本土層柱状図

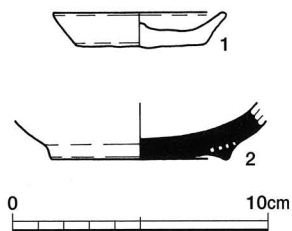




第4図 山田遺跡(Ⅱ)遺構配置図(S=1/200)



第5図 A区SA1001平・断面図



第6図 A区SA1001出土土器

てはこの床土直下に厚く旧耕作土や田地を造成する際に盛り土された客土がみられた。これにより遺物包含層や場合によっては遺構面までが破壊の影響を受けたかもしれない。

上記の近代以降の土層以下は中世以降の遺物包含層であり、オリブ褐色2.5Y4/3～褐色10YR4/4系統を呈する砂質土が堆積する。さらに詳細に観察してみると、調査地南西側の堆積土はやや黄色が強く、北東側に行くに従って赤色が強くなり褐色を呈するようになる。これらの土層には直径1cm前後の炭化物小片を含んでいることが比較的広い範囲で観察でき、また調査地中央の部分的にはあるが、③地点の第3層とした土層中に黄褐色砂質土ブロックを含んでいる様子が確認できている。

遺構面を形成している土層は、調査地南西側では暗褐色を呈し、一方調査地中央では褐色を呈してい

る。この両者の中間地点では岩盤である結晶片岩層が露呈しており、調査地の南西と北東では土層に若干の色調差が生じているが、基本的には砂質土の共通土層である。

(2) 遺構と遺物

掘立柱建物跡 (SA)

1号掘立柱建物跡 (SA1001) (第5・6図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはE・F-4・5グリッドである。SA1002、SU1004と重複する。遺構の規模は桁行2間(495cm)×梁間1間(270cm)を測る側柱式で、北側に半間幅の庇が付設される。主軸はN-73°-Eを向く。柱間寸法は桁行側で247.5cm、梁間で270cmを測り、床面積は13.37m²を測る。各柱穴の平面形状は円形を呈しており、遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察では柱痕跡が確認できたものはなかった。

出土遺物はSP1055とSP1141から出土している。1は土師器の小皿である。2は須恵器の椀である。

遺構の時期は、土師器の小皿が出土していることなどから15世紀末から16世紀初頭頃であろうと考えられる。

2号掘立柱建物跡 (SA1002) (第7図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはE・F-4・5グリッドである。SA1001、SU1004と重複する。遺構の規模は桁行2間(395cm)×梁間1間(240cm)を測る側柱式である。主軸はN-16°-Wを向く。柱間寸法は桁行側で197.5cm、梁間で240cmを測り、床面積は9.48m²を測る。各柱穴の平面形状は円形を呈しており、一部楕円形を呈するものを含む。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察では柱痕跡が確認できたものはなかった。

出土遺物は図化できるものはなかった。

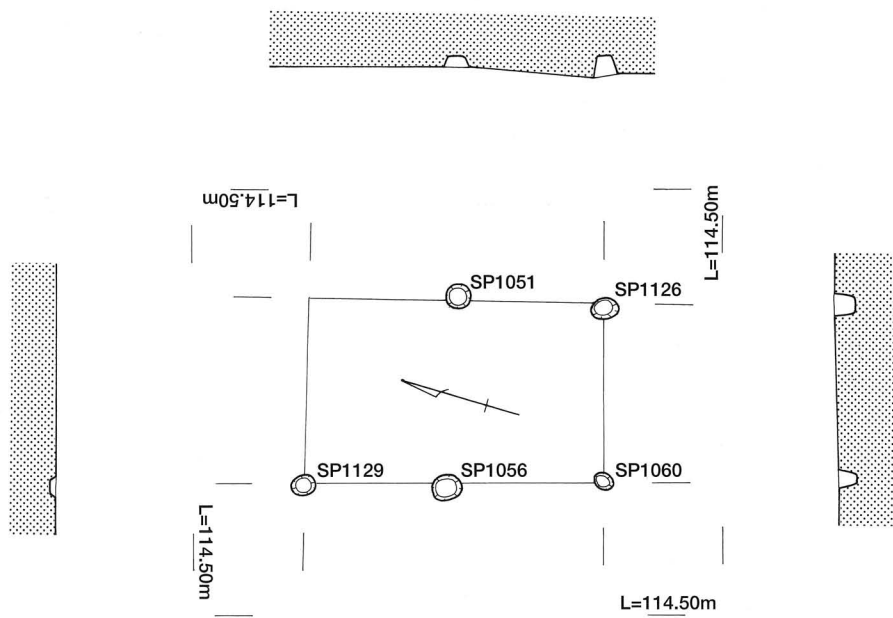
3号掘立柱建物跡 (SA1003) (第8図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはE・F-5・6グリッドである。SU1002、1003と重複する。南から北に向けての緩やかな下り傾斜地に立地する。遺構の規模は桁行2間(375cm)×梁間1間(230cm)を測る側柱式である。主軸はN-21°-Wを向く。柱間寸法は桁行側で187.5cm、梁間で230cmを測り、床面積は8.63m²を測る。各柱穴の平面形状は楕円形を呈するものが多く、楕円の主軸は一定していない。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察では柱痕跡が確認できたものはなかった。

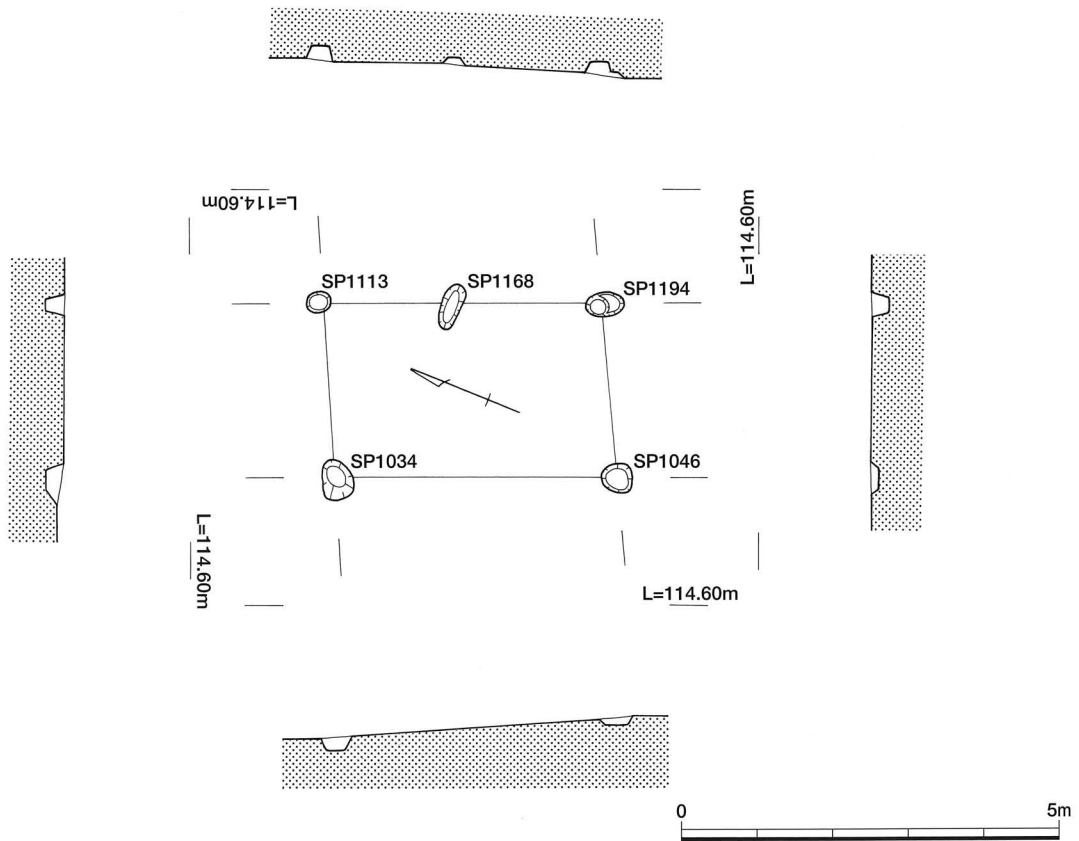
出土遺物は図化できるものはなかった。

4号掘立柱建物跡 (SA1004) (第9図)

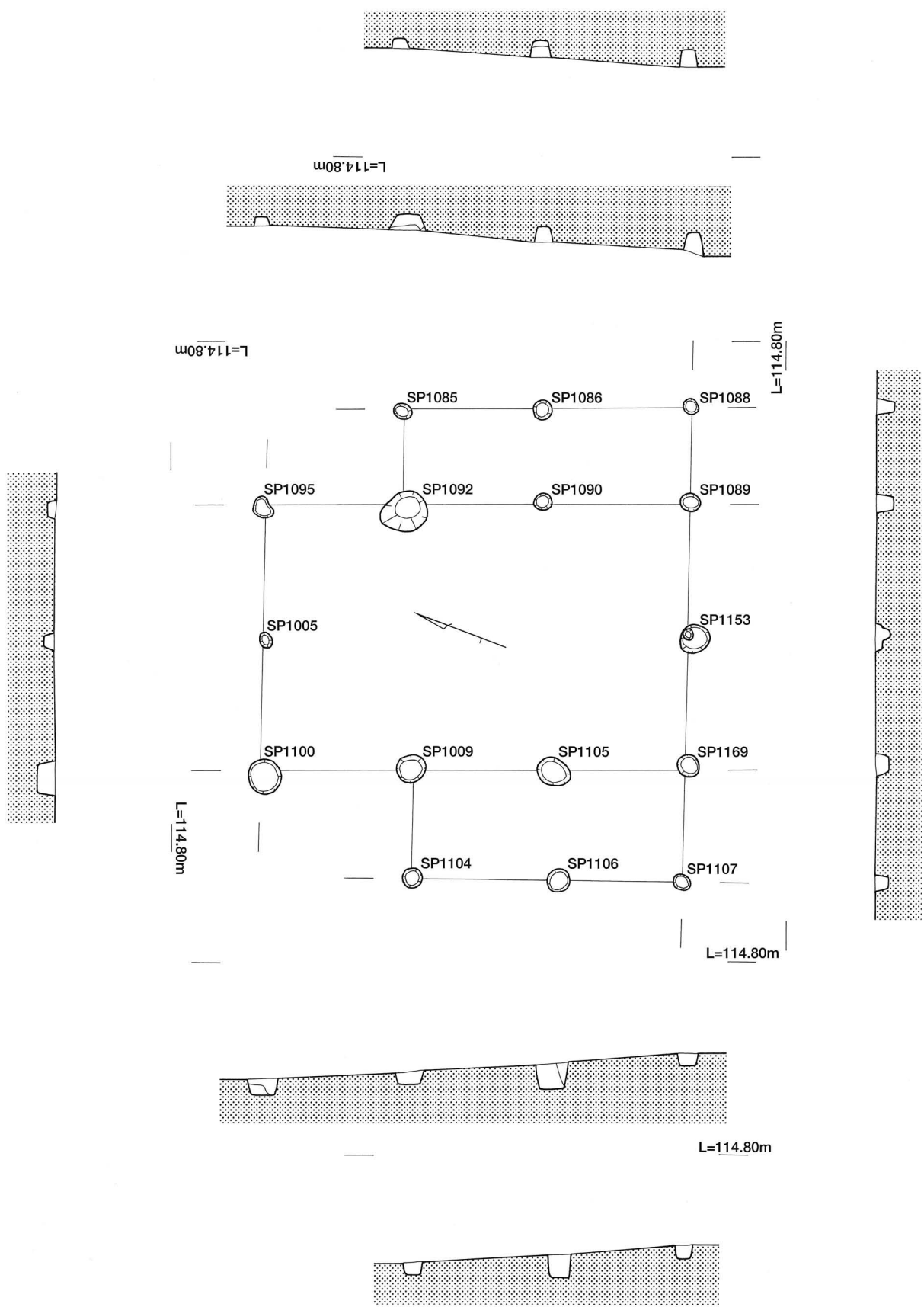
調査区の中央に位置する。検出グリッドはF~H-7~9グリッドである。南から北に向けての緩やかな下り傾斜地に立地する。遺構の規模は桁行3間(735cm)×梁間2間(465cm)を測る側柱式で、南東側と南西側に2間×半間の不規則な庇が付設される。主軸はN-21°-Wを向く。柱間寸法は桁行



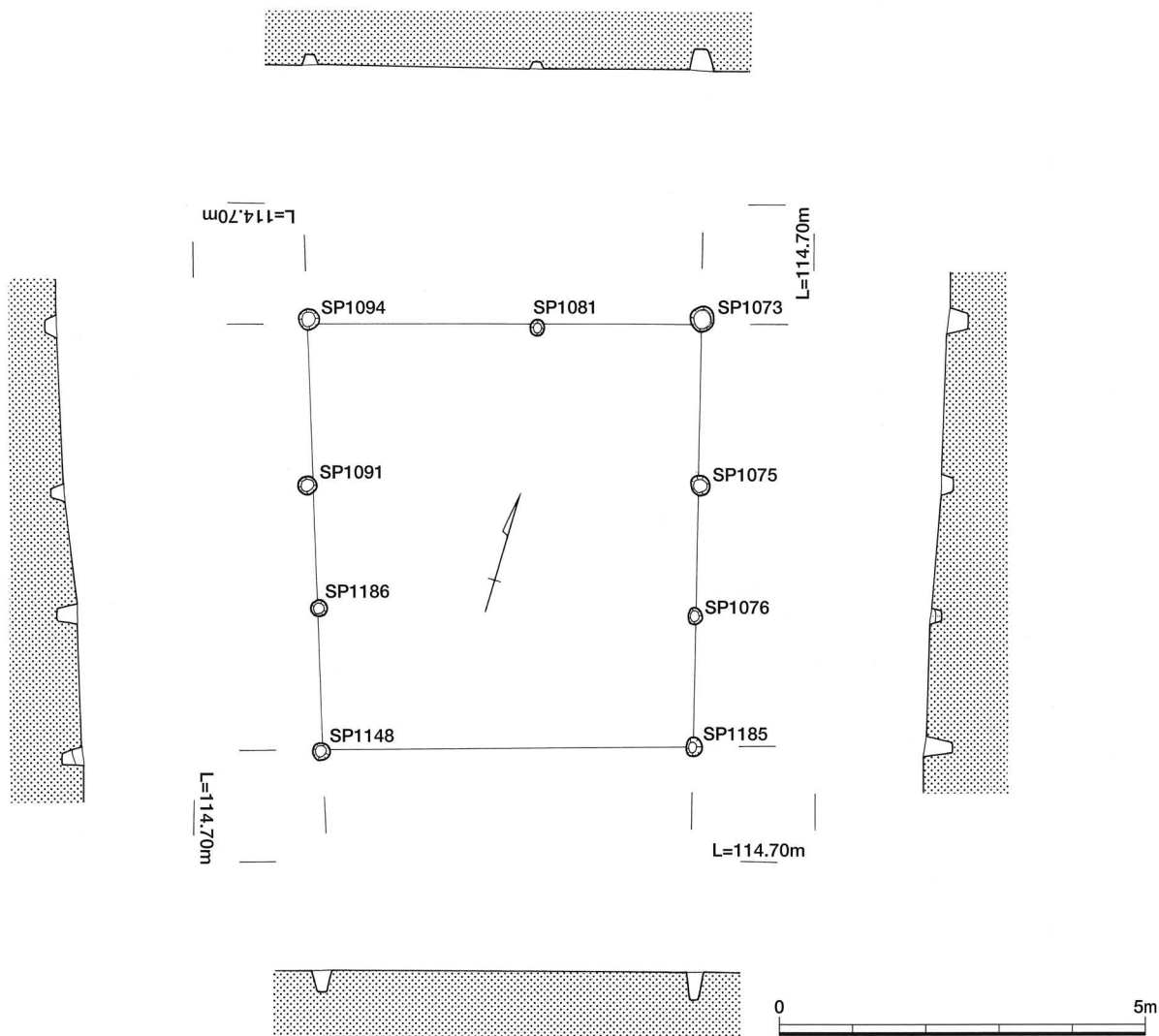
第7图 A区SA1002平·断面图



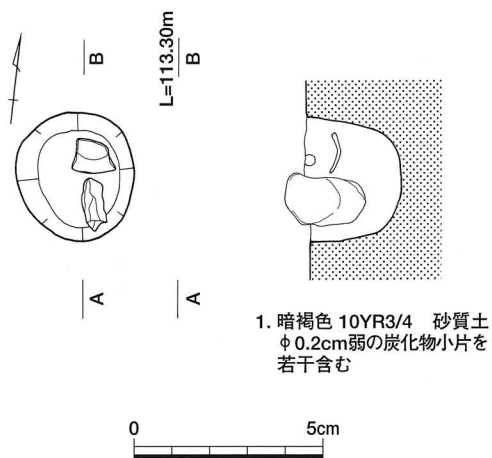
第8图 A区SA1003平·断面图



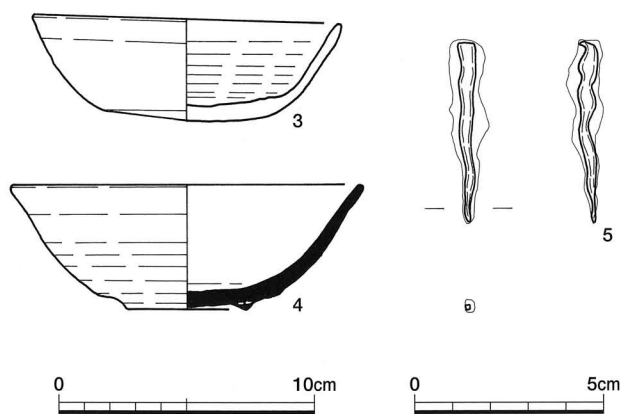
第9图 A区SA1004平·断面图



第10図 A区SA1005平・断面図



第11図 A区SP1073平・断面遺物出土状況図



第12図 SP1073出土遺物

側で245cm、梁間で232.5cmを測り、床面積は34.18m²を測る。各柱穴の平面形状は円形を呈しており、一部楕円形を呈するものを含む。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察では柱痕跡が確認できたものはなかった。

出土遺物は図化できるものはなかった。

5号掘立柱建物跡 (SA1005) (第10～12図)

調査区の中央東側に位置する。検出グリッドはF～H-8・9グリッドである。南から北に向けての緩やかな下り傾斜地に立地する。遺構の規模は桁行3間(580cm)×梁間2間(520cm)を測る側柱式であり、建物の平面形状は方形に近い。主軸はN-17°-Wを向く。柱間寸法は桁行側で193.3cm、梁間で260cmを測り、床面積は30.16m²を測る。各柱穴の平面形状は円形を呈しており、遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察では柱痕跡が確認できたものはなかった。

出土遺物はSP1073から出土している。3は土師器の杯である。4は須恵器の椀である。5は鉄製の釘である。

遺構の時期は、出土している須恵器椀の高台が低くかつ弱くなってきていることなどから13世紀半ばから後半にかけてと思われる。

6号掘立柱建物跡 (SA1006) (第13～15図)

調査区の中央東寄りに位置する。検出グリッドはG・H-9・10グリッドである。遺構の北東側がSJ1001と重複する。南西から北東に向けての緩やかな下り傾斜地に立地する。遺構の規模は桁行1間(410cm)×梁間1間(275cm)を測る側柱式である。主軸はN-16°-Wを向く。床面積は11.28m²を測る。各柱穴の平面形状は円形を呈しており、遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察ではSP1072、1077において柱痕跡状の土層堆積が確認できたが、これが柱痕跡を示すのかまたは抜き取り痕を示すのかは判断できなかった。

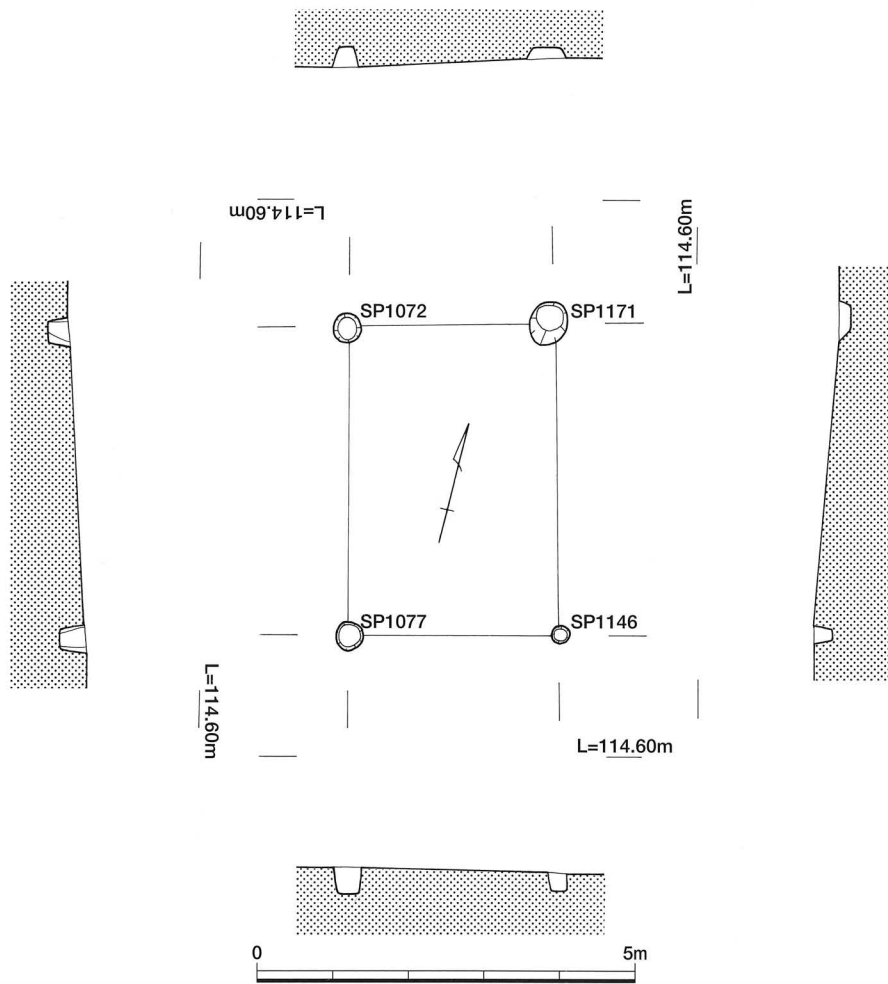
出土遺物はSP1072、1077から出土している。6～8は土師器の小皿である。9は土師器の台付皿である。10は土師器の杯である。

遺構の時期は、9の台付皿などが見られるものの、土師器の小皿が口径8cm前後、器高1.5cm以下となることから15世紀末～16世紀初にかけてと思われる。

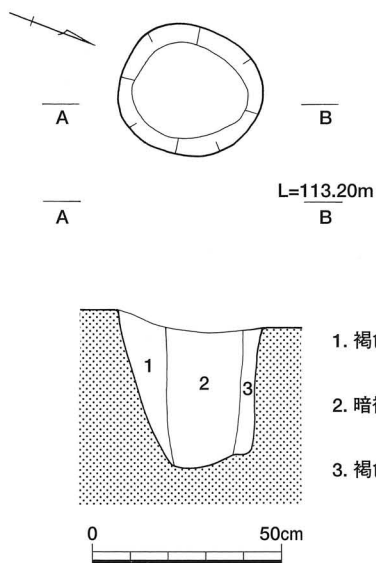
7号掘立柱建物跡 (SA1007) (第16～19図)

調査区の西寄りに位置する。検出グリッドはG・H-10・11グリッドである。SD1001、SJ1001と切り合う。南から北に向けての緩やかな下り傾斜地に立地する。遺構の規模は桁行2間(535cm)×梁間2間(500cm)を測る側柱式で、東側に半間幅の庇が付設される。主軸はN-76°-Eを向く。床面積は26.75m²を測る。各柱穴の平面形状は、一部楕円形を呈するものを含むが円形を呈しており、遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。遺構断面の観察ではほとんどの柱穴において柱痕跡が確認できたものはなかった。しかし、庇部分にあたるSP1145においては柱痕跡状の堆積が確認できたが、これが柱痕跡を示すのかまたは抜き取り痕を示すのかは判断できなかった。

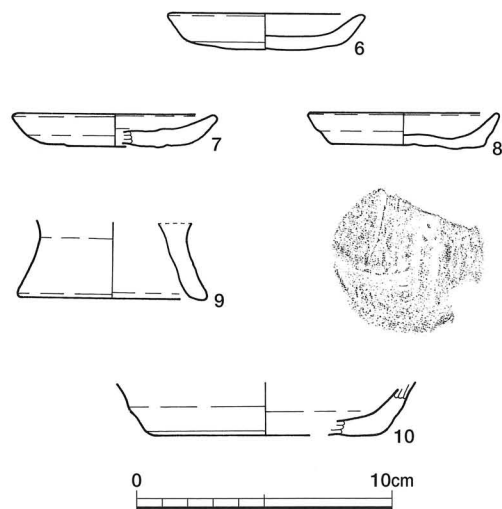
また、建物の南側から東側にかけて溝SD1002が検出されている。この溝は「L」字型に延び、暗渠構造をもつSJ1001に接続する。ところが、遺構に伴う出土遺物が確認されていないために詳細は不明で



第13図 A区SA1006平・断面図

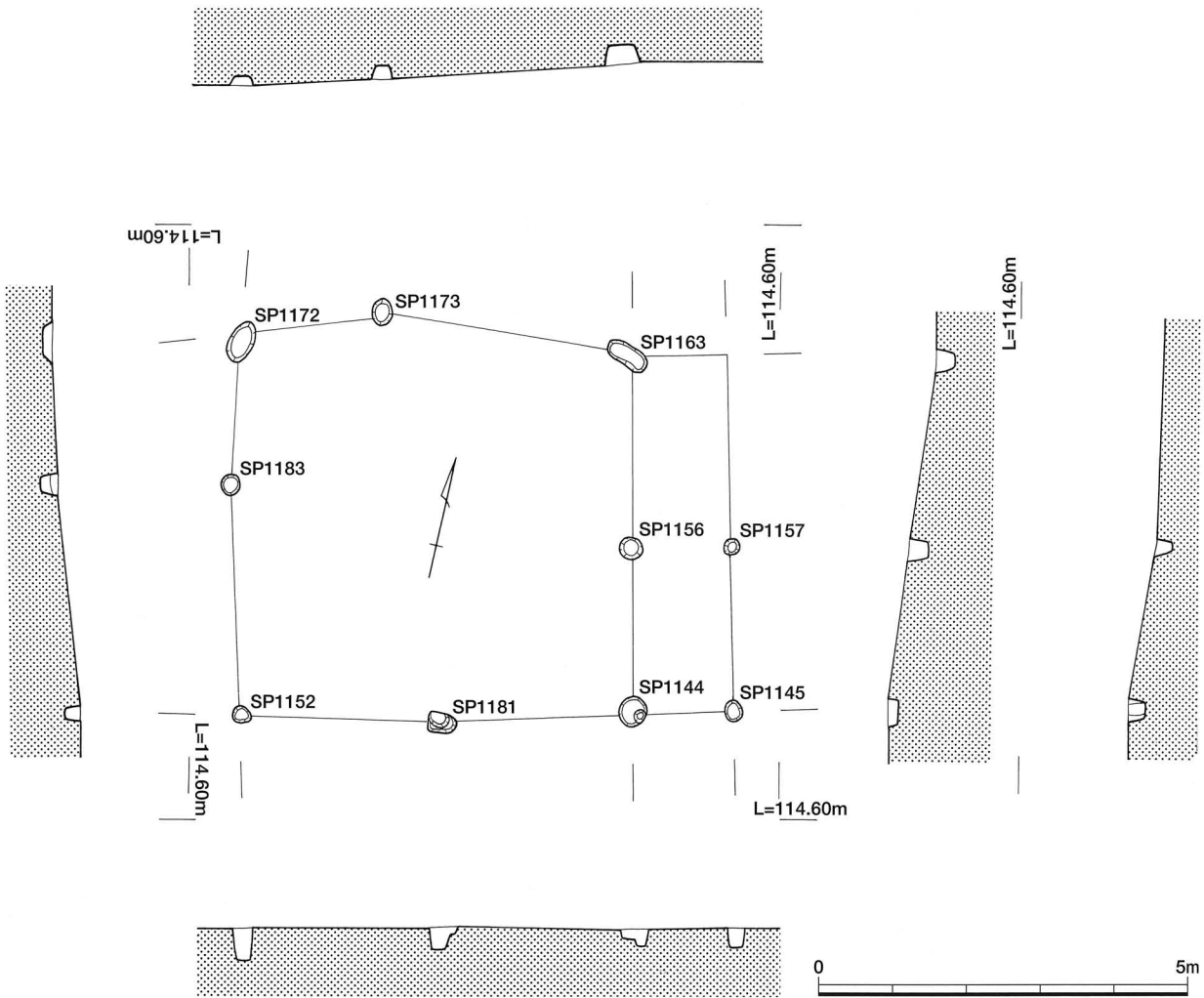


第15図 A区SP1072平・断面図

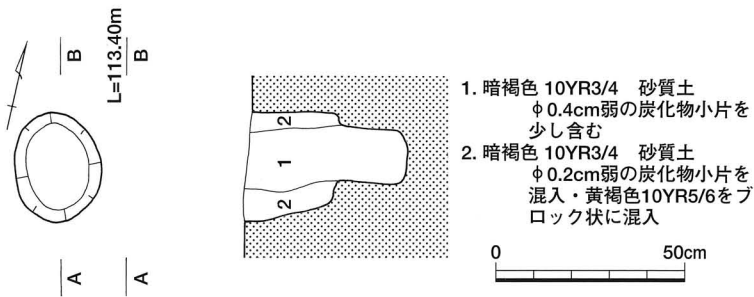


第14図 A区SA1006出土土器

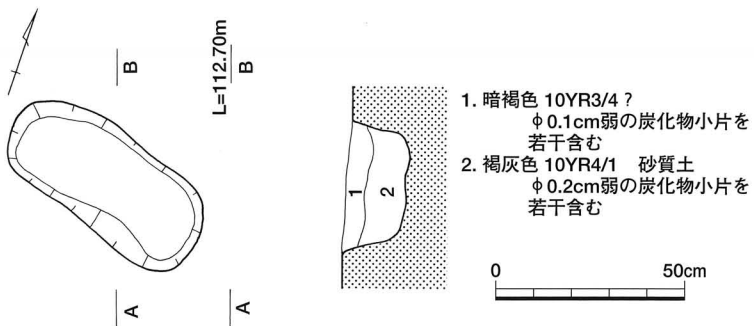
1. 褐色 10YR4/6 砂質土
にぶい黄褐色 10YR4/3をブロック
状に混入・地山
2. 暗褐色 10YR3/4 砂質土
φ0.1cm弱の炭化物を若干含む
褐色10YR4/6をブロック状に混入
3. 褐色 10YR4/6 砂質土
にぶい黄褐色10YR4/3をブロック
状に混入・地山



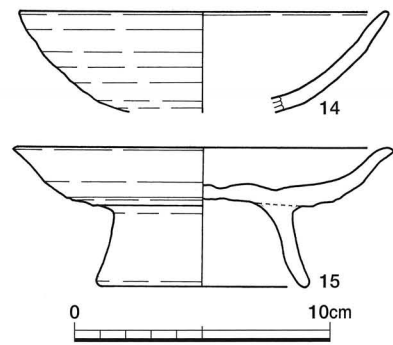
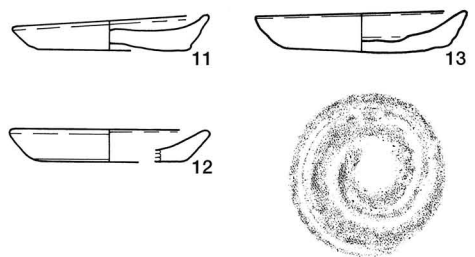
第16図 A区SA1007平・断面図



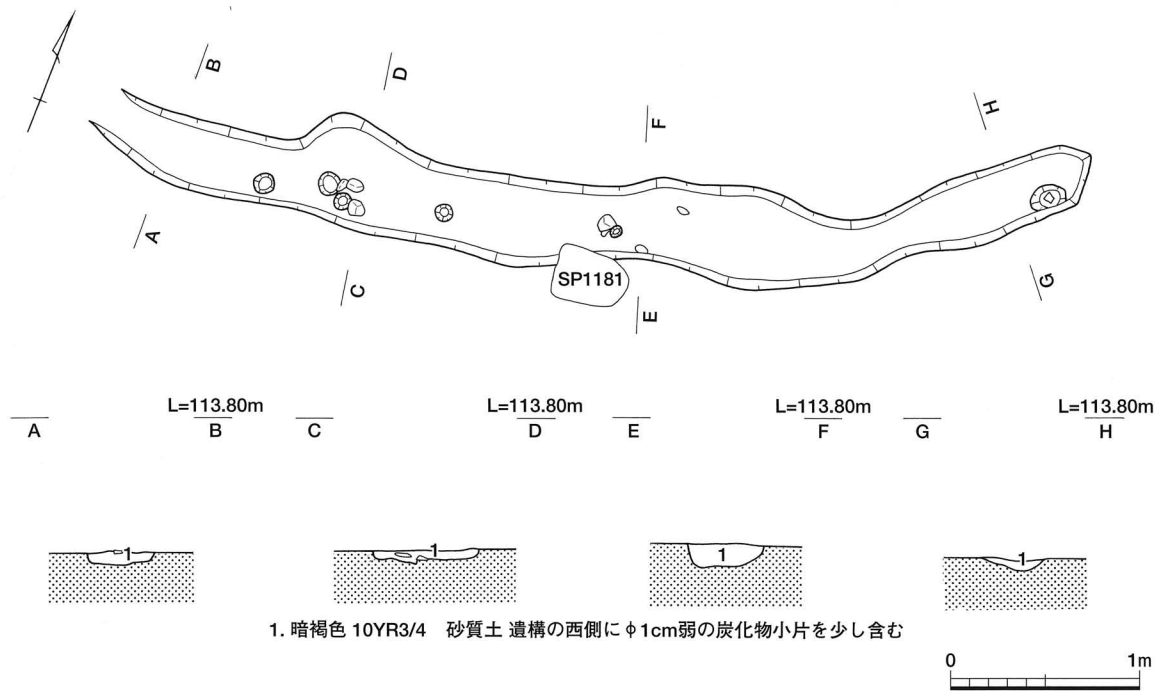
第18図 A区SP1145平・断面図



第19図 A区SP1163平・断面図

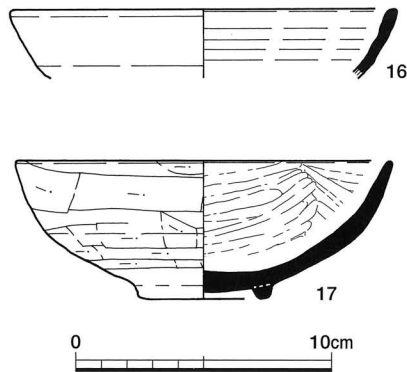


第17図 A区SA1007出土土器



1. 暗褐色 10YR3/4 砂質土 遺構の西側にφ1cm弱の炭化物小片を少し含む

第20図 A区SD1001平・断面図



第21図 A区SD1001出土土器

あり、遺構配置状況からSA1006に伴う排水溝である可能性を考えたいが直接的な根拠に欠ける。

出土遺物はSP1145、1163、1172から出土している。11～13は土師器の小皿である。14は土師器の椀である。15は土師器の台付皿である。

遺構の時期は、15の台付皿が見られるものの、土師器の小皿が口径8cm前後、器高1.5cm未満となることから15世紀末～16世紀初にかけてと思われる。

溝 (SD)

1号溝 (SD1001) (第20・21図)

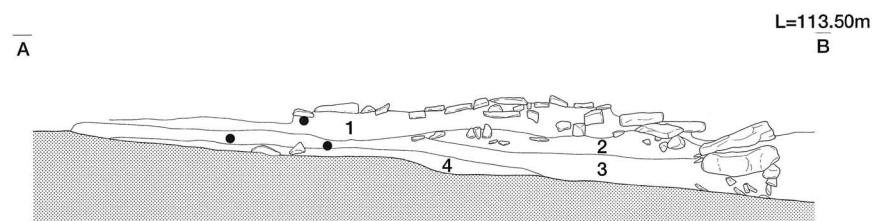
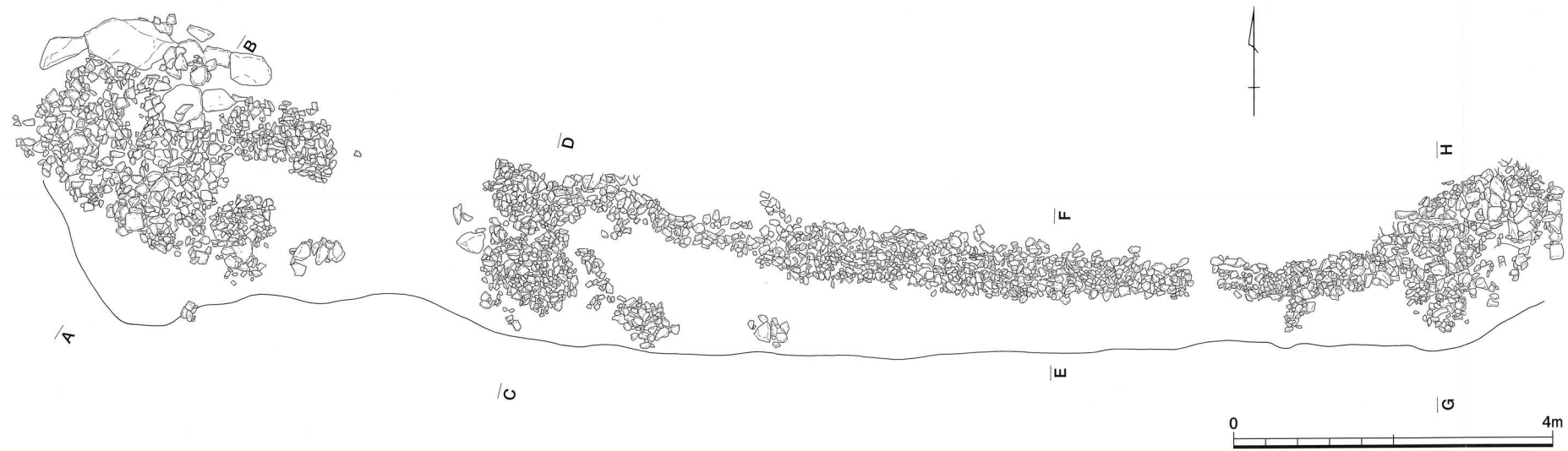
調査区の西寄りに位置する。検出グリッドはG-10・11グリッドである。SA1006に切られる。東西方向に主軸をもつ溝で、遺構の東側は終息し西側は緩やかに立ち上がる。遺構の規模は総延長5.2m、最大幅0.26m、深さ0.12mを測る。遺構断面形状は浅い逆台形を呈する。

遺構埋土には暗褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。とくに流水状況や滞水状況を示すような土層堆積状況は確認できなかった。

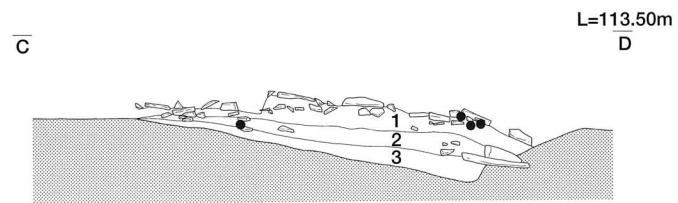
16、17は須恵器の椀である。

遺構の時期は、13世紀代と思われる。

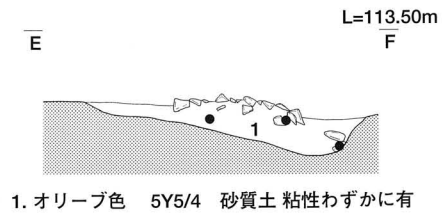




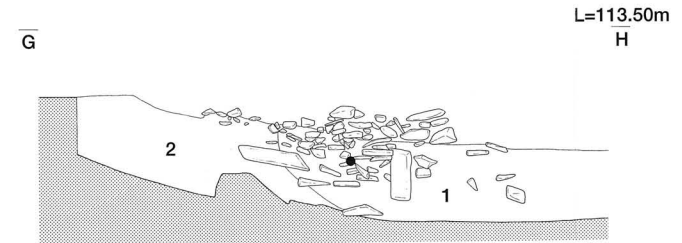
- 1. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 粘性わずかに有
- 2. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 粘性ほとんど無・φ0.5cm弱の炭化物を若干混入・遺構内埋土
- 3. 灰オリーブ色 5Y5/3 砂質土 粘性やや有・下層に鉄分が若干沈殿・φ1cm弱の炭化物を若干含む・遺構内埋土
- 4. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 粘性ほとんど無・φ0.5cm弱の炭化物を少し混入・遺構内埋土



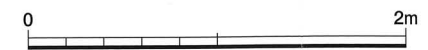
- 1. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 φ5cm~の礫を多く含む
- 2. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 φ0.5cm弱の炭化物を含む
- 3. 灰オリーブ色 5Y5/3 砂質土 φ0.5~1cm弱の礫を少し含む



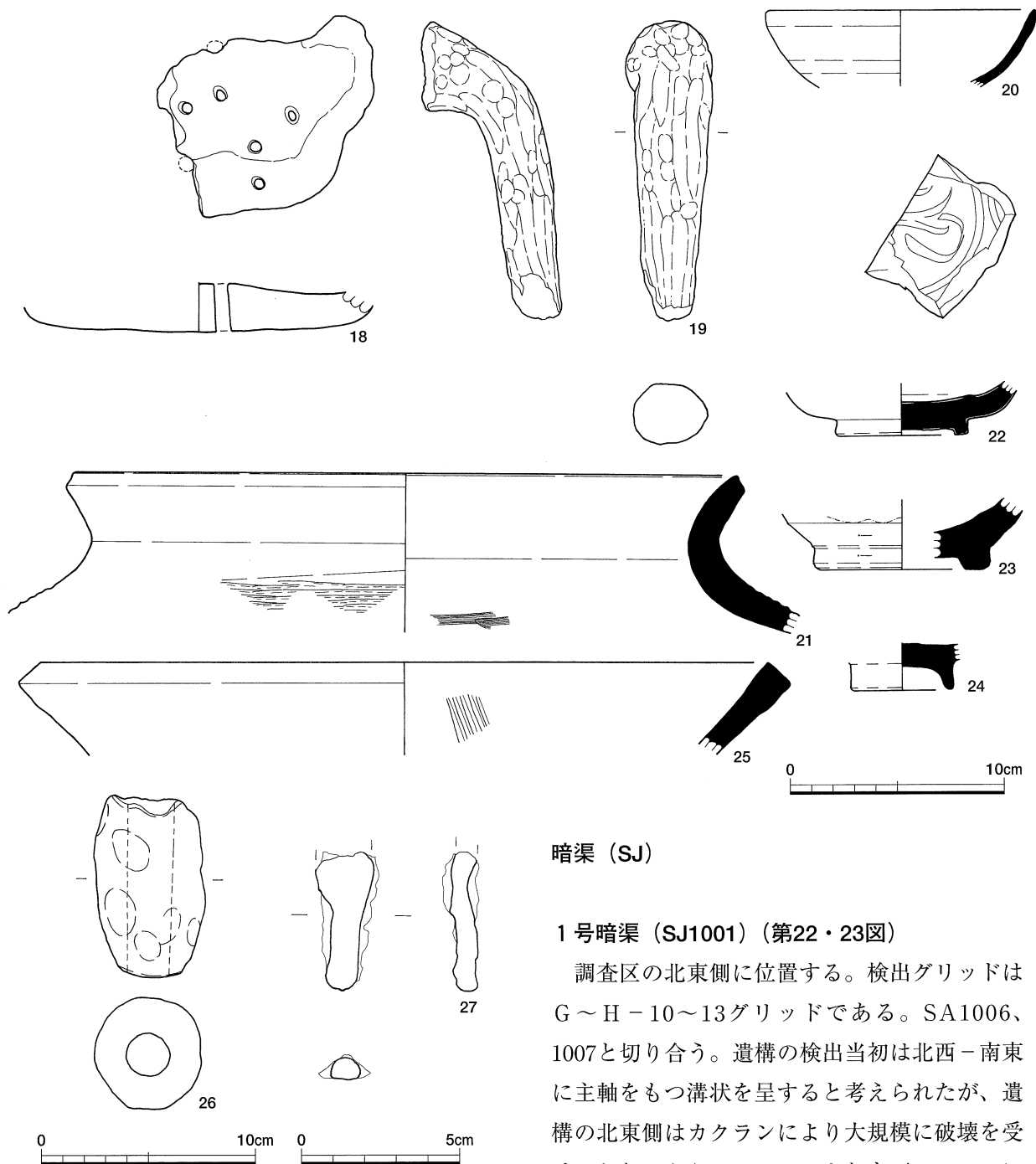
- 1. オリーブ色 5Y5/4 砂質土 粘性わずかに有



- 1. 黄褐色 2.5Y5/4 砂質土 京焼を石組上部で検出しており時期は新しいと思われる
- 2. 褐色 10YR4/4 砂質土



第22図 A区SJ1001平・断面遺物出土状況図



第23図 A区SJ1001出土遺物

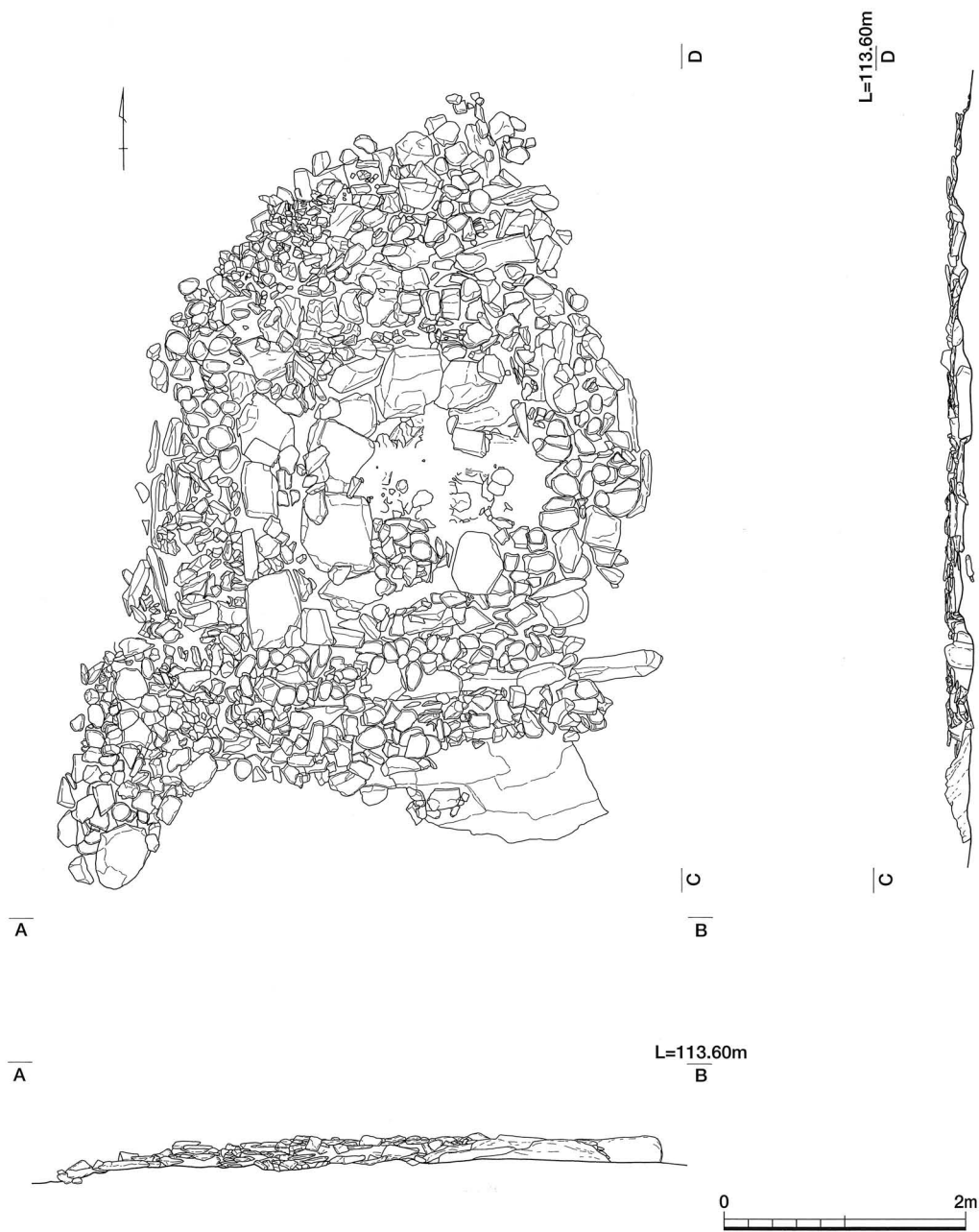
暗渠 (SJ)

1号暗渠 (SJ1001) (第22・23図)

調査区の北東側に位置する。検出グリッドはG～H-10～13グリッドである。SA1006、1007と切り合う。遺構の検出当初は北西-南東に主軸をもつ溝状を呈すると考えられたが、遺構の北東側はカクランにより大規模に破壊を受けており、さらにカクランよりも下のレベルにおいて、遺構埋土の北側への広がりが確認でき

た。よって、当該遺構は大半が北側調査区外へ延びるため遺構平面形状は不明である。遺構の規模は総延長19.64m、最大幅4m、深さ0.88mを測る。遺構断面形状は一部カクランに破壊されるものの、溝状を呈する。遺構埋土は大きくは4層に分層することができ、褐色～オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する。

また、1・2層の上面から遺構検出面より高いレベルまで板状を呈する結晶片岩を主体とした多数の角礫が、等高線に沿うように帯状の広がりをみせ出土している。この礫群は、上面には直径20cm以下のものがほとんどで、無造作に投棄されたように被覆されている。この被覆小礫を除去した下面には、

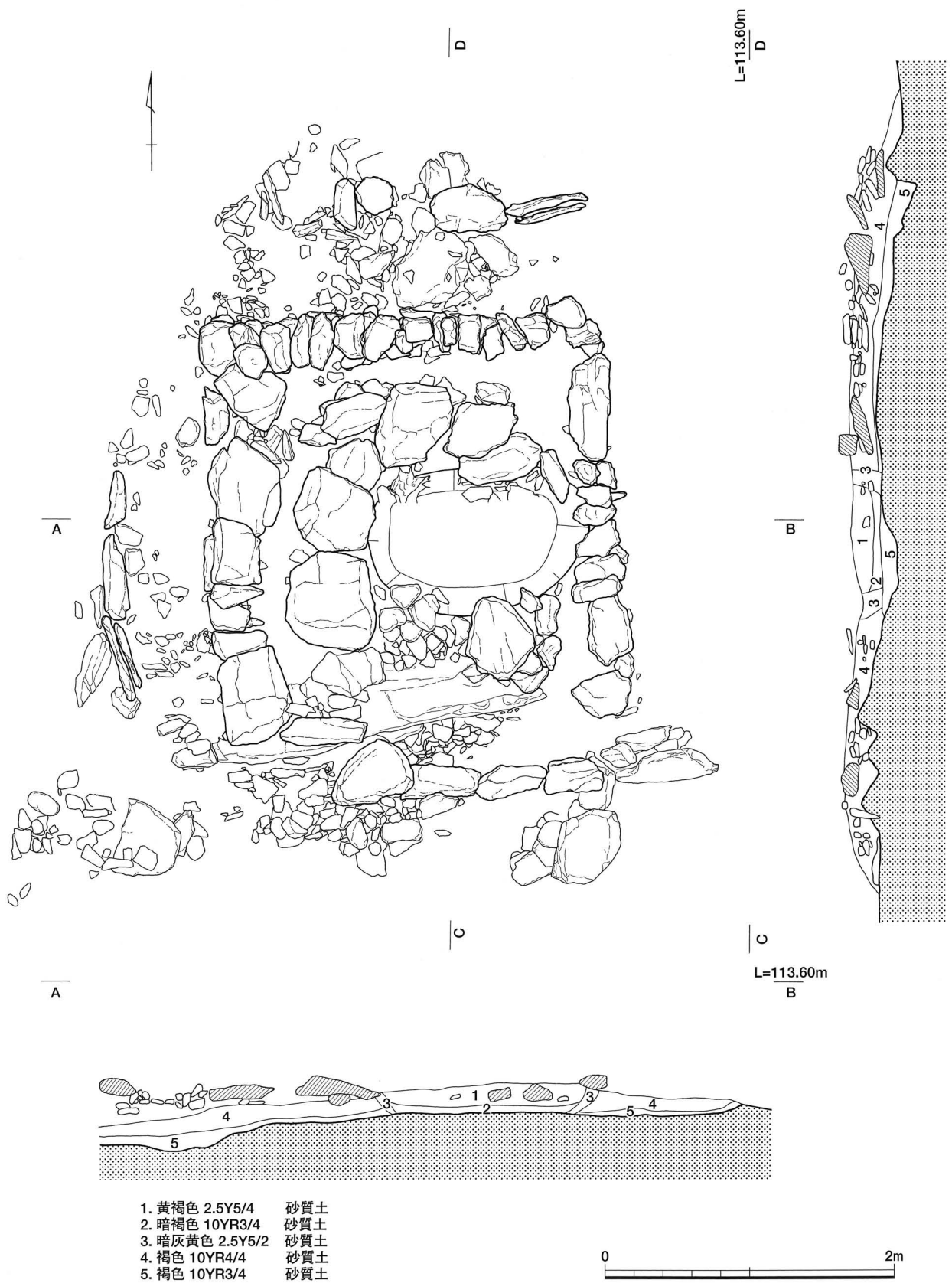


第24図 A区ST1001検出状況図

20～40cmを測る板状の礫が主体となる。しかし、この下面の礫も1・2層中でおさまっており、遺構の底や埋没過程の段階から積み上げたものではないように見受けられ、とくに石組みとして構築された様子も検出できなかった。

18は土師器の甑である。19は土師器の羽釜脚部である。20は須恵器の杯である。21は須恵器の甕である。22、23は磁器の碗である。24は陶器の碗である。25は陶器の播り鉢である。26は土製管状土錘である。27は鉄製の釘である。

遺構の時期は、13世紀代と思われる。



第25图 A区ST1001平·断面图

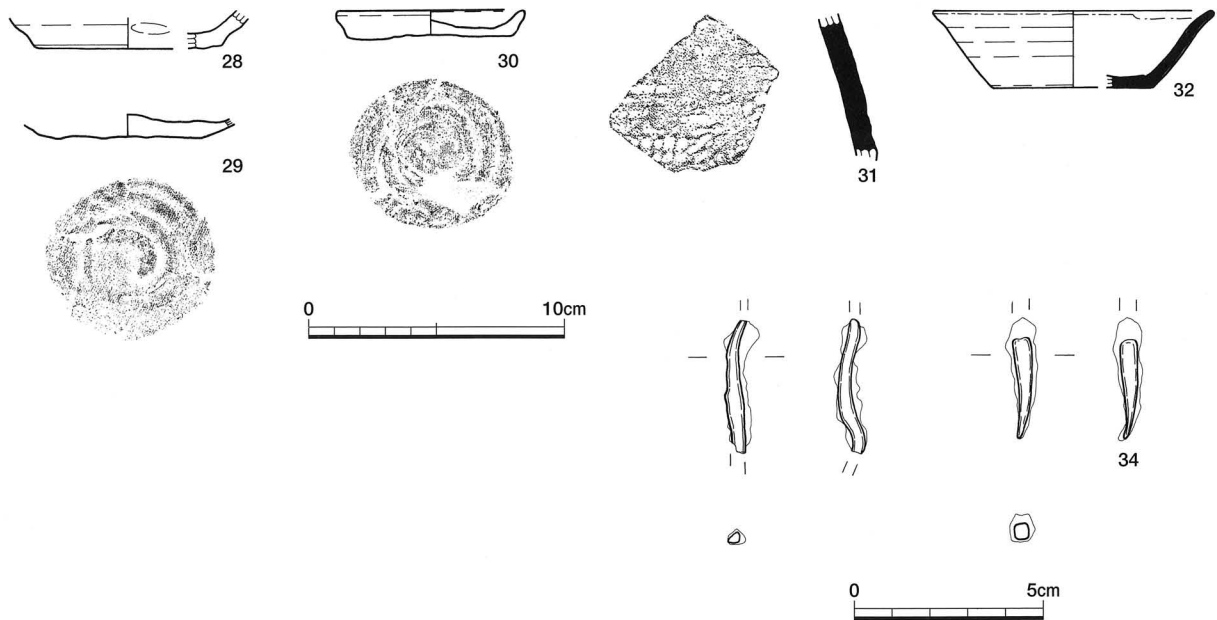


第26図 A区ST1001遺物出土状況図

火葬墓 (ST)

1号火葬墓 (ST1001) (第24~27図)

調査区の北西側に位置する。検出グリッドはE・F-2・3グリッドである。調査着手前は墓の存在



第27図 A区ST1001出土遺物

を推定できる要素は全くなく、完全に埋没していた。基本層序の項でもふれたように調査地一帯は田地のために造成されており、墓の墳頂部は削平を受けて客土を盛り土されたことがその要因として考えられる。墓の北西側は現地形では比高差約5mの崖になっており、現在は建物などに遮られて見通せないが、墓の築造当時は吉野川まで見通せたことが十分予測でき、したがって吉野川上からもこの墓を視認することは可能であったかもしれない。

検出直後の墓は、結晶片岩の板石を方形に並べて区画し、その周辺全体に20~30cm大を測る川原石と直径2cm前後の白色円礫により被覆している様子が確認できた。この礫群の規模は、南北5.6m×東西4.5m×高さ0.4mを測り、ほぼ楕円形を呈する広がりをつ捉えることができた。なお、平面形をみると遺構の南西側のみがやや突出している。これが本来の遺構範囲として捉えうる残存部なのか、あるいはこのように突出する形状を示すのか判断できなかった。

被覆円礫を除去すると、墳丘としての区画石が二重の配列で確認できた。まず最も外側の配列であるが、北側と西側のわずかな範囲にのみ残存していた。板状の結晶片岩を立て、両小口をあわせるように連ねる。板石の厚さが足りない部分は薄い板石を2枚あわせて石列が乱れないようにする意識が働いている。確認できたのは板石2~3個分の長さである。おそらく全周していたものと思われるが、削平を受けているため区画石の中では最も残存状況は悪い。その内側には、一部が途切れるものの南北3.4m×東西2.8~2.9mの規模で方形に区画石が配される。この区画石は全体に結晶片岩の板石が用いられるが、石の大きさおよび積み方に若干の異なる点がみられる。北辺および東辺においては長軸40cm、短軸10~20cm、厚さ10cm未満を測る板石を小口積みになっている。一方、南辺と西辺は長軸50~60cm、短軸30~50cm、厚さ10~20cmを測る比較的大振りな板石を用いて両小口をあわせるように並べられ、積み上げている。遺構の北側と東側は吉野川に面する方角であることから、河上および街道からの視覚効果をねらったものであろうか。その意図するところまでは判断できなかった。

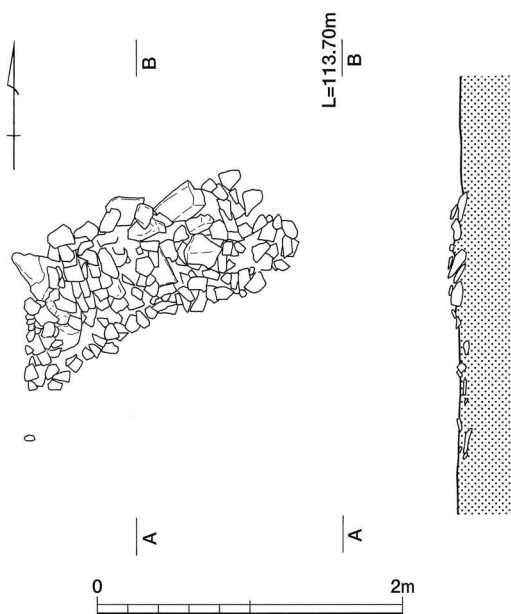
墓の中央部には、主体部である小石室状の石組みを確認した。小石室状の石組みは、外側の区画石よ

りも大振りな結晶片岩板石を用い、東辺を除いて「コ」の字状に配される。小石室の規模は東西1.8m、南北2mを測り、方形に区画石が巡る。ところが、南辺のうち区画石1個分の幅で板石が使われていなかった。この板石が使われない部分には、円礫を板石と同じレベルまで積み上げて調節しており、この小石室に天井石を架していたとすればこの部分が入り口であり、円礫により閉塞していたことが考えられる。この円礫を除去したところ、人骨片が焼土塊とともに出土していることから追葬が行われた際に掻き出しが行われた可能性が考えられ、つまりこれらの円礫が閉塞石であったといえる。一方東側は南側と同様に区画石1個分が欠落していたが、とくに円礫を詰めている様子は確認できなかった。破壊された可能性が考えられる。小石室を構成する板石の規模は長軸70cm、短軸50cm、厚さ10cm前後を測り、方形に近い形状を呈している。使用している板石がこの墓全体を通して最もサイズが大きいため、北西コーナー部分では区画内におさまらないことから一回り小振りな板石を用いて調節している。また、この板石直下には被覆円礫と同サイズの円礫を敷いて基礎としている。

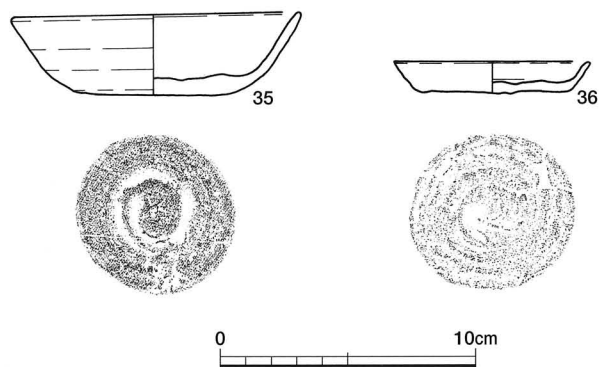
墓の被覆円礫および区画石を全て除去したところ、墳丘基盤の整地層が確認できた。断面観察の結果、露呈している結晶片岩の岩盤層がわずかに窪み、かつ比較的平らな部分を選び、褐色を呈する砂質土を周辺の岩盤と同レベルまで充填して平坦面をつくり出している。その後整地層を改めて掘り込み、主体部の土壌を形成したのちにその周囲に区画石を積み上げて墓を構築したと思われる。区画石および被覆円礫は純粹に石のみで組みあげたものではなく、褐色を呈する砂質土と混在させることにより墓全体を構築している。

遺構の時期は、基盤の整地層中より31の口禿げの白磁が出土していることから、13世紀中葉～14世紀代に構築年代が求められる可能性がある一方、磨滅の度合いから伝世していたことも十分に考えられ、白磁の年代が素直に構築年代を示すことには至らないがほぼこの前後の時期であったと思われる。また、小石室中より土師器の杯・小皿が出土していることから15世紀末～16世紀代に至るまでに最低1回の追葬が行われたものと考えられる。

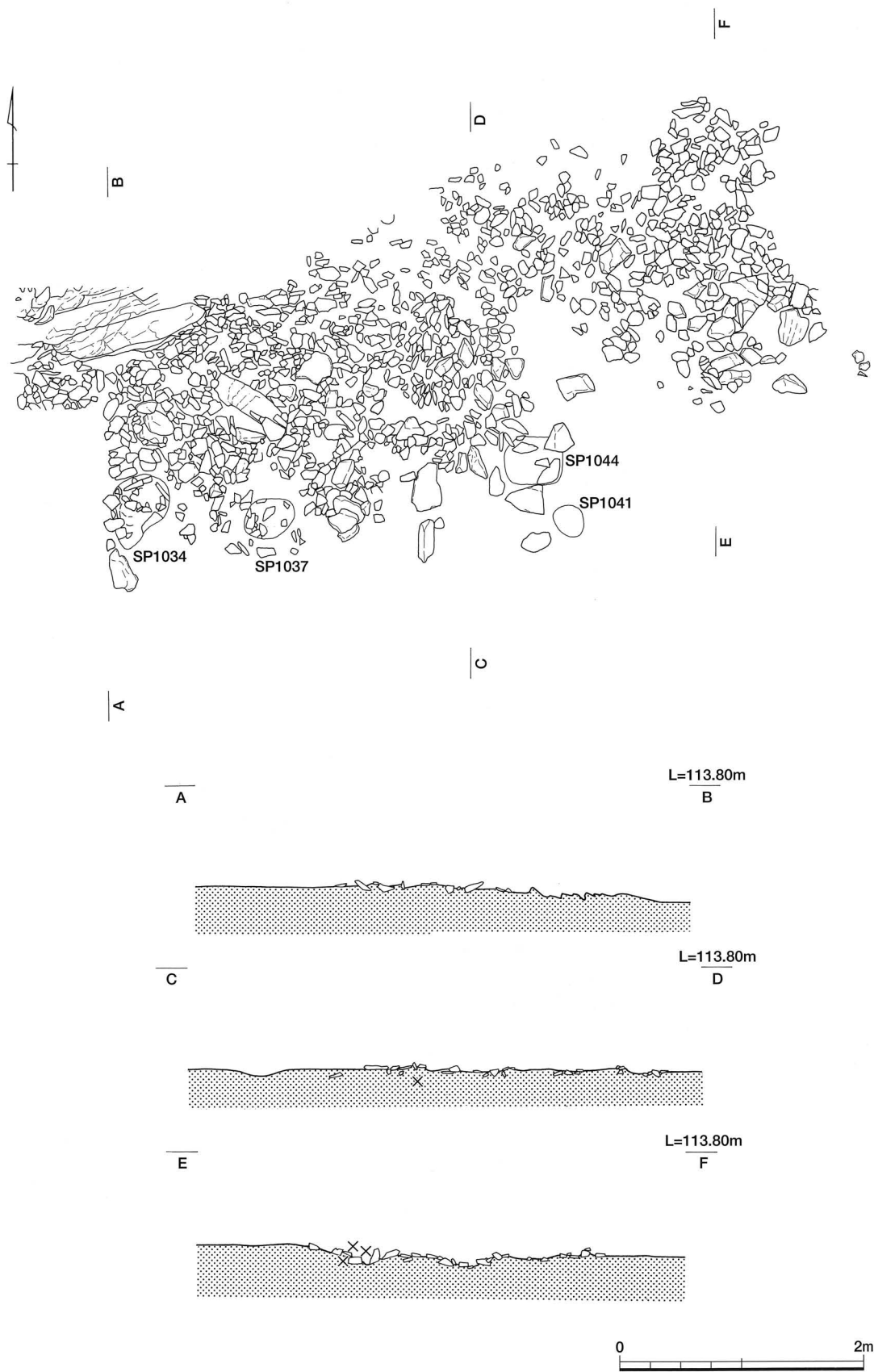
28、29は土師器の杯である。30は土師器の小皿である。31は須恵器の甕である。32は白磁の杯である。33、34は鉄製の釘である。



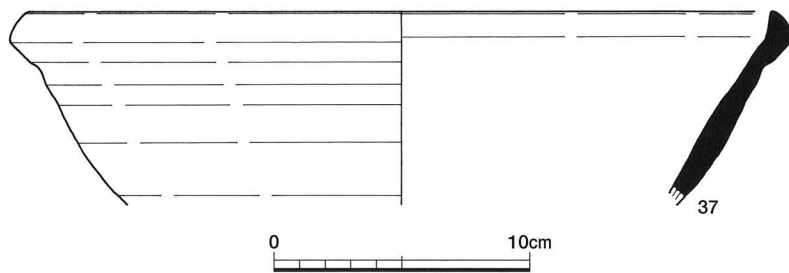
第28図 A区SU1001平・断面図



第29図 A区SU1001出土土器



第30图 A区SU1002·1003平·断面图



第31図 A区SU1002出土土器

集石遺構 (SU)

1号集石遺構 (SU1001) (第28・29図)

調査区の北西側に位置する。検出グリッドはG-6グリッドである。遺構平面形状は、北東-南西方向に長軸をもつ不整楕円形を呈する。遺構規模は長軸1.9m、短軸1.46m、高さ0.14mを測る。遺構北側の一辺には、比較的大振りの直径30cm前後を測る結晶片岩板石を並べ、平面的な遺構端部を形成しているようにも考えられる。しかし、それ以外には直径10cm前後の角礫を無造作に配している状況しか確認できなかった。よって北側以外の遺構範囲の特定は困難であるが、ひとまず礫の広がりをもつ遺構範囲として捉えることにした。

ところが、遺構断面を観察してみると、これらの集石には石組み状に構築している様子は確認できず、平面的な広がりを捉えるにすぎなかった。さらに礫群の除去後には遺構と認定できるような掘り込みもなされていなかったため、遺構の機能的なものまでは判断できなかった。

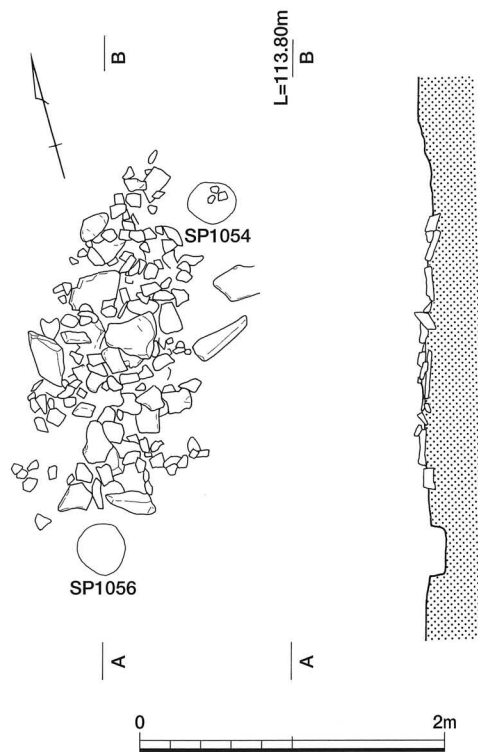
この礫群中より2点の遺物が出土した。35は土師器の杯である。36は土師器の小皿である。

遺構の時期は、出土遺物の法量などから見て15世紀後半から16世紀初頭にかけて構築されたものと考えられる。

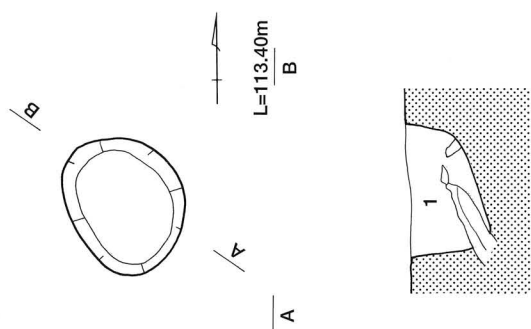
2号集石遺構 (SU1002) (第30・31図)

調査区の北西側に位置する。検出グリッドはF・G-5・6グリッドである。SA1003と重複し、SP1034、1037、1044と切り合う。遺構平面形状は、東西に主軸をもつ不整楕円形を呈する。東側に隣接するSU1003とは境界が明瞭ではなく、連続する遺構のようにも捉えうる。遺構規模はSU1002と1003の両者をあわせた規模で長軸6.64m、短軸3.09m、高さ0.2mを測る。

当該遺構周辺には地山の岩盤礫が広範囲に散布しており、遺構の北西側では一部岩盤が露呈している。さらにこの岩盤礫を利用して集石遺構を形成しているため遺構範囲がつかみにくく、遺構範囲の特定は困難であった。発掘調査当時は2基の集石遺構が連続するものと捉えていたが、整理作業の段階に至っ



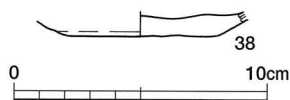
第32図 A区SU1004平・断面図



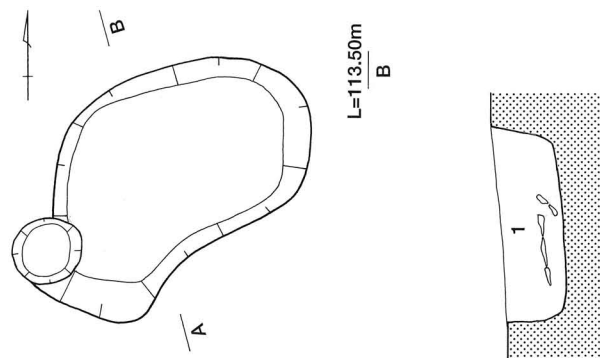
1. オリーブ褐色 2.5Y4/4 砂質土 炭化物小片を若干含む

0 50cm

第33図 A区SP1004平・断面図

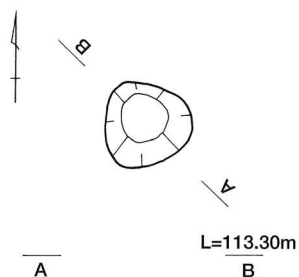
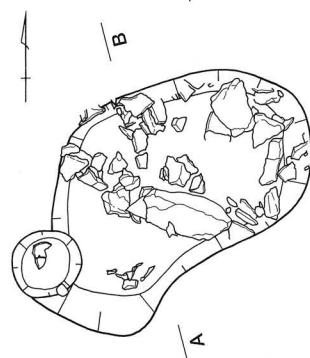


第34図 A区SP1004出土土器



1. オリーブ褐色 2.5Y4/4 砂質土
φ1cm弱の炭化物を少し含む

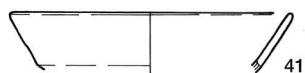
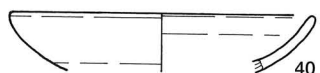
0 1m



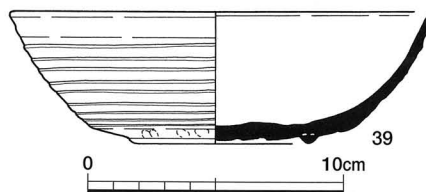
1. オリーブ褐色 2.5Y4/4 砂質土

0 50cm

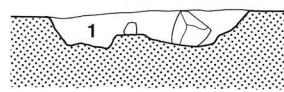
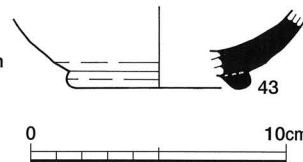
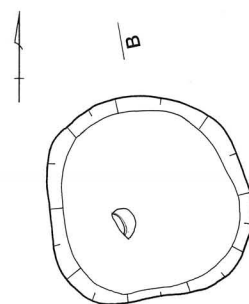
第36図 A区SP1025平・断面図



第37図 A区SP1025出土土器



第35図 A区SP1006平・断面遺物出土状況図・出土土器



1. 褐色 10YR4/6 砂質土

0 50cm

第38図 A区SP1038平・断面遺物出土状況図・出土土器

て一連の遺構であると判断した。特定した範囲内には結晶片岩の岩盤礫が無造作に寄せ集められたようであり、組まれたり積み上げられたりしている様子はなく、比較的礫が密集している平面的な広がりを出構範囲として捉えるにとどまった。また、礫の大きさにもばらつきがあり、直径30cm前後の板状のものから10cm前後の角礫まで混在していた。さらに礫群の除去後には遺構と認定できるような掘り込みもなされていなかったため、遺構の機能的なものまでは判断できなかった。

この礫群中より1点の遺物が出土した。37は須恵器のこね鉢である。

遺構の時期は、14世紀後半から15世紀にかけてと考えられる。

4号集石遺構 (SU1004) (第32図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-4・5グリッドである。SA1001、1002と重複し、SP1054、1056と切り合う。遺構平面形状は、北東-南西に主軸をもつ楕円形を呈する。遺構規模は長軸2.42m、短軸1.48m、高さ0.16mを測る。

当該遺構周辺には地山の岩盤礫が広範囲に散布しており、さらにこの岩盤礫を利用して集石遺構を形成しているため遺構範囲がつかみにくく、SU1002と同様に遺構範囲の特定は困難であった。特定した範囲内には結晶片岩の岩盤礫が無造作に集められており、組まれたり積み上げられたりしている様子はなく、平面的な広がりを捉えるにとどまった。また、礫の大きさにもばらつきがあり、直径30cm前後の板状のものから10cm前後の角礫まで混在していた。さらに礫群の除去後には遺構と認定できるような掘り込みもなされていなかったため、遺構の機能的なものまでは判断できなかった。

出土遺物に図化することができるものはなかった。

小穴・柱穴 (SP)

4号小穴 (SP1004) (第33・34図)

調査区の中央に位置する。検出グリッドはG-8グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状はいびつな逆台形を呈する。遺構規模は径0.38m、深さ0.23mを測る。

遺構埋土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺構内には周辺にも多数みられる結晶片岩の岩盤礫が含まれていた。

38は土師器の杯である。

6号小穴 (SP1006) (第35図)

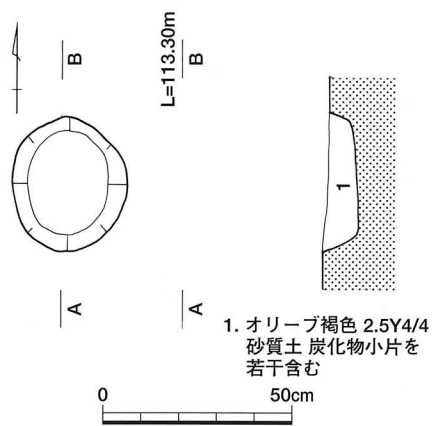
調査区の中央に位置する。検出グリッドはG-7・8グリッドである。遺構平面形状は不整楕円形を呈し、遺構断面形状はいびつな逆台形を呈する。遺構規模は径1.32m、深さ0.30mを測る。

遺構埋土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺構内には周辺にも多数みられる結晶片岩の岩盤礫が含まれていた。

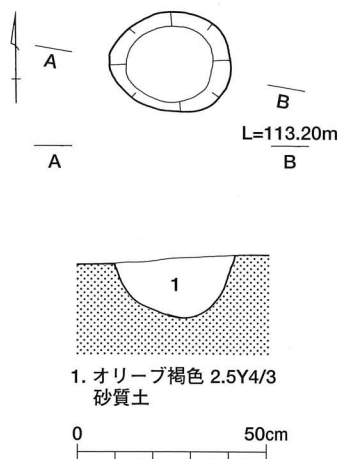
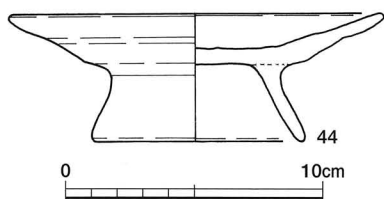
39は須恵器の碗である。

25号小穴 (SP1025) (第36・37図)

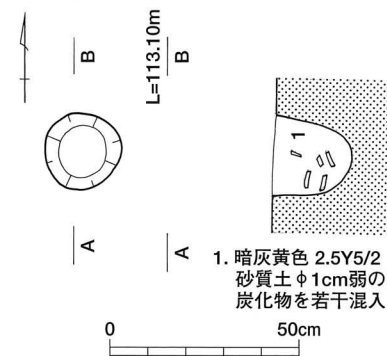
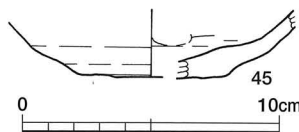
調査区の西側に位置する。検出グリッドはG-6グリッドである。遺構平面形状は不整円形を呈し、



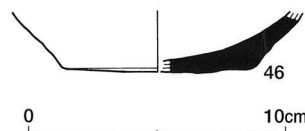
1. オリーブ褐色 2.5Y4/4
砂質土 炭化物小片を
若干含む



1. オリーブ褐色 2.5Y4/3
砂質土



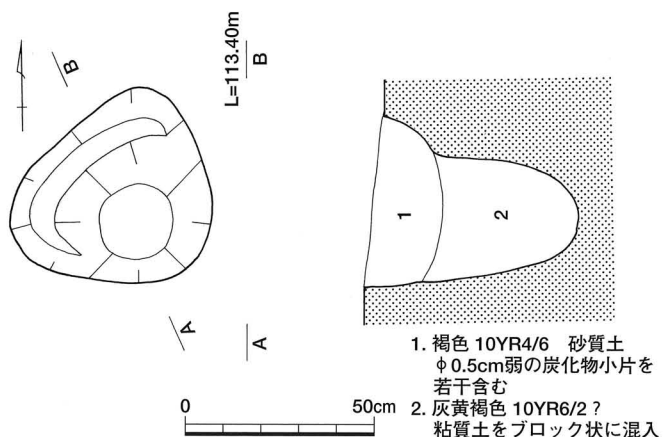
1. 暗灰黄色 2.5Y5/2
砂質土 φ1cm弱の
炭化物を若干混入



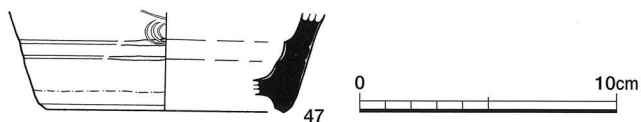
第41図 A区SP1070平・断面図・出土土器

第39図 A区SP1053平・断面図・出土土器

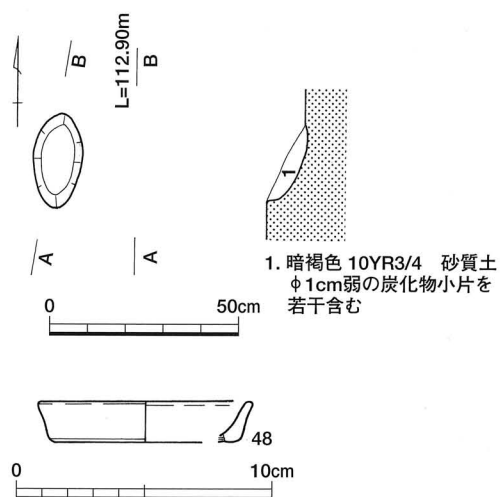
第40図 A区SP1054平・断面図・出土土器



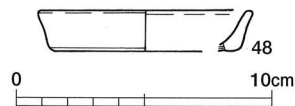
1. 褐色 10YR4/6 砂質土
φ0.5cm弱の炭化物小片を
若干含む
2. 灰黄褐色 10YR6/2?
粘質土をブロック状に混入



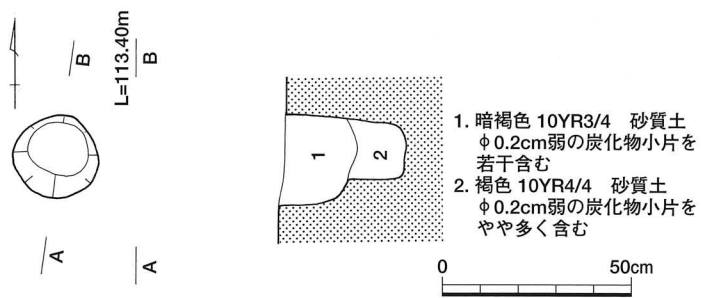
第42図 A区SP1154平・断面図・出土土器



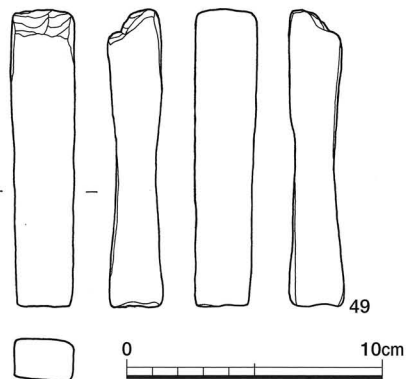
1. 暗褐色 10YR3/4 砂質土
φ1cm弱の炭化物小片を
若干含む



第43図 A区SP1162平・断面図・出土土器



1. 暗褐色 10YR3/4 砂質土
φ0.2cm弱の炭化物小片を
若干含む
2. 褐色 10YR4/4 砂質土
φ0.2cm弱の炭化物小片を
やや多く含む



第44図 A区SP1175平・断面図・出土土器

遺構断面形状は船底形を呈する。遺構規模は径0.24m、深さ0.16mを測る。

遺構埋土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

40、41は土師器の杯である。

38号小穴 (SP1038) (第38図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-6グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状はいびつな逆台形を呈する。遺構規模は径0.58m、深さ0.11mを測る。

遺構埋土は褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺構内には周辺にも多数みられる結晶片岩の岩盤礫が含まれていた。

42は土師器の小皿である。43は須恵器の椀である。

53号小穴 (SP1053) (第39図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-5グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.36m、深さ0.10mを測る。

遺構埋土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

44は土師器の台付皿である。

54号小穴 (SP1054) (第40図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-5グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は船底形を呈する。遺構規模は径0.32m、深さ0.17mを測る。

遺構埋土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

45は土師器の杯である。

70号小穴 (SP1070) (第41図)

調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-4グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は船底形を呈する。遺構規模は径0.22m、深さ0.22mを測る。

遺構埋土は暗灰黄色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

46は土師器の杯である。

154号小穴 (SP1154) (第42図)

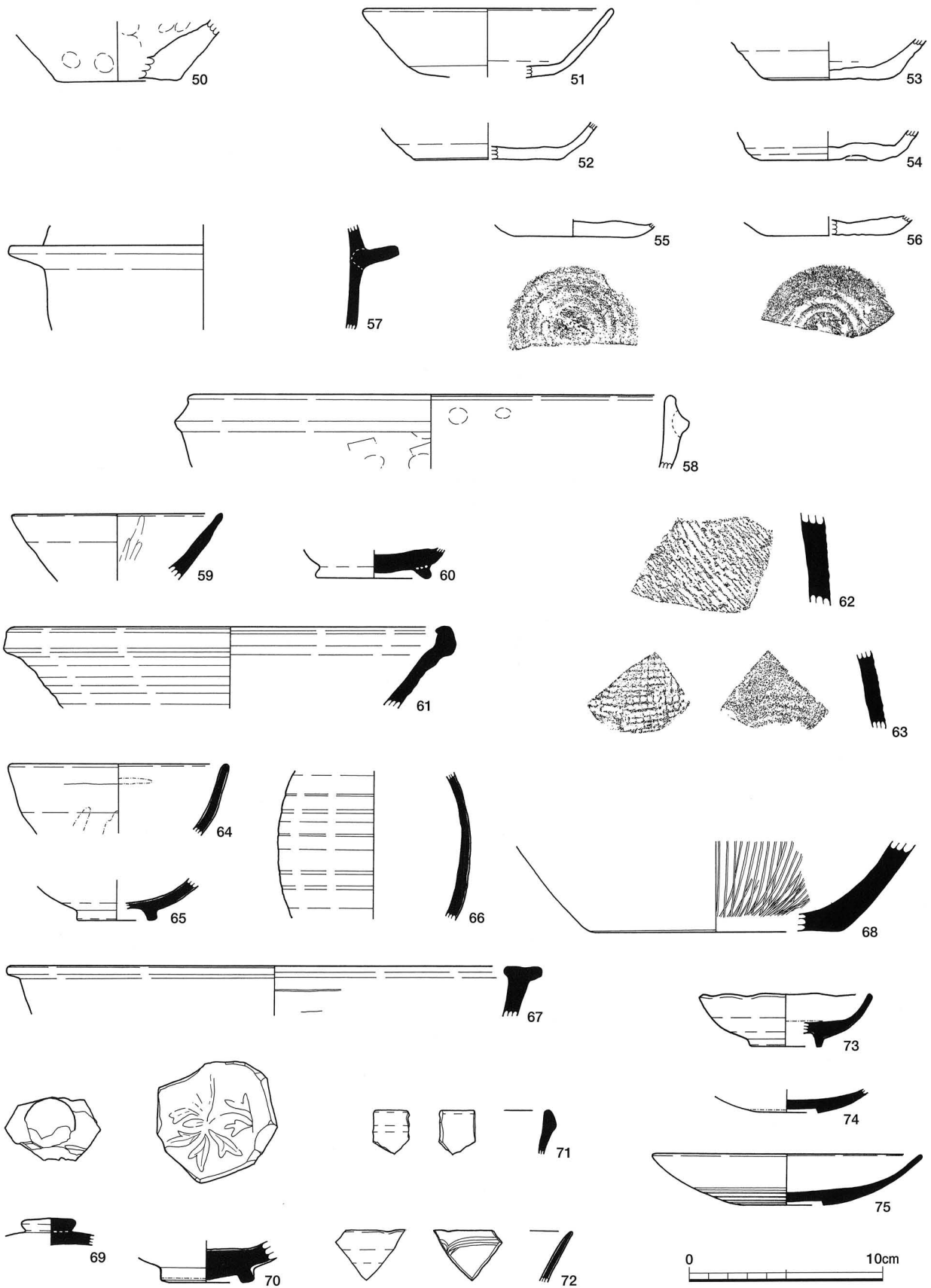
調査区の西側に位置する。検出グリッドはF-7グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状はいびつな逆台形を呈する。遺構規模は径0.56m、深さ0.56mを測る。

遺構埋土は2層に分層することができ、褐色と灰黄褐色を呈する砂質土が堆積する。遺構内には周辺にも多数みられる結晶片岩の岩盤礫が含まれていた。

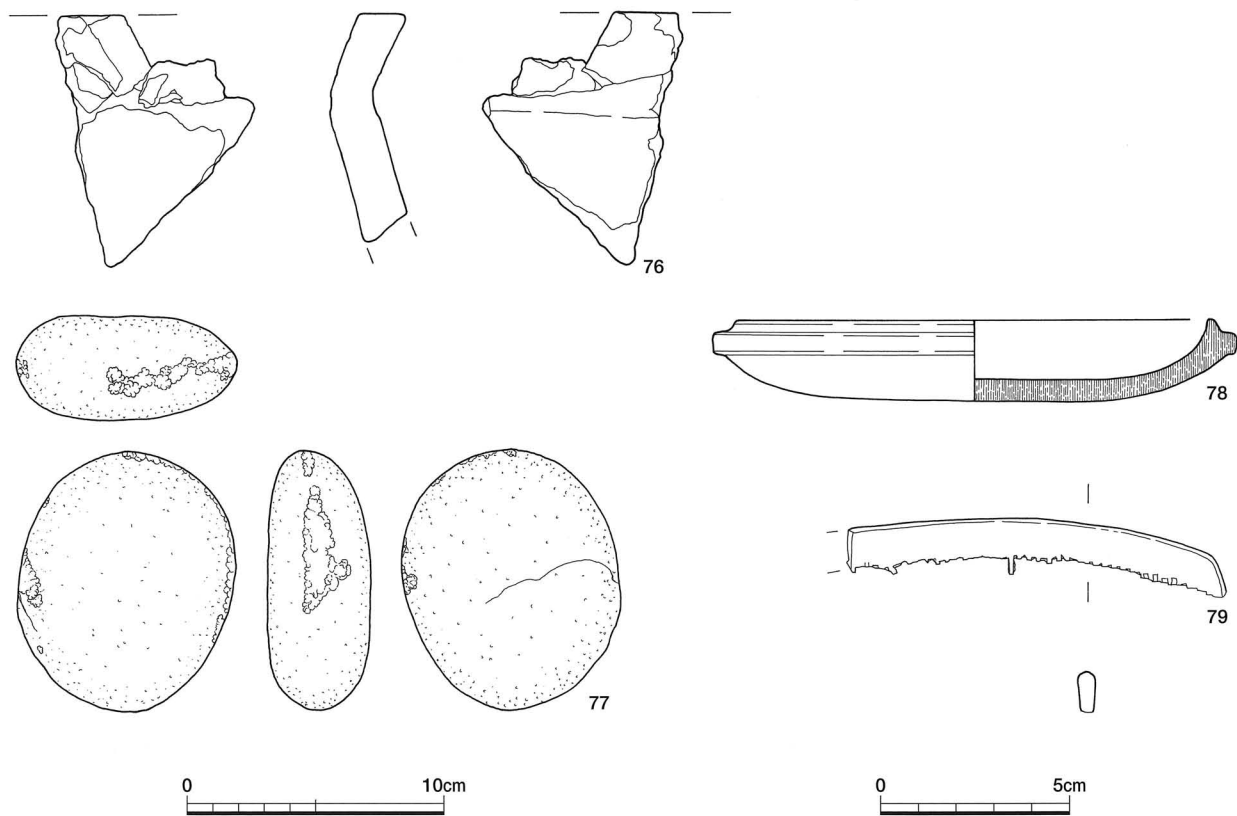
47は磁器の壺である。

162号小穴 (SP1162) (第43図)

調査区の東側に位置する。検出グリッドはH-11グリッドである。遺構平面形状は楕円形を呈し、遺



第45图 包含層出土土器 (1)



第46図 包含層出土遺物 (2)

構断面形状はいびつな船底形を呈する。遺構規模は径0.25m、深さ0.10mを測る。

遺構埋土は暗褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺構内には周辺にも多数みられる結晶片岩の岩盤礫が含まれていた。

48は土師器の小皿である。

175号小穴 (SP1175) (第44図)

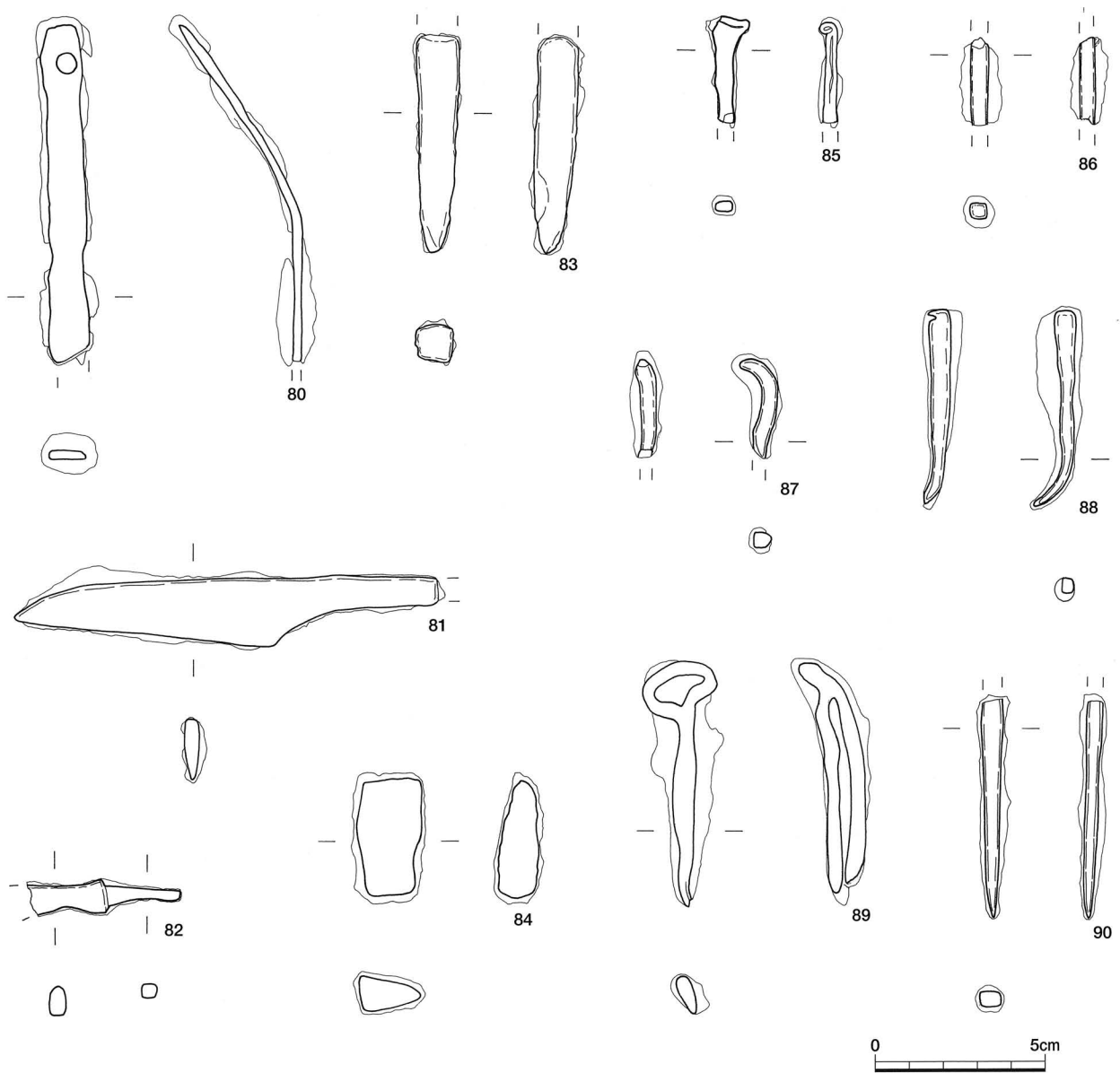
調査区の東側に位置する。検出グリッドはG-11グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状はいびつな逆台形を呈する。遺構規模は径0.23m、深さ0.34mを測る。

遺構埋土は2層に分層することができ、暗褐色と褐色を呈する砂質土が堆積する。1・2層とも小片ではあるが炭化物を含んでいる。

49は凝灰岩製の砥石である。

包含層出土遺物 (第45～47図)

包含層出土遺物は計41点を図化することができた。本調査地点で確認された遺構は中世を主体としており、さほど時間幅がみられなかったため時期ごとに遺構にふれていくことをさけて報告した。それに従って包含層出土遺物も時期ごとに分けることをせずに、ここで一括してふれることにしたい。概略はおおむね中世遺物が中心となるが、次いで近世遺物が比較的散見でき、弥生時代後期の土器、石器がわ



第47図 包含層出土鉄器 (3)

ずかにみられた。

50は弥生土器の壺である。51～54は土師器の杯である。55、56は土師器の小皿である。57は須恵器、58は土師器の羽釜である。59、60は須恵器の椀である。61は須恵器のこね鉢である。62、63は須恵器の甕である。64、65は陶器の碗である。66は陶器の壺である。67は陶器の甕である。68は陶器の播り鉢である。69は磁器の蓋である。70～72は青磁の碗である。73～75は磁器の皿である。76は平瓦である。77は砂岩製の敲石である。78は木製の杯である。79は木製の櫛である。80は鉄製の鉋と思われる。81、82は刀子と思われる。83、84は鑿であろうか。85～90は鉄製の釘である。

3 まとめ

本遺跡において確認された火葬墓ST1001は、中世の墓制を考える上で稀少な発見例となった。同様に礫を方形に配し構築された火葬墓は、吉野川流域においては三好町円通寺遺跡ST1001¹⁾に類例を求めることができる。ここでは円通寺遺跡火葬墓と山田遺跡(Ⅱ)火葬墓の被葬者をわずかではあるが比較することでまとめにかえたいと思う。

山田遺跡(Ⅱ)は吉野川の東流する部分の最も上流部分に含まれ、その流域で形成される砂州の中でも最西端にあたる。さらに、池田町を形成する台地の東端から見下ろす位置にある。

近代以前の吉野川は阿波北部の東西を結ぶ交通および物流の幹線であり、大動脈であったことは多くの人が知るところ²⁾であり、いくつかの傍証からうかがうことができる。

そこで改めて本遺跡の位置を見てみると、遺跡前面右側には吉野川の河原や砂州が広がり、左側にはこの砂州と池田の台地が接する部分を目視できる環境にある。つまり吉野川下流から船運を使い運搬した物資を池田町域に陸揚げする地点として近年まで使用されていた「池田の浜」を眼下にもつことになる。一方目を北に転じれば、北岸から陸路をとれば讃岐へ通ずる猪ノ鼻峠越えの路の起点があるところまでを見通すことができる。

そこで、周辺の中世城館遺跡の分布をみると、池田町白地城跡、中西城跡、三好町田ノ岡城跡、井川町野津後城跡などが吉野川北岸・南岸から挟むように立地している。当該遺跡は白地城跡・中西城跡と田ノ岡城跡・野津後城跡のちょうど中間地点に位置しており、かつ池田町ウエノに所在する池田の浜は近代から大正年間までは最良の川港として利用され、この浜までは直線距離にして650mほどの近さである。つまり、中世城館の中間に位置し、且つ水陸運の起点になるような位置を視野におさめていた当時の流通経済に深く関わっていた人物が被葬されたのではないかと考えられる。

ところで当該遺跡の被葬者がどこまで吉野川における経済流通に関わっていたかを実証するべく回答を提示することは出土遺物が非常に少ないために困難で確証を探り得ないが、円通寺遺跡における城館の居住者との類似点を抽出することで当地の在地勢力が吉野川の水運を自己の経済基盤として取り込みつつあった状況を類推することができ、このことから中世段階の吉野川の水運と陸運の交差点が経済獲得の対象として要衝の地として認識され、これを押さえるために重点を置いていたことは、想像以上に重要であった³⁾と考えられ、当該遺跡の被葬者もこれに匹敵する位置にあったのではないだろうか。

註

1) 辻佳伸ほか『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 15 円通寺遺跡』

(財)徳島県埋蔵文化財センター 2000

2) 『川と人間－吉野川流域史－』 溪水社 1998

3) 福家清司「第3節 大山崎油商人と吉野川の水運」『中島田遺跡・南島田遺跡』徳島県教育委員会 1989

第1表 山田遺跡（Ⅱ） 検出遺構一覧表 堀立柱建物跡

遺跡番号	調査区	位置	平面形態	構造 (間)	遺構規模 (cm)				面積 (㎡)	主軸方位	付属施設	出土遺物
					梁間		桁行					
					長軸	柱間寸法	長軸	柱間寸法				
SA1001	A区	E・F-4・5	側柱式	1×2	270	270.0	495	247.5	13.37	N-73°-E	北庇	土師器小皿1、須惠器碗1
SA1002	A区	E・F-4・5	側柱式	1×2	240	240.0	395	197.5	9.48	N-16°-W	-	
SA1003	A区	E・F-5・6	側柱式	1×2	230	230.0	375	187.5	8.63	N-21°-W	-	
SA1004	A区	F~H -7~9	側柱式	2×3	465	232.5	735	245.0	34.18	N-21°-W	東西庇	
SA1005	A区	F~H -8・9	側柱式	2×3	520	260.0	580	193.3	30.16	N-17°-W	-	土師器杯1、須惠器碗1、鉄整釘1
SA1006	A区	G・H -9・10	側柱式	1×1	275	275.0	410	410.0	11.28	N-16°-W	-	土師器小皿3、土師器台付皿1、土師器杯1
SA1007	A区	G・H -10・11	側柱式	2×2	500	250.0	535	267.5	26.75	N-76°-E	東庇	土師器小皿3、土師器碗1、土師器台付皿1

第2表 山田遺跡（Ⅱ） 遺構一覧表 SD

遺構番号	調査区	位置 (グリッド)	規模 (cm)			出土遺物	備考
			長さ	幅	深さ		
SD1001	A区	G-10・11	520	26	12	須惠器碗1	
SD1002	A区	G-10・11	744	14	7		

第3表 山田遺跡（Ⅱ） 遺構一覧表 SJ

遺構番号	調査区	位置 (グリッド)	規模 (cm)			平面形	断面形	出土遺物	備考
			長さ	幅	深さ				
SJ1001	A区	G・H -10~13	1964	400	88	-	-	須惠質碗1、須惠質甕1、すり鉢1、土師甑1、土師羽釜(脚)1、土師土錘1、青磁碗1、磁器碗1、陶器碗1、鉄釘1	

第4表 山田遺跡（Ⅱ） 遺構一覧表 ST

遺構番号	調査区	位置 (グリッド)	規模 (cm)			平面形	断面形	出土遺物	備考
			長さ	幅	深さ				
ST1001	A区	E・F -2・3	655	500	40	長方形	-	土師皿1、土師杯1、土師小皿1、須惠器甕1、白磁杯	

第5表 山田遺跡（Ⅱ） 遺構一覧表 SU

遺構番号	調査区	位置 (グリッド)	規模 (cm)			平面形	断面形	出土遺物	備考
			長さ	幅	深さ				
SU1001	A区	G-6	190	146	14	不整楕円形	-	土師杯1	
SU1002	A区	F・G-5・6	664	309	20	不整楕円形	-	須惠器こね鉢1	
SU1003	A区	F・G-5・6				不整楕円形	-		
SU1004	A区	F-4・5	242	148	16	楕円形	-		

第6表 山田遺跡(Ⅱ) 遺構一覧表 SP

遺構番号	調査区	位置 (グリット)	規模(cm)		出土遺物	備考
			長軸	深さ		
SP1001	A区	H-9	58	10		
SP1002	A区	G・H-8	78	16		
SP1003	A区	F-8	40	22		
SP1004	A区	G-8	38	23	土師杯1	
SP1005	A区	G-7	65	24		SA1004
SP1006	A区	G-7・8	132	30	須恵器椀1	
SP1007	A区	G-7・8	30	8		
SP1008	A区	G-7	42	20		
SP1009	A区	G-7	51	25		
SP1010	A区	F・G-7	26	7		
SP1011	欠番					
SP1012	A区	G-7	22	14		
SP1013	A区	G-7	30	5		
SP1014	A区	G-7	20	5		
SP1015	A区	G-7	24	14		
SP1016	A区	F・G-7	73	10		
SP1017	A区					
SP1018	A区	F-7	52	29		
SP1019	A区	F・G-7	56	13		
SP1020	A区	G-7	22	6		SP1021を切る
SP1021	A区	G-7	(22)	14		SP1020に切られる
SP1022	A区	G-7	34	8		
SP1023	A区	F-5	34	19		
SP1024	A区	G-7	36	13		
SP1025	A区	G-6	24	16	土師皿1、土師杯1	
SP1026	A区	G-6	35	12		
SP1027	A区	G-6	49	10		
SP1028	欠番					
SP1029	A区	F-7	56	19		
SP1030	A区	F-6・7	35	13		
SP1031	A区	F-6	22	4		
SP1032	A区	F-6	48	10		
SP1033	A区	F-6	26	15		
SP1034	A区	F-5	56	18		SA1003
SP1035	A区	G-6	28	7		
SP1036	A区	G-6	46	5		
SP1037	A区	F-5	39	17		
SP1038	A区	F-6	58	11	土師小皿1、須恵器椀1	
SP1039	A区	F-5	26	10		
SP1040	A区	F-5	30	11		
SP1041	A区	F-6	24	16		
SP1042	A区	F-6	37	34		
SP1043	A区	F-6	35	35		
SP1044	A区	F-6	46	17		
SP1045	A区	F-5	19	13		
SP1046	A区	E-5	44	13		SA1003
SP1047	A区	F-5	50	7		
SP1048	A区					
SP1049	A区	F-5	26	15		
SP1050	A区	F-5	28	18		
SP1051	A区	F-5	34	8		SA1002
SP1052	A区	F-5	34	12		SA1001

遺構番号	調査区	位置 (グリット)	規模(cm)		出土遺物	備考
			長軸	深さ		
SP1053	A区	F-5	36	10	土師器台(台付皿)1	
SP1054	A区	F-5	32	17	土師杯1	
SP1055	A区	F-5	38	25	土師小皿1	SA1001
SP1056	A区	F-4	38	10		SA1002
SP1057	A区	F-4	27	23		
SP1058	A区	E・F-4	28	19		SA1001
SP1059	A区	E-4	-	10		S-N12cm(断面図より)
SP1060	A区	E-4・5	28	16		SA1002
SP1061	A区	E-5	24	17		SA1001
SP1062	A区	E-4	34	10		
SP1063	A区	E-4	30	14		
SP1064	A区	E-4・5	24	7		
SP1065	A区	E-5	21	11		
SP1066	A区	E-4	35	24		SA1001
SP1067	A区	E-4	22	30		
SP1068	A区	F-7	24	6		
SP1069	A区	F-7	33	17	土師杯1	
SP1070	A区	F-4	22	22		
SP1071	A区	F-4	36	23		
SP1072	A区	H-9	38	42	土師小皿1、台付皿1、杯1	SA1007
SP1073	A区	H-9	34	25	土師杯1、須恵器椀1、鉄釘1	SA1005
SP1074	A区	G-9	28	18		
SP1075	A区	G-9	28	19		SA1005
SP1076	A区	G-9	21	18		SA1005
SP1077	A区	G-9	38	36	土師皿1	SA1007
SP1078	A区	G-9	28	25		
SP1079	欠番					
SP1080	A区	H-9	30	17		
SP1081	A区	H-9	21	15		SA1005
SP1082	A区	G・H-9	18	13		
SP1083	A区	G-9	82	16		
SP1084	A区	G-9	24	11		
SP1085	A区	G-8	31	17		SA1004
SP1086	A区	G-8・9	34	32		SA1004
SP1087	A区	F-9	20	24		
SP1088	A区	F-9	28	31		SA1004
SP1089	A区	F-8	33	56		SA1004
SP1090	A区	G-8	30	27		SA1004
SP1091	A区	G-8	26	21		SA1005
SP1092	A区	G-8	80	28		SA1004
SP1093	A区	G-8	23	20		
SP1094	A区	G-8	28	16		SA1005
SP1095	A区	G・H-8	37	18		SA1004
SP1096	A区	F-8	32	35		
SP1097	A区	G-8	22	18		
SP1098	A区	G-8	22	17		
SP1099	A区	G-7	46	24		SA1004
SP1100	A区	G-7	63	31		SA1004
SP1101	A区	G-7	32	14		
SP1102	A区	G-6	-	18		W-E26cm(断面図より)
SP1103	A区	G-7	40	10		
SP1104	A区	G-7	36	23		SA1004

遺構番号	調査区	位置 (グリット)	規模(cm)		出土遺物	備考
			長軸	深さ		
SP1105	A区	F-7	58	47		SA1004
SP1106	A区	F-7	43	41		SA1004
SP1107	A区	F-7	30	23		SA1004
SP1108	欠番					
SP1109	A区	F-6	33	24		
SP1110	A区	F-6	32	12		
SP1111	A区	G-6	26以上	7		N-S15cm(断面図より)
SP1112	A区	F・G-6	24	18		
SP1113	A区	F-6	33	23		SA1003
SP1114	A区	F-6	26	4		
SP1115	欠番	F-6	64	35		
SP1116	A区	F-5・6	28	23		
SP1117	A区	F-5	32	20		
SP1118	A区	F-6	33	26		
SP1119	A区	E-5	33	31		
SP1120	A区	E-5	37	25		
SP1121	A区	F-5	14以上	7		
SP1122	A区	F-5	22	8		
SP1123	A区	F-5	30	12		
SP1124	A区	F-5	-	22		N-S20cm(断面図より)
SP1125	A区	F-5	24以上	14		
SP1126	A区	E-5	35	23		SA1002
SP1127	欠番					SP1061に
SP1128	A区	E-5	27	11		
SP1129	A区	F-4	30	9		SA1002
SP1130	A区	F-4	22	6		
SP1131	A区	F-4	31	17		SA1001
SP1132	A区	F-4	21	15		
SP1133	A区	E-4	16	13		
SP1134	A区	F-4	22	14		
SP1135	A区	F-4	42	23		SA1001
SP1136	A区	E-4	25	15		
SP1137	A区	E-4	29	18		SA1001
SP1138	A区	E-4	32	9		
SP1139	A区	G-8	18	8		
SP1140	欠番					
SP1141	A区	E-4	27	19	須恵器椀1	SA1001
SP1142	A区	G-7	28	18		
SP1143	A区	H-9	28	13		
SP1144	A区	G-11	41	24		SA1006
SP1145	A区	G-11	29	54	土師小皿2	SA1006
SP1146	A区	G-10	26	25		SA1007
SP1147	A区	G-9	20	21		
SP1148	A区	F-8	25	31		SA1005
SP1149	A区	F-8	29	28		
SP1150	A区	G-8	20	24		
SP1151	A区	G-8	21	15		
SP1152	A区	G-10	26	20		SA1006
SP1153	A区	F-8	54	25		SA1004
SP1154	A区	F-7	56	56	磁器不明1	
SP1155	A区	F-7	40	21		

遺構番号	調査区	位置 (グリット)	規模(cm)		出土遺物	備考
			長軸	深さ		
SP1156	A区	H-11	33	27		SA1006
SP1157	A区	H-11	22	23		SA1006
SP1158	A区	G-9	-	28		N-S11cm(断面図より)
SP1159	A区	F-7	17	6		
SP1160	A区	F-7	26	26		
SP1161	A区	F-6	21	18		
SP1162	A区	H-11	25	10	土師皿1	
SP1163	A区	H-11	58	17	土師小皿1、土師椀1	SA1006
SP1164	A区	E-5	26	41		
SP1165	A区	F-6	30	24		
SP1166	欠番	F-8	31	21		
SP1167	A区	F-7・8	39	50		
SP1168	A区	F-6	61	19		SA1003
SP1169	A区	F-6	28	15		SA1004
SP1170	A区	G-6	44	9		
SP1171	A区	H-10	49	29		SA1007
SP1172	A区	H-10	57	13	土師台付杯1	SA1006
SP1173	A区	H-10	35	13		SA1006
SP1174	A区	H-10	24	21		
SP1175	A区	G-11	23	34	砥石1	凝岩石
SP1176	A区	G-9	17	11		
SP1177	A区	G-9	22	17		
SP1178	A区	G-9	18	17		
SP1179	A区	G-9	72	19		
SP1180	欠番	-	-	-		
SP1181	A区	G-11	42	20		SA1006
SP1182	A区	H-9	23	16		
SP1183	A区	H-10	28	32		SA1006
SP1184	A区	G-10	26	25		
SP1185	A区	G-9	25	38		SA1005
SP1186	A区	G-8	22	27		SA1005
SP1187	A区	G-8	60	23		
SP1188	A区	G-8	30	19		
SP1189	A区	G-8	32	22		
SP1190	A区	F-8	22	26		
SP1191	A区	F-8	25	29		
SP1192	A区	G-8	81	28		
SP1193	A区	E-7	22	10		
SP1194	A区	F-6	50	52		SA1003
SP1195	A区	E-6	22	32		
SP1196	A区	E・F-5	20	20		
SP1197	A区	F-5	17	25		
SP1198	A区	H-12	30	21		
SP1199	A区	G-10	24	9		
SP1200	A区	G-8	30	20		
SP1201	A区	F-7	21	18		
SP1202	A区	F-7	26	29		
SP1203	A区	E-6	28	16		
SP1204	A区	E-6	19	13		
SP1205	A区	E-5	30	15		
SP1206	A区	G-9	54	68		

第7表 山田遺跡(Ⅱ)発掘調査 出土遺物観察表 土器

番号	遺構名 出土地点	器種	残存率	口径 (cm)	体部 最大径 (cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他の 法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入品
1	A区 SP1055	土師器 小皿	95%	6.8	-	5.1	-	1.4	-	外)口縁体部:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:ヨコナデ、底部:回転ナデ	外)橙 内)橙	雲、片、赤	
2	A区 SP1141	須恵器 碗	35%	-	-	高台径 (7.1)	-	(2.2)	高台高 0.2	内・外)磨滅の為調整不明	外)灰黄 内)浅黄	泥	
3	A区 SP1073	土師器 杯	80%	12.2	-	6.5	-	4.0	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)赤褐 内)赤褐	雲、長、頁	
4	A区 SP1073	須恵器 碗	60%	13.8	-	4.8	-	4.9	高台高 0.2	外)口縁体部:回転ナデ、底部:貼付高台 内)口縁体部:回転ナデ	外)灰白 内)灰白	雲、長	
6	A区 SP1077	土師器 皿	25%	7.8	-	6.0	-	1.4	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)橙 内)にぶい橙	雲、石、赤、 結	
7	A区 SP1072	土師器 小皿	50%	8.1	-	(5.5)	-	1.3	-	外)口縁体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:ナデ	外)橙 内)橙	赤、長、結	
8	A区 SP1072	土師器 小皿	90%	7.6	-	5.8	-	1.3	-	外)口縁体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り後ヘラ圧痕 内)口縁体部:ナデ	外)赤橙 内)赤橙	石、雲、赤、 片	
9	A区 SP1072	土師器 台付皿 (脚部)	22%	-	-	高台径 (7.5)	-	(3.0)	-	外)その他:回転ナデ? 内)その他:回転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	長、雲、赤	
10	A区 SP1072	土師器 杯	25%	-	-	(9.4)	-	(2.1)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体部:回転ナデ	外)体部:にぶい橙 底部:にぶい黄橙 内)橙	石、赤、結	
11	A区 SP1145	土師器 小皿	80%	7.8	-	6.0	-	1.4	-	外)口縁体部:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ、 指オサエ 内)口縁体部:ヨコナデ、底部:回転ナデ	外)橙 内)にぶい橙	雲、長、赤	
12	A区 SP1145	土師器 小皿	60%	7.9	-	(6.0)	-	1.3	-	外)口縁体部:ナデ 内)口縁体部:ナデ	外)橙 内)橙	石、雲、結、 赤	
13	A区 SP1163	土師器 小皿	100%	8.4	-	6.4	-	1.6	-	外)口縁体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:ナデ ※口縁部内外面の一部に黒斑有り	外)にぶい黄橙 内)橙	雲、長	
14	A区 SP1163	土師器 碗	17%	14.6	-	-	-	(4.0)	-	外)口縁体部:回転ナデ・ヘラミガキ? 内)口縁体部:ヨコナデ	外)にぶい橙 内)にぶい黄	雲、長、赤、 頁	
15	A区 SP1172	土師器 台付杯	80%	15.0	-	8.4	-	5.5	高台高 3.2	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り(貼付 高台)その他:(高台部)回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ、その他:(高台部)回転ナ デ	外)橙 内)橙	石、雲、長、 赤	
16	A区 SD1001	須恵器 碗	12%	15.2	-	-	-	(2.7)	-	外)口縁体部:回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)灰 内)灰	砂、石	
17	A区 SD1001	須恵器 碗	50%	14.9	-	高台径 5.2	-	5.5	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:ヘラケズリ後ナデ、底部: 貼付高台 内)口縁部:ミガキ	外)灰 内)灰白	長、頁	
18	A区 SJ1001	土師器 甗?	25%	-	-	13.4	-	-	-	外)底部:ナデ、穿孔あり? 内)底部:ナデ、穿孔あり?	外)橙 内)橙	石、雲、結、 赤	
19	A区 SJ1001	土師器 羽釜(脚)	-	-	-	-	-	長さ 14.0	-	外)その他:指オサエ・指ナデ	外)明褐	石、長、雲、 赤、砂	
20	A区 SJ1001	須恵器 碗?	10%	12.6	-	-	-	(3.6)	-	外)口縁部:ヨコナデ、体部:回転ナデ 内)口縁部:ヨコナデ	外)灰白 内)灰白	石、雲	
21	A区 SJ1001	須恵器 甗	12%	31.8	-	-	29.4	(7.5)	-	外)口縁頸部:回転ナデ、体部:タタキ 内)口縁頸部:回転ナデ、体部:ハケ後ナデ	外)灰白 内)灰	長	
22	A区 SJ1001	青磁 碗	50%	-	-	高台径 (6.2)	-	(2.5)	高台高 0.2	外)体部:施釉、底部:高台内面無釉、一部施釉 内)体部:施釉 高台内、量付の一部に釉がかかる 高台内に置砂一ヶ所所着	外)くらい黄 内)くらい黄		
23	A区 SJ1001	陶器 碗	31%	-	-	高台径 (8.3)	-	(3.3)	高台高 0.6	外)体部:施釉、ヨコナデ、底部:無釉、回転ヘラケズ リ 内)底部:施釉、ヨコナデ、その他:高台内面、量付と も無釉	内・外)グレイミ のブラウン	雲、長	
24	A区 SJ1001	磁器 碗	25%	-	-	高台径 4.9	-	(2.2)	高台高 1.0	外)底部:施釉 内)底部:施釉、高台内面施釉、量付無釉 内外面、高台内とも貫入著しい	内・外)うすいオレ ンジ		
25	A区 SJ1001	備前焼 播鉢	5%	(36.2)	-	-	-	(4.3)	-	外)口縁体部:ナデ 内)口縁体部:ヨコナデ後スリ目	外)にぶい橙 内)橙	長	
26	A区 SJ1001	土師器 土錘	100%	長さ 8.5	幅 5.2	-	-	-	重さ 168.6g	外)ナデ・指オサエ(縄ずれ痕) 内)指ナデ	外)浅黄橙 内)浅黄橙	雲、赤	
28	A区 ST1001	土師器 皿	12%	-	-	7.4	-	(1.5)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り? 内)体部:回転ナデ後指オサエ	外)明赤褐 内)明赤褐	石、赤、結	
29	A区 ST1001	土師器 杯	95%	-	-	底径 6.2	-	(1.0)	-	外)体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体部:ナデ	外)明褐 内)明褐	石、雲、結	

番号	遺構名 出土地点	器種	残存率	口径 (cm)	体部 最大径 (cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他 の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
30	A区 ST1001	土師器 小皿	100%	7.4	-	6.5	-	1.1	-	外)口縁体部:ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲、長、赤、 頁	
31	A区 ST1001	須恵器 甕	-	-	-	-	-	(5.5)	-	外)体部:格子目タタキ 内)体部:ナデ	外)黄褐 内)にぶい黄褐	石、雲、結	
32	A区 ST1001	白磁 杯	15%	11.2	-	(6.4)	-	3.0	-	外)口縁体部:回転ナデ、施釉 内)口縁体部:回転ナデ、施釉 底部:ナデ 口縁、底部の一部無釉	外)黄みの白 内)黄みの白		
35	A区 SU1001	土師器 杯	95%	11.4	-	5.7	-	3.3	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:回転ナデ、底部:ナデ	外)明赤褐 内)赤褐	石、雲、結	
36	A区 SO1001	土師器 小皿	90%	7.7	-	6.2	-	1.2	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:回転ナデ、底部:ナデ	外)浅黄橙 内)浅黄橙	雲、赤頁	
37	A区 SU1002	須恵器 こね鉢	4%	30.7	-	-	-	(7.7)	-	外)口縁体部:回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)灰白 内)灰白	長、頁、石	東播系
38	A区 SP1004	土師器 杯	95%	-	-	6.0	-	(1.0)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)底部:回転ナデ	外)にぶい赤褐 内)明赤褐	雲、結	
39	A区 SP1006	須恵器 椀	50%	16.7	-	7.2	-	5.2	高台高 0.25	外)口縁部:ヨコナデ、体部:回転ナデ後沈線・指オサ エ後回転ナデ、底部:貼付高台後回転ナデ 内)口縁部:ヨコナデ、体部:板ナデ?	外)黄橙 内)黄橙	雲、長、頁	
40	A区 SP1025	土師器 皿	40%	12.0	-	-	-	(2.3)	-	外)口縁体部:回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)明赤褐 内)明褐	雲、石	
41	A区 SP1025	土師器 杯	24%	11.2	-	-	-	(2.4)	-	外)口縁体部:回転ナデ 内)口縁体部:回転ナデ	外)明褐 内)明褐	石、雲、結	
42	A区 SP1038	土師器 小皿	80%	7.7	-	4.3	-	1.7	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)口縁体部:回転ナデ後一方向のナデ、底部:回 転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲、結	
43	A区 SP1038	須恵器 椀	34%	-	-	高台径 (7.3)	-	3.1	高台高 0.5	外)体部:回転ナデ、底部:貼付高台 内)調整不明	外)にぶい黄橙 内)灰白	雲、結	
44	A区 SP1053	土師器 露台(台 付皿)	70%	14.8	-	高台径 8.4	6.7	5.0	高台高 3.0	外)口縁体部:回転ナデ、その他:貼付高台 内)口縁体部:回転ナデ、脚台:ヨコナデ	外)橙 内)橙	石、雲、赤、 片	
45	A区 SP1054	土師器 杯	20%	-	-	6.0	-	(2.7)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)体部:回転ナデ後指ナデ、底部:指オサエ	外)にぶい橙 内)浅黄橙	白、長、赤、 結	
46	A区 SP1070	土師器 杯	20%	-	-	(7.6)	-	(2.4)	-	外)体部:ナデ、底部:ヘラ切り後ナデ? 内)体部:回転ナデ	外)明赤褐 内)灰褐	長、赤、雲、 砂	
47	A区 SP1154	磁器 不明	10%	-	-	10.0	-	(3.9)	高台高 0.6	外)口縁体部:ロクロ・施釉、底部:回転ヘラケズリ後 回転ナデ(ケズリ出し高台)(露胎) 内)口縁体部:ロクロ・施釉	内)うすい青み の緑		
48	A区 SP1162	土師器 皿	20%	8.4	-	(7.6)	-	1.6	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:回転ナデ	内)外)にぶい黄橙	雲、砂、片	
50	A区 H-9 包含層	弥生 壺	40%	-	-	(6.4)	-	(3.1)	-	外)体部:指オサエ後ナデ、底部:ナデ 内)体部:指オサエ	外)橙 内)橙	石、長、結	
51	A区 F-7 包含層	土師器 杯	22%	13.1	-	7.1	-	(3.6)	-	外)口縁体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)口縁体部:回転ナデ	外)灰白 内)淡黄	長	
52	A区 包含層	土師器 杯	35%	-	-	8.0	-	(1.9)	-	外)体部:ナデ、底部:ヘラ切り後ナデ 内)体部:回転ナデ	内)外)にぶい赤褐	長、石、赤、 結	
53	A区 H-13 包含層	土師器 杯	50%	-	-	(7.0)	-	(2.1)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)体部:回転ナデ	外)橙 内)橙	石、赤、結	
54	A区 F-3 包含層	土師器 杯	80%	-	-	6.5	-	(1.5)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 内)体部:回転ナデ	外)にぶい橙 内)にぶい橙	雲、赤	
55	A区 包含層	土師器 杯	60%	-	-	6.5	-	(0.8)	-	外)体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り 内)底部:回転ナデ	外)明赤褐 内)明赤褐	結	
56	A区 包含層	土師器 小皿	50%	-	-	(6.8)	-	(1.0)	-	外)底部:回転ヘラ切り 内)底部:回転ナデ	外)明褐 内)明褐	結	
57	B区 包含層	須恵器 羽釜	14%	-	-	-	鏝径 20.3	(5.5)	-	外)口縁体部:ヨコナデ 内)口縁体部:ヨコナデ	外)灰白 内)灰白	雲、赤	
58	A区 G-8 包含層	土師器 羽釜	12%	25.0	-	-	-	(3.8)	-	外)口縁部:指オサエ後ヨコナデ・ナデ、体部:指オサ エ後板ナデ 内)口縁部:指オサエ後ナデ	外)赤褐 内)にぶい赤褐	雲、赤、長、 石	
59	A区 H-11 包含層	須恵器 椀	15%	11.0	-	-	-	(3.5)	-	外)口縁体部:ロクロ 内)口縁体部:タテハケ?・ロクロ後ヘラミガキ3条	外)灰オリーブ 内)灰	赤、雲、白	
60	A区 包含層	須恵器? 椀	70%	-	-	6.0	-	(1.6)	高台高 0.6	外)体部:ナデ、底部:貼付高台 内)体部:ナデ	外)灰白 内)灰白	頁、雲	西村系?
61	A区 G-5 包含層	須恵器 こね鉢	12%	23.6	-	-	-	(4.3)	-	外)口縁体部:ロクロ 内)口縁体部:ロクロ	外)青灰 内)青灰	雲、頁、長	東播系
62	A区 包含層	須恵器? 甕?	-	-	-	-	-	(4.8)	-	外)体部:タタキ 内)体部:ナデ 不完全燃焼で白っぽい色調	外)淡黄 内)淡黄	石、雲、結	

番号	遺構名 出土地点	器種	残存 率	口径 (cm)	体部 最大 径 (cm)	底径 (cm)	頸部径 (cm)	器高 (cm)	その他 の法量 (cm)	技法・文様	色調	胎土	搬入 品
63	A区 G-8付近 包含層	須恵器? 甕?	-	-	-	-	-	(4.1)	-	外) 体部: 格子目タキ 内) 体部: 青海波紋	外) 暗灰黄 内) ぶい黄	石、結	
64	A区 H-13 包含層	陶器 天目茶碗	11%	11.5	-	-	-	(3.2)	-	外) 口縁体部: ロクロナデ・施釉 内) 口縁体部: ロクロナデ・施釉 内外面鉄釉	内・外) くらいグレイ みのブラウン		
65	B区 包含層	陶器 碗	32%	-	-	高台径 (4.2)	-	(2.1)	高台高 0.6	外) 体底部: 回転ナデ、底部: ケズリ出し高台 内) 体底部: ナデ、内外面に施釉 高台内外体下外面無釉	外) ベージュ 内) グレイみの黄		
66	A区 包含層	陶器 壺?	17%	-	(10.1)	-	-	(7.5)	-	外) 体部: ロクロナデ、施釉 内) 体部: ヨコナデ	外) グレイみの黄緑 内) グレイみの黄		
67	A区 G-3 包含層	陶器 甕	53%	28.0	-	-	-	(2.6)	-	外) 口縁部: ナデ、頸部: ヨコナデ 内) 頸部: ヨコナデ	内・外) ブラウン みのゴールド	結	
68	A区 C-4 包含層	陶器 播鉢	15%	-	-	(13.4)	-	(4.7)	-	外) 体部: 回転ナデ、底部: (回転ヘラ切り) 後ナデ 内) 体部: ナデ後スリ目 (3条/cm)	内・外) ぶい赤褐	長	
69	A区 包含層	磁器 蓋	80%	-	-	-	-	1.4	つまみ径 (2.8cm)	外) 施釉 内) その他: 回転ナデ・施釉	外) くらい黄 内) グレイみの黄		
70	A区 E-3 包含層	青磁 碗	80%	-	-	高台径 4.9	-	(2.1)	高台高 0.4	外) 体部: ロクロナデ、底部: 回転ヘラ切り、その他: 高台内量付無釉 内) 体底部: ロクロナデ、底部: 見込み文様有り	内・外) グレイ みの黄緑		
71	A区 G-9 包含層	青磁 碗	-	-	-	-	-	(2.3)	-	-	内・外) うすい黄 緑	雲、赤	
72	A区 G-8付近 包含層	青磁 碗	7%	-	-	-	-	(2.7)	-	外) 口縁体部: 回転ナデ 内) 口縁体部: ナデ 釉	内・外) グレイ みの オリーブグリーン		
73	A区 包含層	磁器 皿	40%	9.0	-	高台径 (3.8)	-	2.7	高台高 0.7	外) 口縁体底部: ロクロナデ、その他: 量付無釉 内) 口縁体部: ロクロナデ、底部: ナデ、その他: 底内面 釉はぎ取り	外) 黄みの白 内) 黄みの白		
74	B区 包含層	磁器 皿	60%	-	-	3.3	-	(1.3)	高台高 0.3	外) 口縁体部: 施釉、底部: ケズリ 内) 体底部: 施釉	外) 黄みの白 内) 黄みの白		
75	B区 包含層	磁器 皿	23%	(14.2)	-	3.9	-	2.7	高台高 0.13	外) 口縁体底部: ロクロ・施釉 内) 口縁体底部: ロクロ	外) 黄みの白 内) 黄みの白		
76	A区 F-7 包含層	土師質 瓦(軒平?)	-	-	-	-	-	-	重量 101.1g	-	外) 明赤褐 内) ぶい橙	石、長、赤、 結	

第8表 山田遺跡（Ⅱ）発掘調査 出土遺物観察表 木製品

番号	遺構名・出土地点	器種	口径 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	備考
78	包含層	杯身	12.6	13.8	5.0	2.1	内・外)黒	刳りぬき一木づくり
79	(A)F-3 包含層	櫛	(全長)10.0	(幅)1.5	(厚さ)0.45	(重さg)5.6	黒漆の塗布?	3層

第9表 山田遺跡（Ⅱ）発掘調査 出土遺物観察表 石器

番号	遺構名・出土地点	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
49	A区 SP1175	凝灰石	砥石	11.7	2.65	21.5	96.5	長側面4面使用
77	B区 I・J -13 包含層	結晶片岩	敲石	10.25	8.6	4.1	601.1	

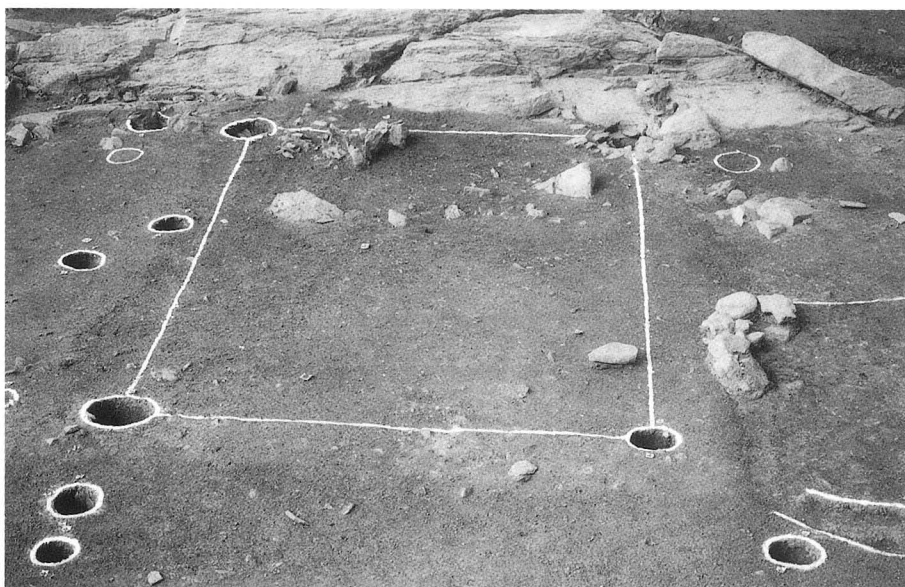
第10表 山田遺跡（Ⅱ）発掘調査 出土遺物観察表 鉄製品

番号	遺構名・出土地点(グリッド)	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
5	SP1073	釘	鉄	4.9	0.9	0.85	3.3	
27	SJ1001	釘	鉄	4.4	2.0	1.1	8.7	
33	ST1001	釘	鉄	3.6	0.9	0.6	2.1	
34	ST1001	釘	鉄	3.25	0.7	0.75	2.0	
80	H-5 包含層	鈍	鉄	10.0	1.5	0.6	26.55	
81	B区 包含層	刃子	鉄	12.7	2.4	0.7	40.8	
82	(A)G-8付近 包含層	刃子	鉄	4.6	1.1	1.3	6.33	
83	H-8 包含層	釘	鉄	6.4	1.5	1.3	29.1	
84	H-8 包含層	鏝?	鉄	3.9	2.2	1.3	17.8	
85	包含層	釘	鉄	3.3	1.3	0.7	3.1	
86	(B区) 包含層	釘	鉄	3.05	1.2	0.95	3.5	
87	(A)G-6 包含層	釘	鉄	3.1	0.95	0.95	3.8	
88	E-3 包含層	釘	鉄	5.9	1.4	1.3	9.1	
89	H-5 包含層	釘	鉄	7.3	2.0	1.6	27.9	
90	H-5 包含層	釘	鉄	6.6	1.0	0.8	6.7	

山田遺跡(Ⅱ) 図版1



調査地全景(南から)



SA1007完掘状況



完掘状況(南東から)



ST1001遺構検出状況（南東から）



ST1001完掘状況（西から）

図版 3



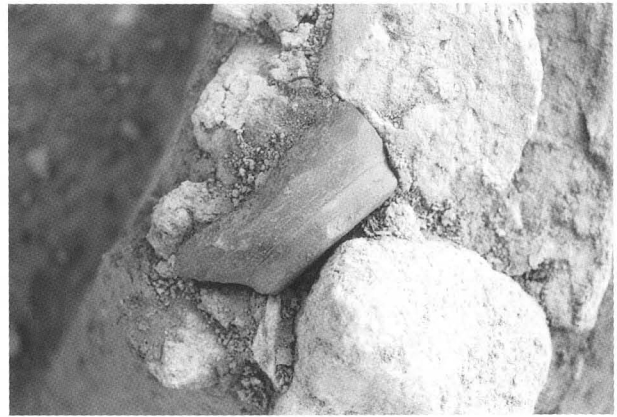
SD1001遺物出土状況



ST1001遺物検出状況



ST1001 (骨) 出土状況



SJ1001遺物出土状況



SJ1001遺構検出状況



SU1001遺構検出状況



SU1001遺物出土状況



SU1001遺物出土状況



SP1038遺物出土状況



SP1053遺物出土状況



SP1055遺物出土状況



SP1072遺物出土状況



SP1072遺物出土状況



SP1073遺物出土状況



SP1172遺物出土状況



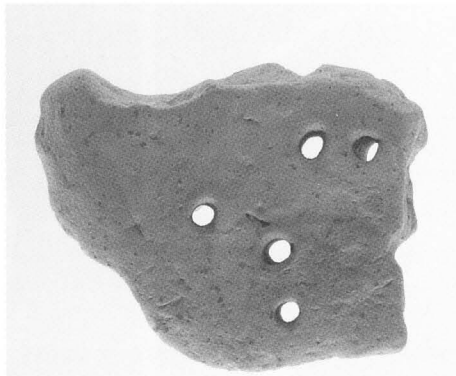
SP1172遺物出土状況

图版 5



SD1001

17



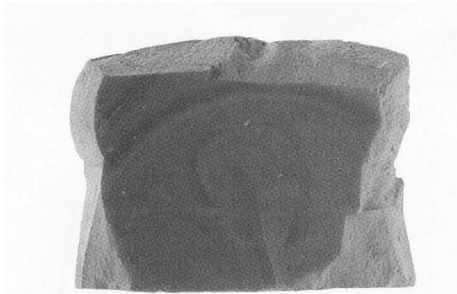
SJ1001

18



SJ1001

19



SJ1001

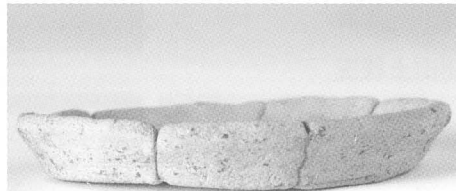


SJ1001

21



22



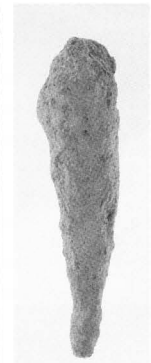
SJ1001

30



ST1001

33



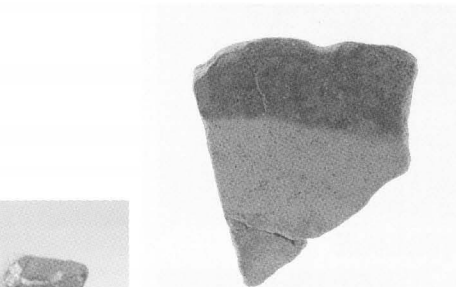
ST1001

34



SJ1001

23



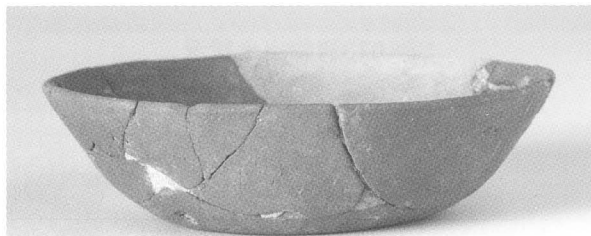
SJ1001

20



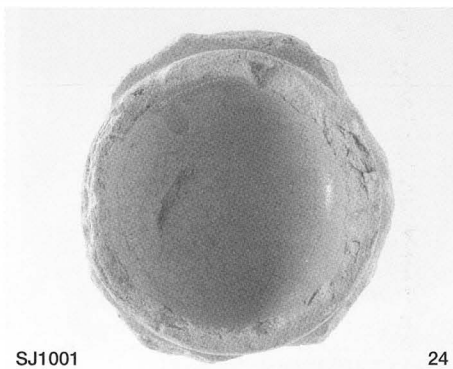
SJ1001

26



SU1001

35



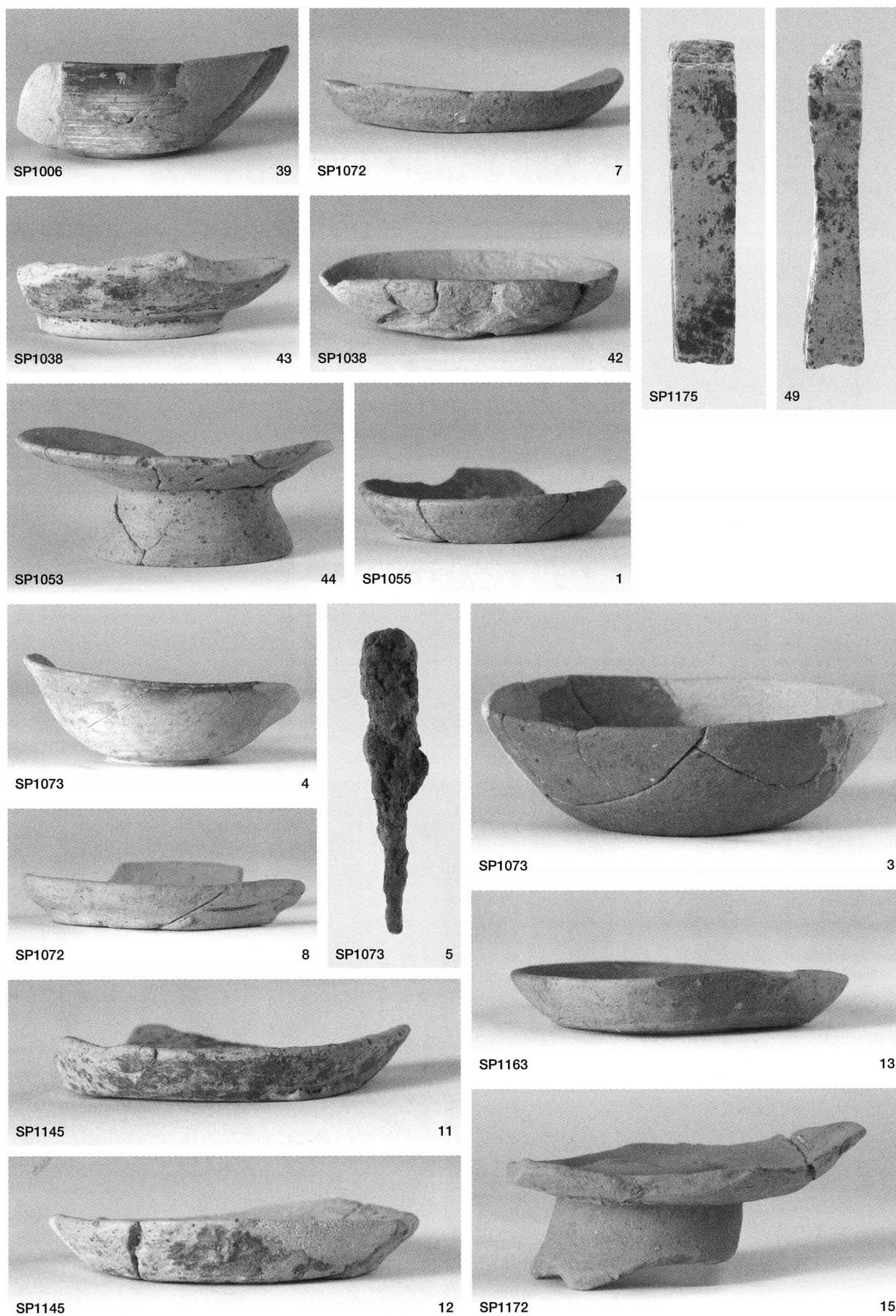
SJ1001

24

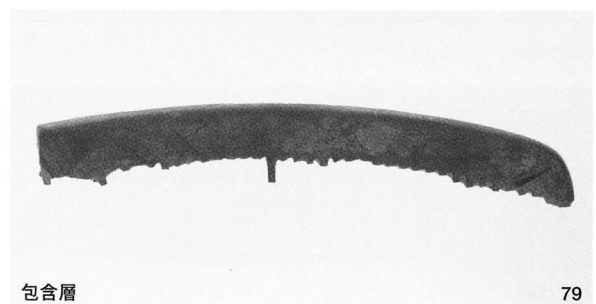
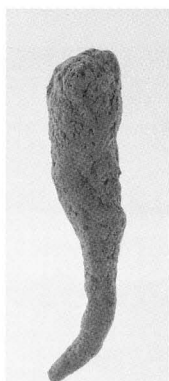
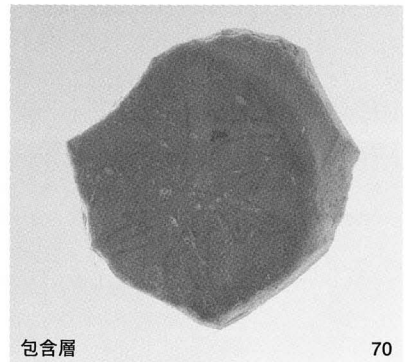
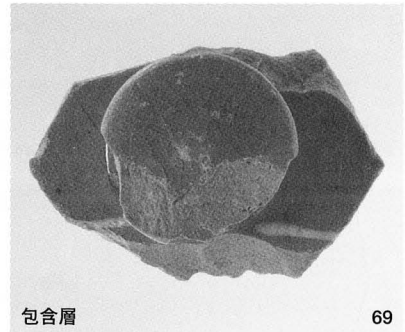
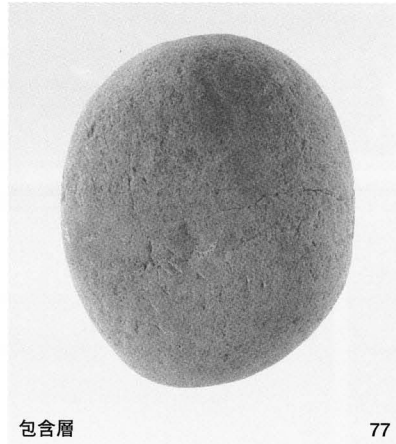
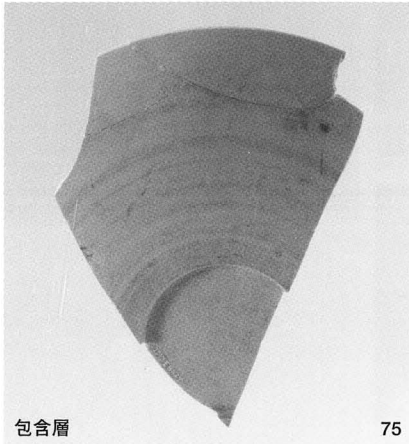
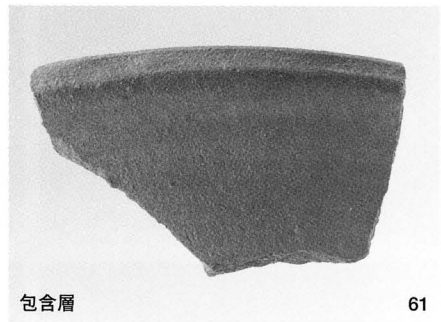
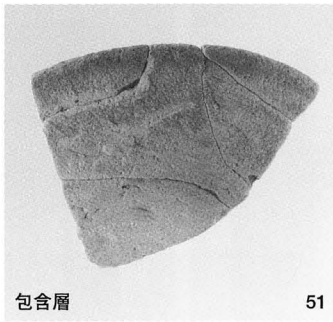


SU1001

36



图版 7



VIII 山田遺跡 (I)

1. 本章は三好郡池田町字ヤマダ557ほかに所在する山田遺跡（Ⅰ）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査期間および報告書作成の期間は、第Ⅰ章の本文および第2・3表にまとめてあるので、参照されたい。
3. 本章の遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・図版と一致する。
4. 本遺跡の地理的・歴史的環境については、『四国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査報告18 大柿遺跡Ⅰ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第37集の第Ⅱ章を参照されたい。
5. 縄文土器および石器の観察にあたっては、次の方に様々な御指導・御教示を得た。記して感謝致します。（敬称略）

久保脇 美朗 湯浅 利彦 原 芳伸

1 調査の経過

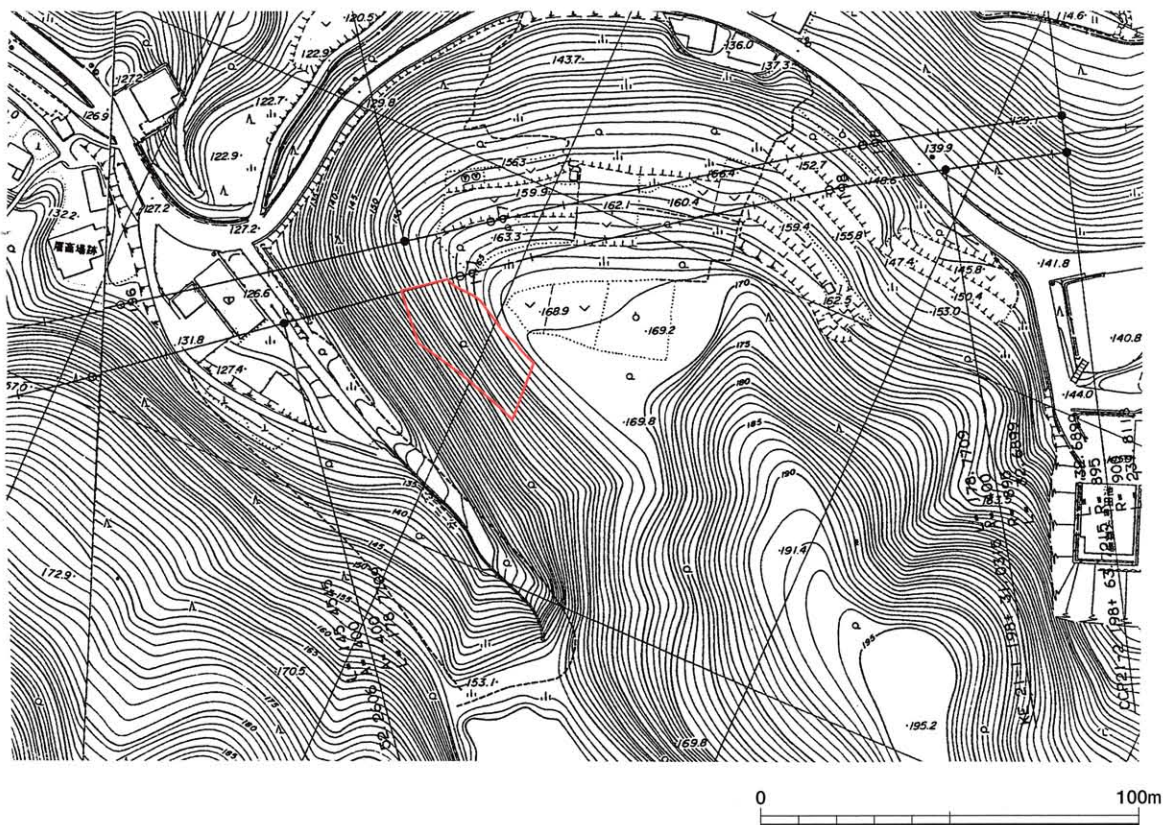
(1) 調査の経過

山田遺跡（Ⅰ）は四国山地の一塊の尾根が北側に向けて張り出す南西斜面に占地し、吉野川の支流である島山谷川に沿った標高150～170mを測る急傾斜地にある。

事前の分布調査では、尾根の南西側急斜面に結晶片岩の巨石が大きく張り出し、庇状を形成していることから岩陰遺跡の存在が予想された。試掘調査は、第1次調査が平成6年9月5日～9月12日、第2次調査が平成6年11月22日～11月30日にかけて尾根全域を対象として行われた。試掘調査面積は53m²である。

その結果、尾根北東側斜面では遺構・遺物ともに確認できなかったが、巨石がある西側斜面では時期不明の土器片が出土しており且つ地形的な条件から岩陰遺跡である可能性が高いと考えられ、本調査に実施が必要であると判断し、平成8年8月1日～9月30日の期間で本調査を行った。

調査地はかなりの急傾斜地で、重機の進入も不可能であり発掘器材の搬入はトロッコを使用した。また掘削にあたっては落盤や転落に危険性を考慮しながら作業を進めるため、非常に困難を極めた。



第1図 調査地位置図

(2) 発掘調査の方法 (第2図)

発掘調査を始めるにあたりグリッドの配置は発掘調査統一基準にならい、第IV系国土座標を基準として、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込むかたちで設定した。南西隅のX=113.140、Y=29.575の座標値を起点として北にA、B、C・・・、東に1、2、3・・・の順に番号を振り、その組み合わせで各グリッドを表すことにした。

発掘調査に先立って調査地全域において平板による測量調査を実施した。遺跡は標高146.5～169.5mを測る北東から南西に下る急傾斜地に立地している。よって掘削重機が進入することができないために調査地全体の発掘は見送ることにして、かつ調査地が狭く傾斜も急であるため岩陰を中心にトレンチによる掘削方法を採用した。

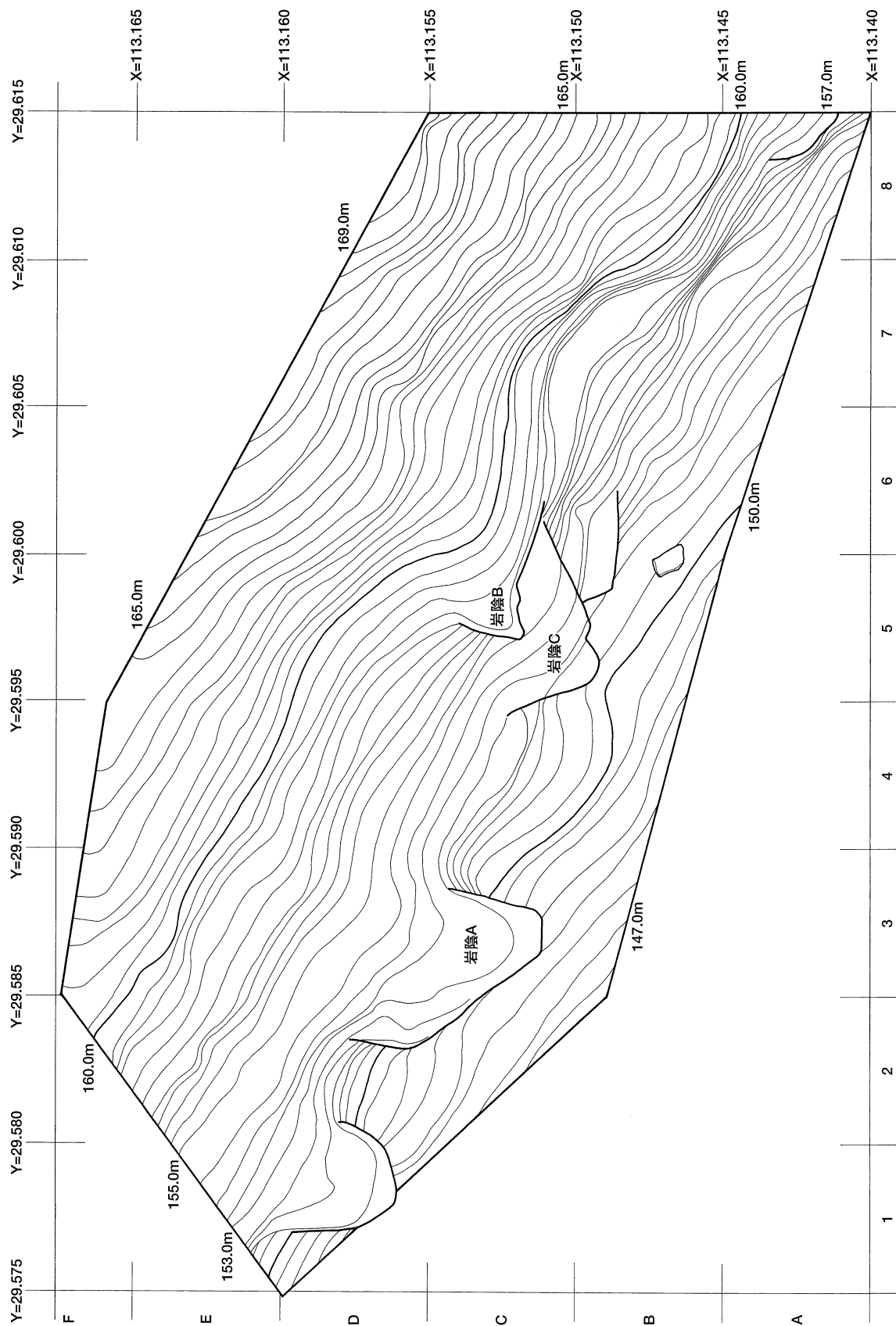
岩陰Aにおいて庇状にせり出した部分を中心に5ヶ所のトレンチを設定した。トレンチは岩陰の最も奥まった部分に向かい、左側の岩陰寄りをAトレンチ、その南西側をBトレンチ、そこから東側に順次Cトレンチ、Dトレンチ、Eトレンチとした。

岩陰BにおいてはAトレンチ1ヶ所の設定であるが、トレンチの西辺を岩陰CのAトレンチ西辺と同一線上になるように設定した。

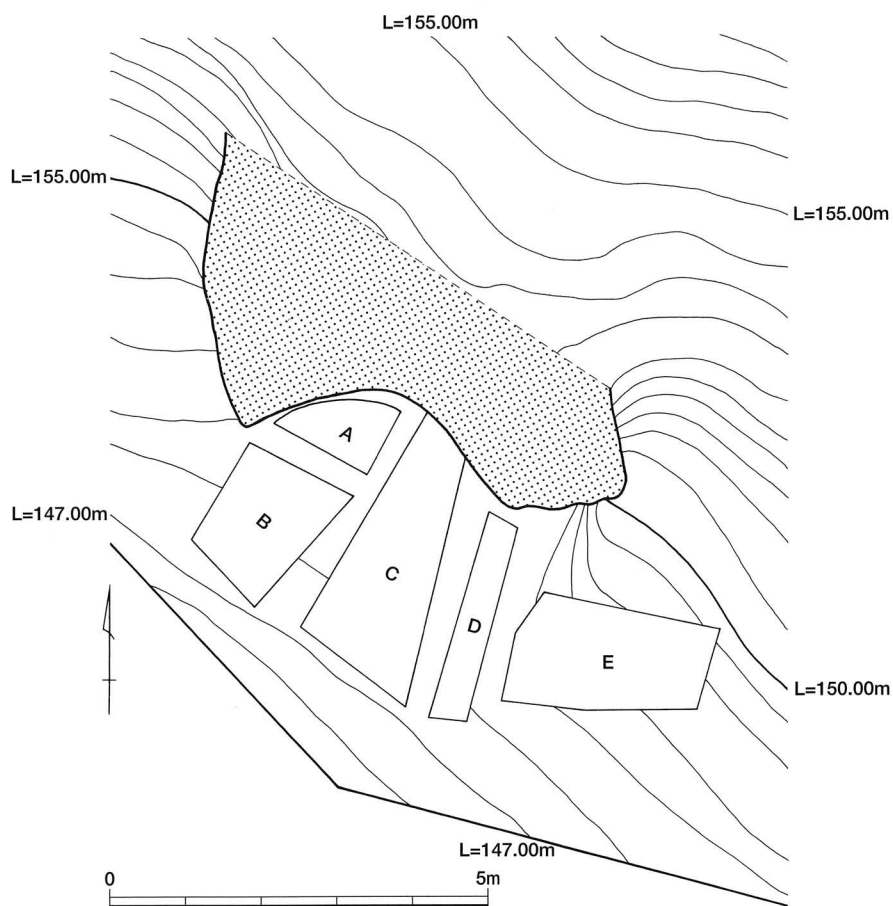
岩陰Cにおいては西からAトレンチ、Bトレンチの2ヶ所を設定し、そのうちのAトレンチは西辺を岩陰BのAトレンチの西辺と同一線上に設定し、階段状を呈する岩陰B、岩陰Cを通し断面で観察できるようにした。また、Aトレンチから約2m東の位置でBトレンチを設定した。

(3) 調査日誌抄

1996 (平成8) 年	8月21日	岩陰A遺物出土状況写真撮影
7月 発掘調査準備 (~26日)	8月22日	岩陰B土層断面図作成
8月1日 調査区1/100地形測量開始	8月23日	落盤石検出作業ほぼ終了
8月7日 土止柵、排土運搬等 機材搬入および設営	8月27日	岩陰B・C立面図終了 岩陰A写真撮影・作図
8月8日 調査区1/100地形測量終了	9月2日	岩陰A土壌サンプル採取
8月19日 人力掘削開始、 岩陰A・B・Cトレンチ設定、掘削	9月6日	岩陰A最終面作図 ダメ押しトレンチ掘削および写真撮影
8月20日 岩陰A・B岩盤まで検出 岩陰B完掘状況写真撮影	9月9日	撤収準備
	9月10日	とりまとめ



第2図 地形図



第3図 岩陰Aトレンチ配置図

2 調査成果

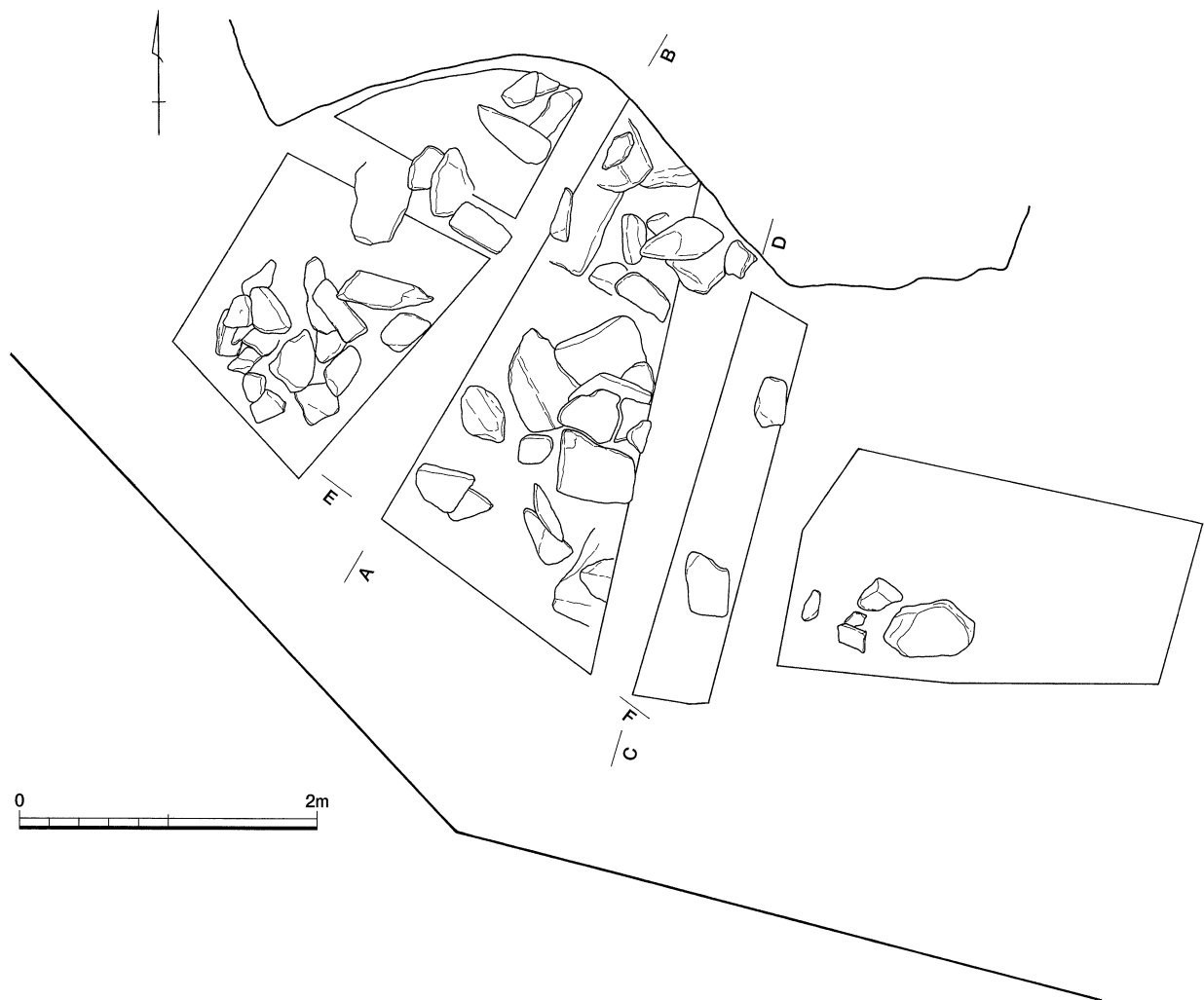
(1) 基本層序 (第5・14・15図)

第1層は明赤褐色を呈する砂質土である。表土を形成する腐葉土で、現地表面である。第2層は褐色を呈する砂質土である。この層が遺物包含層に該当し、岩陰を形成する岩の落盤石が著しく堆積し、縄文土器片や石器を含んでいる。3・4層がいずれもにぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する地山層である。第3層が岩盤風化土により構成され、第4～6層は岩盤層となり非常にしまっている。堆積層となる第1～3層の層厚は、岩陰に近づくにしたがって30～40cmほどに薄くなる。

第3層上面は第1遺構検出面と判断でき、焼土の面的な広がりをも2ヶ所で確認できている。断面観察を行ってみると、岩陰の直下では比較的平坦面をつくり出しているのに対し岩陰の奥壁から1～1.6mほど離れた付近から急激に傾斜し周辺地形に同化する。

(2) 遺構と遺物

山田遺跡 (I) として岩陰をのぞく遺構、遺物が確認できたのは岩陰Aに限定される。よって、ここ



第4図 岩陰A平面図

では岩陰Aの調査成果を中心に述べていくことにし、岩陰Bおよび岩陰Cについては概略についてふれることにする。

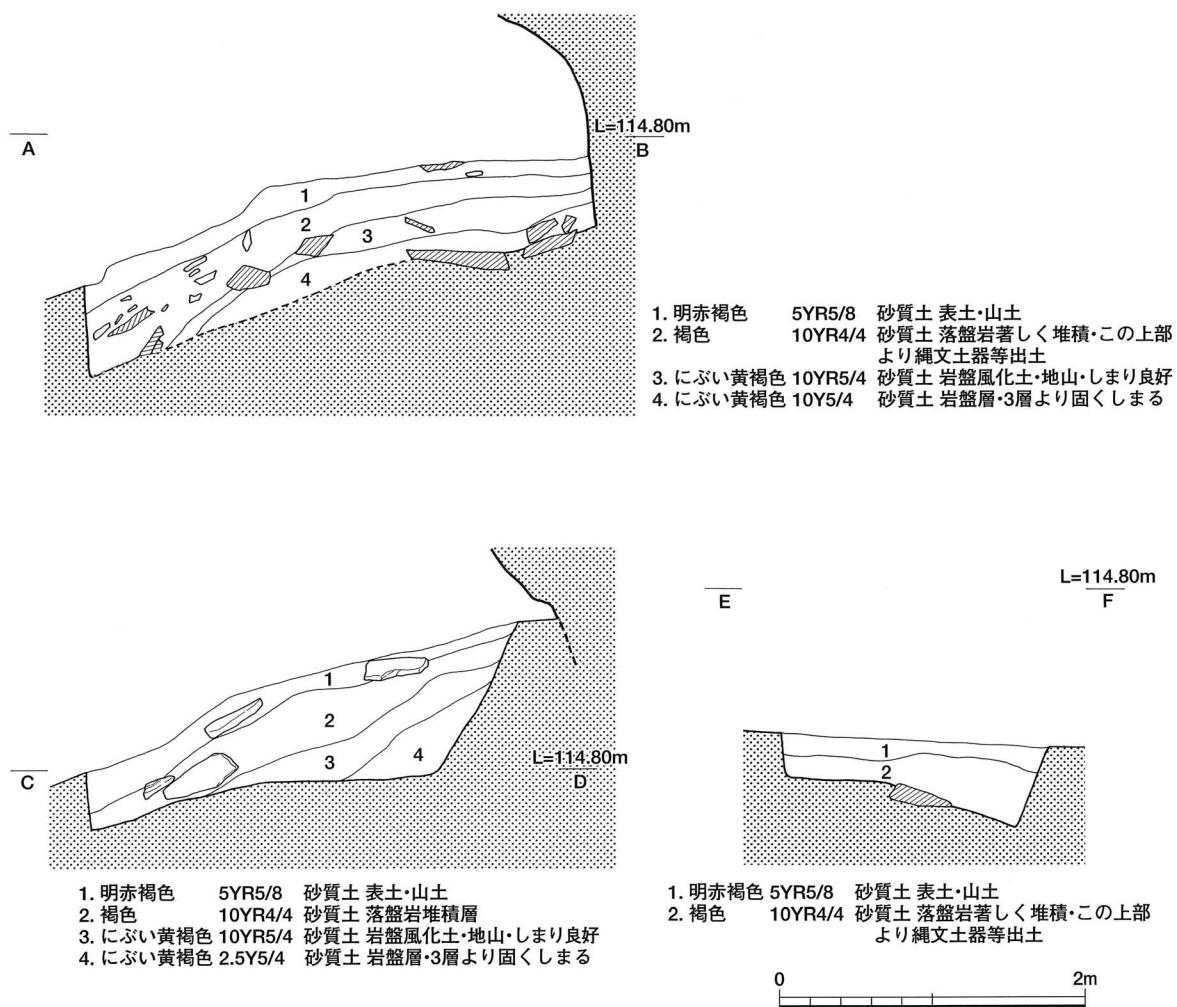
岩陰A（第3～12図）

調査区の南西隅に位置する。南西斜面に庇状に突き出た結晶片岩の巨石が岩陰を形成している。岩陰の規模は高さ約6m、幅約3mを測り、基底部から庇状に約1.2mせりだす。遺跡の南西側に位置する島山谷川までは直線距離にして約20m、比高差は20mを測る。

岩陰直下の平坦部は調査前の現況で幅4m、最奥部からの長さ2.1mを測り、ほぼ長方形を呈し、北東から南西へやや傾斜する。

第3層（地山）上面まで掘り進めたところ、岩陰の崩落石が多量に検出された（第4図）。この崩落石は全て結晶片岩礫で20～50cm大を測り、全て傾斜面にあわせて傾いた状態で出土している。岩陰の南東側からが最も多く崩落石の規模も大きかったことから、岩陰の南東側を中心に天井部全体から崩落があったことがわかる。

崩落石の除去後確認できた地山面は、トレンチ内で標高146.5～147.5mを測る。岩陰直下の平坦部は調査前の現況よりはわずかに狭く、幅約4m、最奥部からの長さ1.6m、天井部までの高さおよそ1.5m



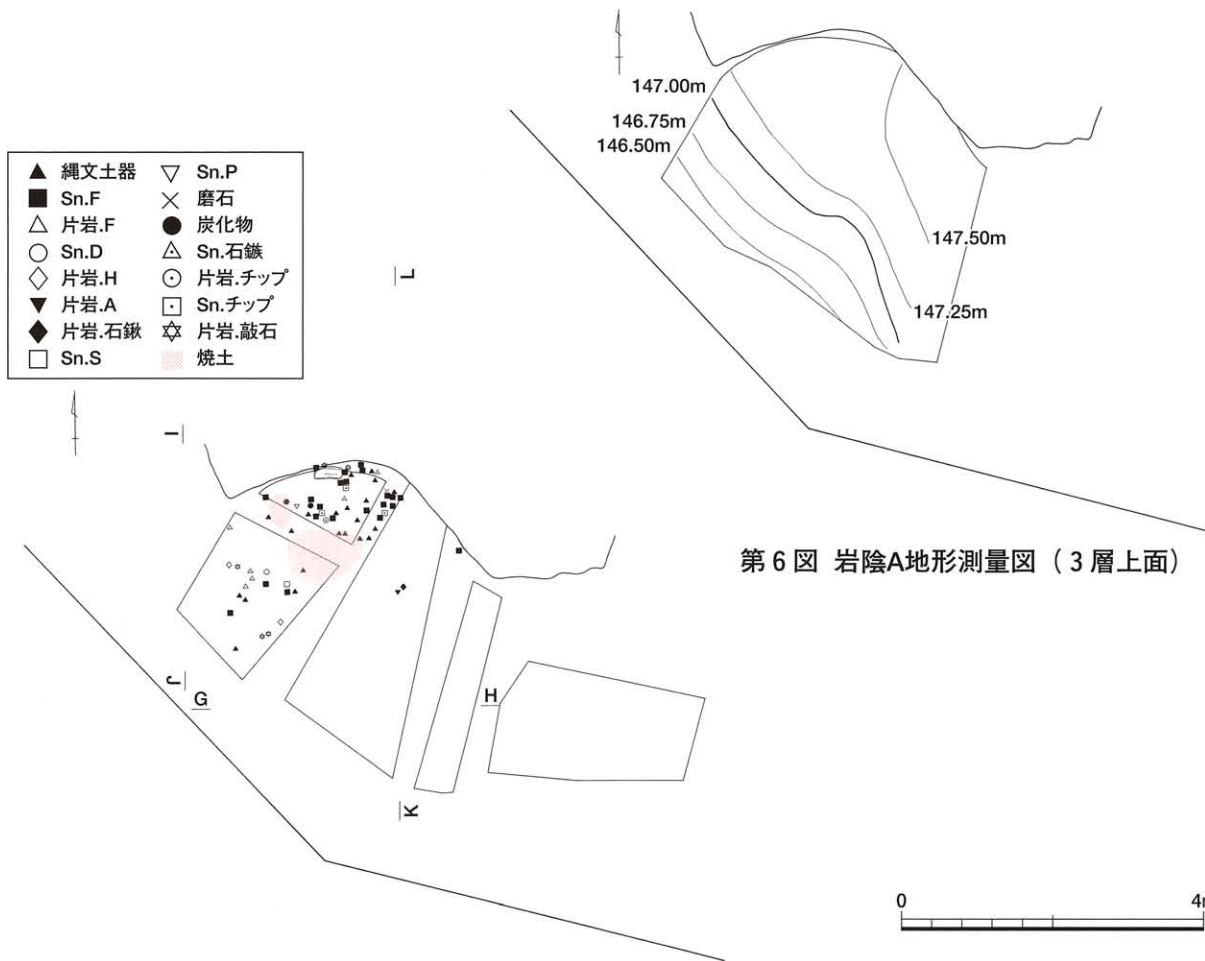
第5図 岩陰A断面図

を測り、平面形は菱形を呈する。またこの地山面においてA・Bトレンチ間から、図中アミ掛けで示した、焼土および炭化物が集中する焼土面と思われる範囲を2ヶ所検出した。南東側の焼土面は長軸1m、短軸0.75m、北西側の焼土面は長軸0.5m、短軸0.3mを測る広がりを見せていたが、両者とも掘り込みなどは確認できず、痕跡のみである。ほかに遺構の検出はなかった。

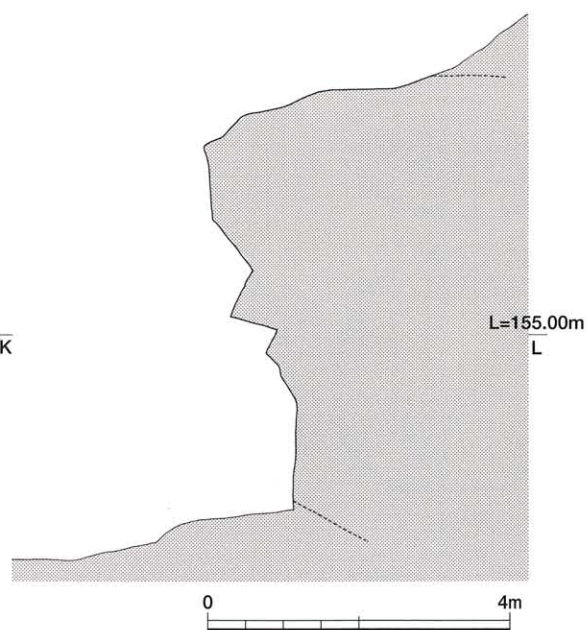
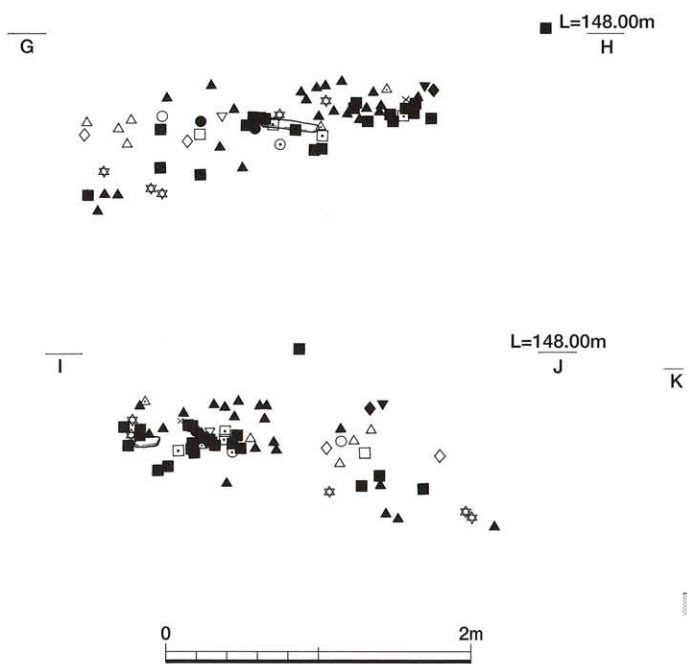
遺物出土状況 (第4・7・8図)

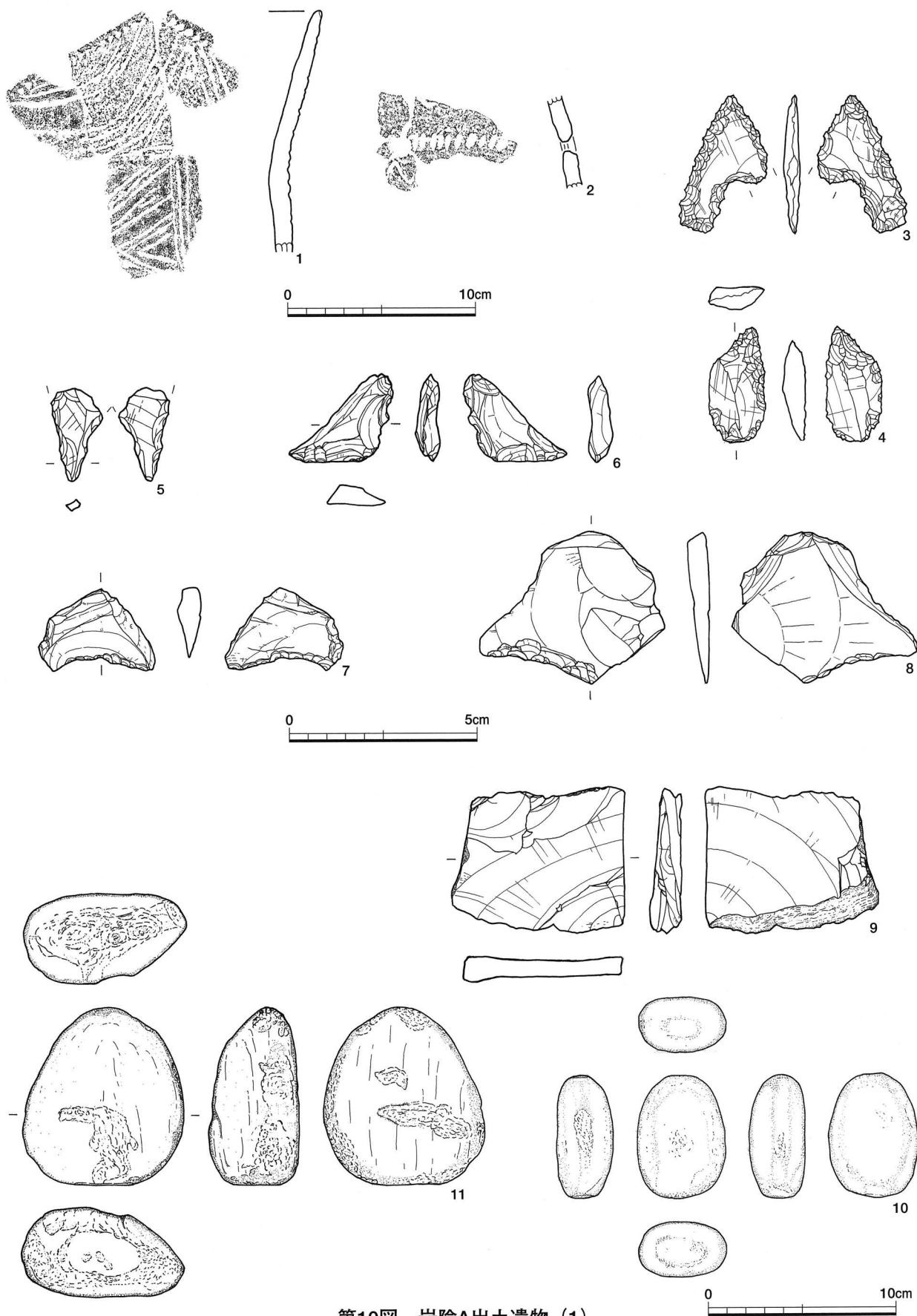
遺物は主に岩陰の北西側を分布の中心にして、そこから南西側まで出土の広がりをみせる。出土量は岩陰直下の北西側からが最も多く、次いでその南西側で底部分から外に出てしまう範囲である。また、岩陰の奥壁に向かって右側の南東部分からは3点ほどが出土したのみで、ほかは何も出土しなかった。遺物出土分布の中心は岩陰直下であり、その内容は縄文土器片とサヌカイトの剥片が主体を占める。そこにサヌカイトおよび結晶片岩のチップや敲石、磨石などがみられる。

そこで注目すべき点は、岩陰の最も奥まった部分に結晶片岩の石皿がありその周辺に剥片および敲石が出土していることと、そこからわずかな分布の隙間をあけたあと土器片が多く出土する範囲があり、さらにその外側の庇状部分が終了する直下に焼土面があるという遺物出土分布域の違いが読みとれることである。

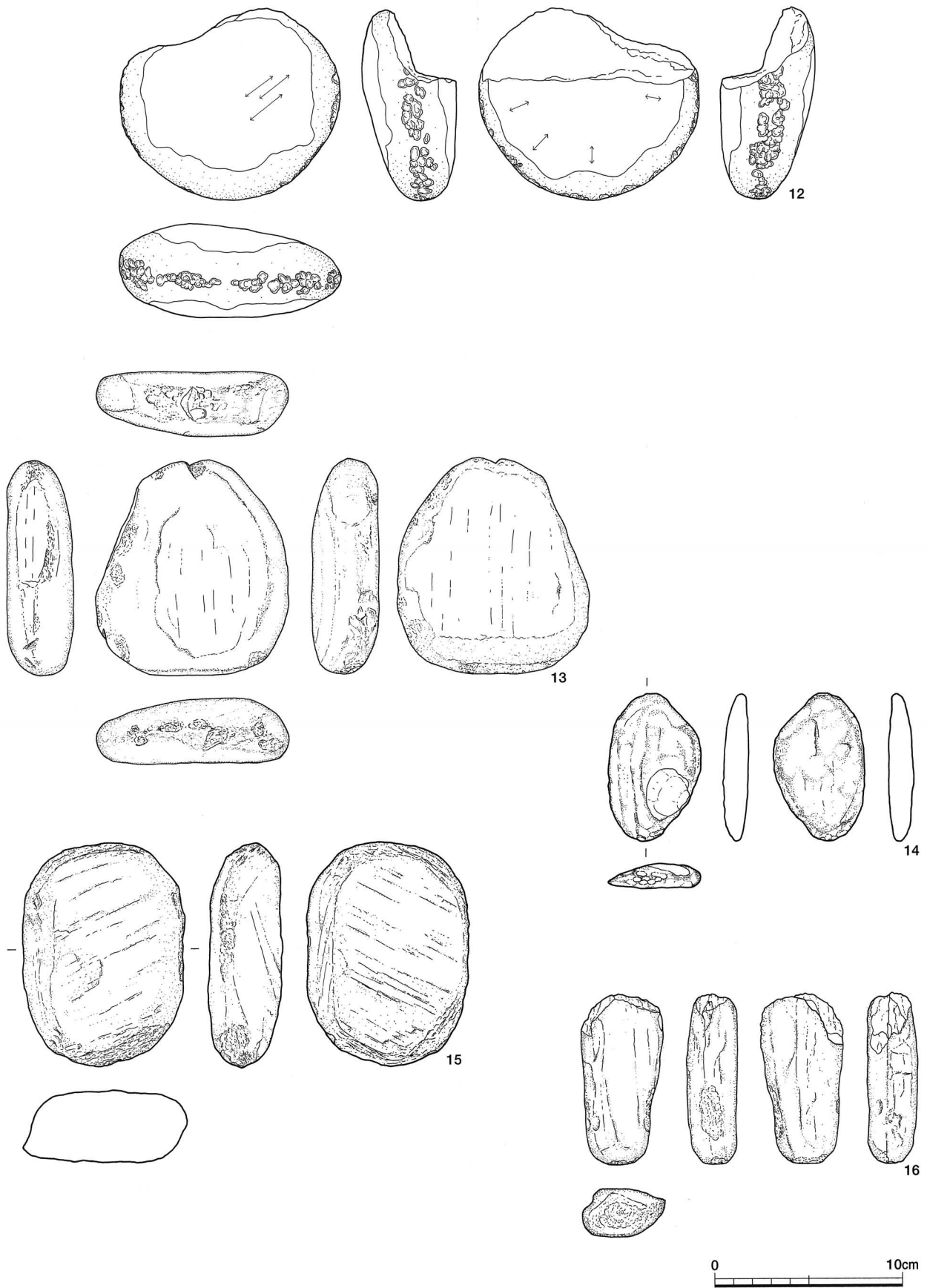


第7図 岩陰A遺物出土状況図

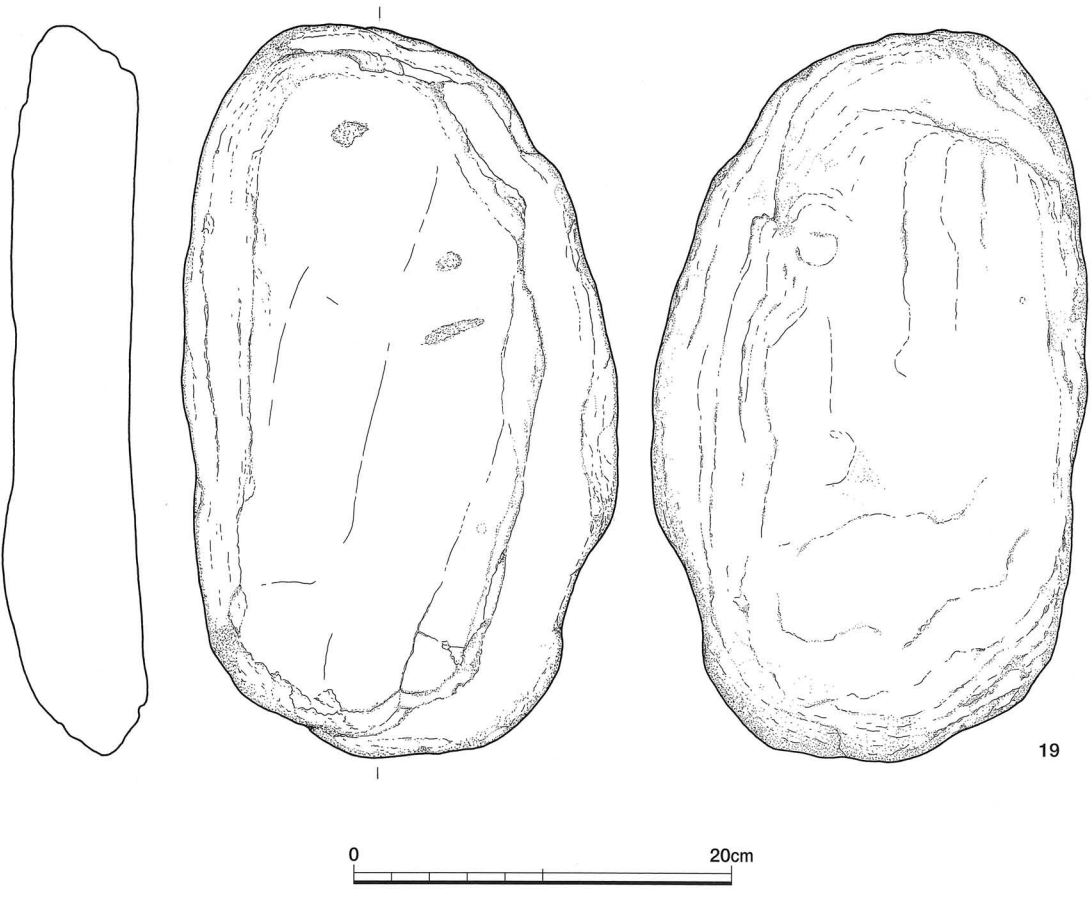
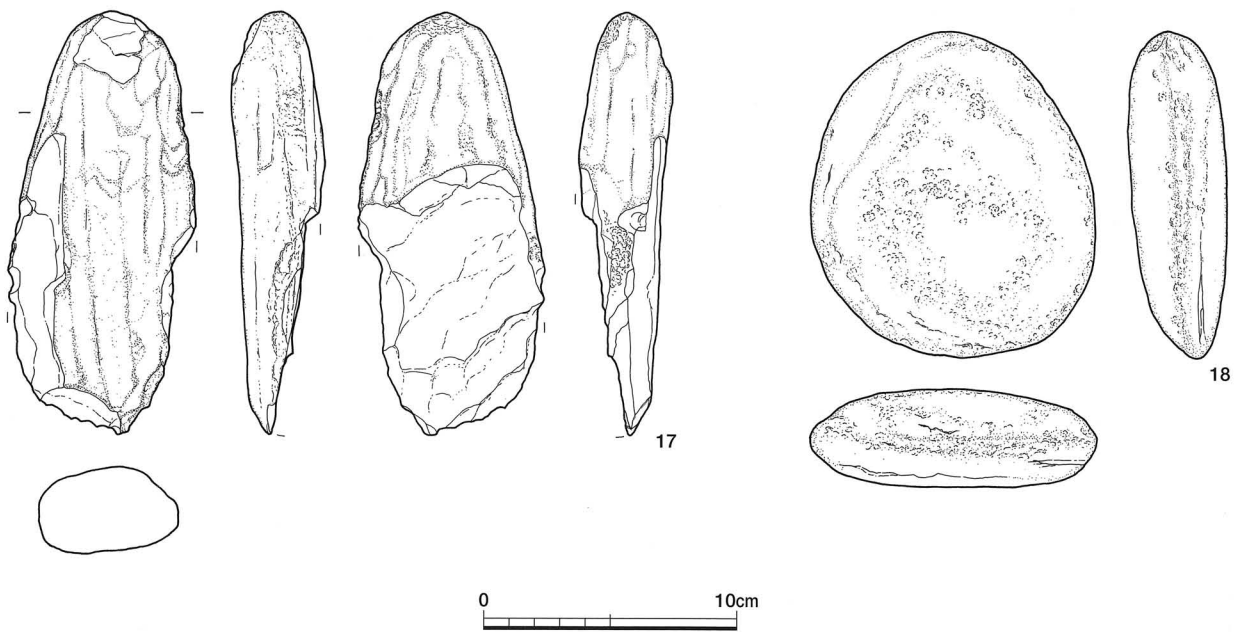




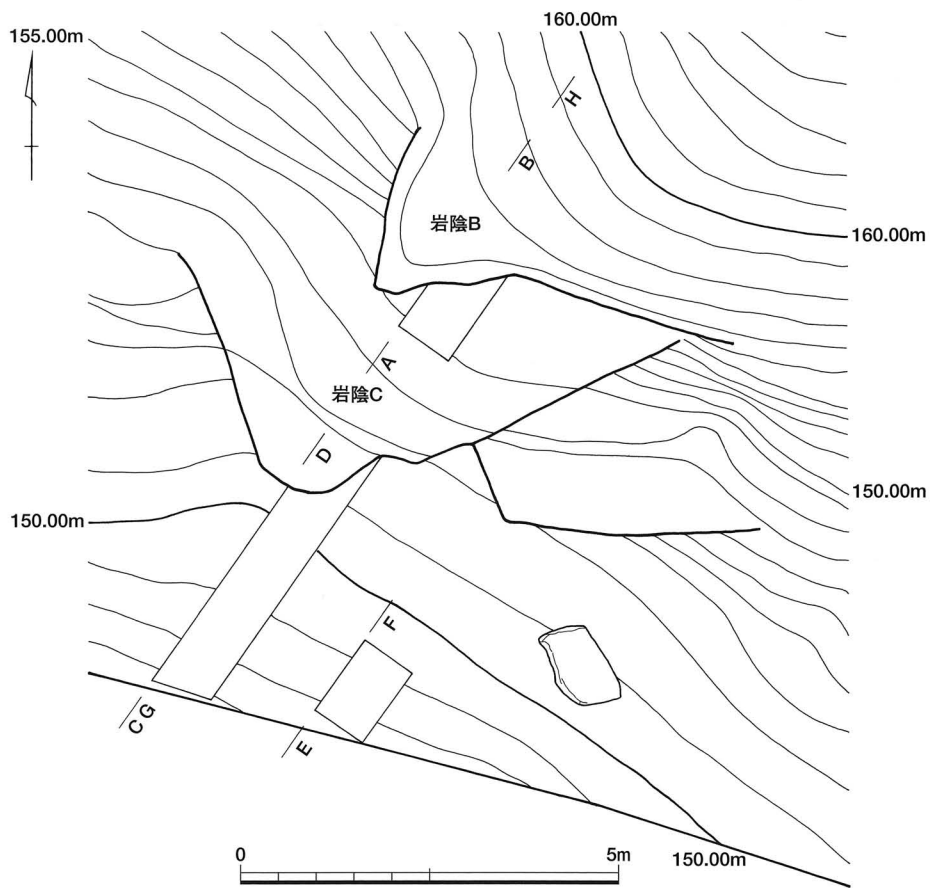
第10図 岩陰A出土遺物 (1)



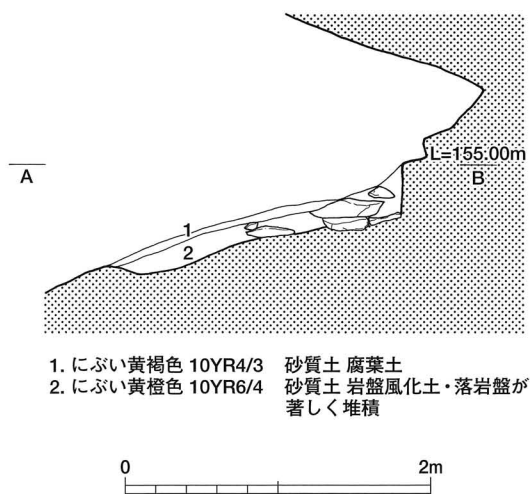
第11图 岩陰A出土石器 (2)



第12図 岩陰A出土石器 (3)



第13図 岩陰B・Cトレンチ配置図



1. にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質土 腐葉土
 2. にぶい黄橙色 10YR6/4 砂質土 岩盤風化土・落岩盤が著しく堆積

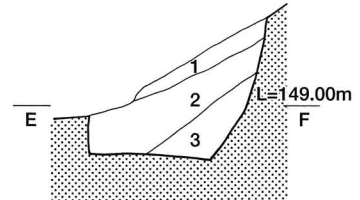
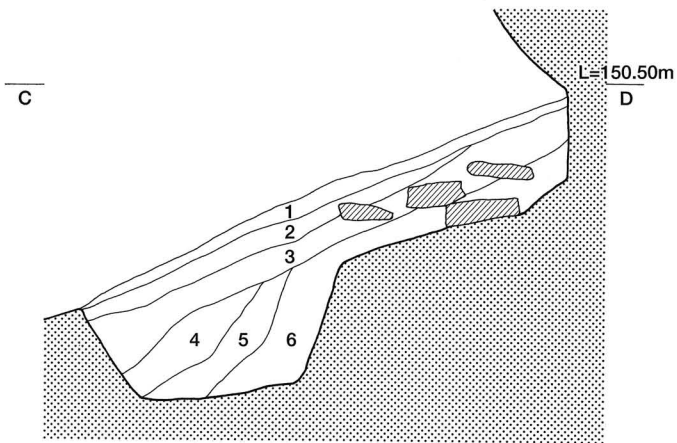
第14図 岩陰B断面図

また、出土層位をみてみると、地山直上の2層中からが最も多く、次いで1層からとなり、ほぼ地山面に沿って出土している。

出土遺物 (第10~12図)

1は山形の波状口縁をもつ深鉢である。口縁端部にキザミをもち外面には3条で一単位を構成する沈線による重弧文が施され、その下位に沈線単位は重弧文と同様な直線文を施している。胎土中には金雲母を多量に含むことから、搬入品と考えられる。2は外面に爪形文を施す。残存部には焼成前に内外面からの穿孔が1ヶ所認められる。在地の土器である。

3はサヌカイト製の石鏃である。4はサヌカイト製の石鏃で、未製品である。5はサヌカイト製の石鏃である。上半部を欠損する。6はサヌカイト製の楔形石器と思われる。両極打法により剥片の剥離を行っている。また、剥片の左側縁を折断して器形を



- 1. 明赤褐色 5YR5/8 砂質土
- 2. 褐色 10YR4/4 砂質土 腐葉土
- 3. 褐色 10YR4/6 砂質土 落盤岩が著しく堆積
- 4. 褐色 10YR4/4 砂質土 落盤岩が著しく堆積
- 5. 褐色 10YR4/4 砂質土 岩盤風化土・落盤岩が著しく堆積
- 6. 褐色 10YR4/4 砂質土 落盤岩が著しく堆積・岩盤

- 1. 褐色 10YR4/6 砂質土 落盤岩が著しく堆積
- 2. 褐色 10YR4/4 砂質土 岩盤風化土・落盤岩が著しく堆積・地山
- 3. 褐色 10YR4/4 砂質土 落盤岩が著しく堆積・岩盤



第15図 岩陰C断面図



第16図 岩陰B・C断面図

整えている。下縁にあたる作業面には加工痕をとどめる。7～9はサヌカイト製の剥片である。7は両極打法により剥片をつくり出している。幅広の剥片の下縁に微細な剥離痕（使用痕）が認められる。8は幅広の剥片を使用している。また、下縁には微細な剥離痕（使用痕）が認められる。表面の風化が著しく、白色がつよい。9は横長の剥片を用い、両極打法により剥片の剥離を行っている。上・左側縁に自然面が残存する。また、右側縁を折断し器形を整えている。下縁には微細な剥離痕（使用痕）が認められる。

10は川原自然礫を使用した磨石である。石材には結晶片岩と思われる楕円形礫を用いており、表面と側面部に敲打痕が認められるほか上下端に使用痕を顕著にとどめる。

11、12は敲石・磨石である。11は結晶片岩の垂円礫を石材として用いる。表裏面および周縁に敲打痕が顕著に認められる。下縁に磨面が認められ、磨石としても使用されたものと考えられる。12は結晶片岩の扁平な円礫を石材として用いており、周縁部に敲打痕が顕著に認められる。また、表裏面にかなり使い込まれた磨面が認められ磨石としての機能も兼ねていたものと思われる。

13～18は敲石である。13は結晶片岩の扁平な円礫を石材に用い、周縁部に敲打痕が認められる。敲打痕は上下端にとくに顕著である。14は川原自然礫を用いている。結晶片岩の扁平な楕円礫を石材として使用しており、周縁部に弱い敲打痕が認められる。15は結晶片岩の扁平な円礫（自然礫）を石材として用いる。周縁部に敲打痕をとどめる。16は川原自然礫を使用している。結晶片岩の円柱礫を石材として用いており、下縁および右側縁に敲打痕を顕著にとどめる。上部は使用による際の欠損と思われる。17は石材に結晶片岩の長楕円礫を用いている。上下左右縁に敲打痕が認められる。下縁部は使用による際の欠損と思われる。18は結晶片岩の扁平な礫を石材に用いる。表裏面および周縁部に敲打痕が認められる。

19は石皿である。板状を呈する自然礫を使用する。石材には結晶片岩を用いており、表面には使用痕が認められる。

時期

遺構の時期は出土遺物により特定することは非常に困難であるが、縄文時代早期末～前期初頭頃である可能性が考えられる。しかし、出土土器が小破片であることからこれよりも時期が下る可能性も含まれている。

岩陰B（第13・14・16図）

調査区の中央やや南側に位置する。岩陰Aからは東に15m程隔たったところにある。この岩陰の床面を構成している岩盤は岩陰Cの上面部分にあたり、かつ岩陰Bと岩陰Cは階段状を呈しており、両者は一連の岩塊である。岩陰の規模は高さ約2.8m、幅約2mを測り、基底部から庇状に約1.7mせりだしている。

岩陰直下の平坦部は現況で幅1.3m、最奥部からの長さ0.9mを測り、ほぼ三角形を呈し、北東から南西へやや傾斜する。

地山である第3層上面まで掘り進めたところ、第2層中より岩陰の崩落石が多量に検出された（第14図）。全て結晶片岩礫で20～50cm大を測り、全て傾斜面にあわせて傾いた状態で出土している。

崩落石の除去後確認できた地山面は、トレンチ内で標高154.3～154.6mを測る。岩陰直下の平坦部は調査前の現況よりはわずかに狭く、幅約1.1m、最奥部からの長さ1.6m、天井部までの高さおよそ1.46m

を測る。

出土遺物

岩陰Bからは遺物の出土はなかった。

岩陰C（第13・15・16図）

調査区の中央やや南側に位置する。岩陰Aからは南東に10m程隔たったところにある。この岩陰の庇状に突き出た岩の上面は、岩陰Bの床面部分にあたり、岩陰BとCは階段状を呈する。なお、両者は一連の岩塊で構成されている。岩陰の規模は高さ約3.25m、幅約2.3mを測り、基底部から庇状に約1mせりだしている。

岩陰直下は現況では平坦部をもたず埋没してしまっており、北東から南西へややゆるやかに傾斜している。

地山層である第6層上面まで掘り進めたところ、岩陰直下において崩落石が検出された（第15図）。全て結晶片岩礫で30～50cm大を測り、傾斜面にあわせて傾いた状態で出土しているものもあれば傾斜方向が異なるものもあり様々である。

崩落石の除去後確認できた地山面は、トレンチ内で標高149.3～150.1mを測る。岩陰直下は岩盤自体が傾斜しているため、いずれの堆積層も同様の傾斜をもち、どの段階においても平坦部は形成されていない。

出土遺物

岩陰Cからは遺物の出土はなかった。

3 まとめ

徳島県内における縄文時代早期および前期の遺跡は数少ない。ましてや岩陰遺跡ともなるとさらに少なくなり、本遺跡のほかは那賀町古屋岩陰遺跡¹⁾、三加茂町加茂谷岩陰遺跡群²⁾、など2例を数えるにすぎない。

今回の発掘調査において出土遺物は、全て岩陰Aに限られ、小破片も含めて100点あまりが出土した。石製遺物にはサヌカイトのチップも含まれるため一概に製品の点数として比較はできないが、両者の比率では石製遺物が多いことがわかる。

出土土器について

岩陰Aにおいて比較的良好な状態で出土した土器は、2点を図化するとどまったが非常に特徴的である。とくに1の深鉢については胎土中に金雲母を多量に含んでいることから、明らかに搬入品と考えられる³⁾。その故地については特定できるべくもないが、わずかに推論できる部分がある。

1の外面には沈線による重弧文と直線文が施され、この両者により文様を構成している。全ての沈線は、鋭利な原体を使用しているためか非常に細い。この土器の時期的なものは沈線の特徴などから、早期末～前期初頭に位置づけられる天道ヶ尾式である可能性が考えられるが⁴⁾、断定するまでには至らない。